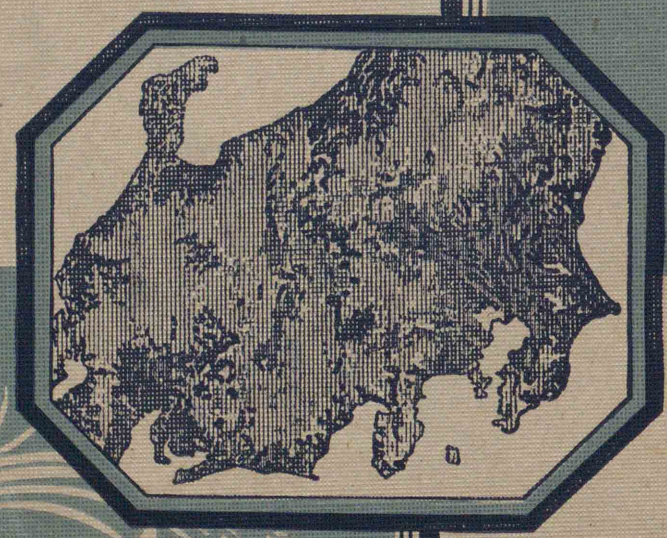


實業
新地理概說

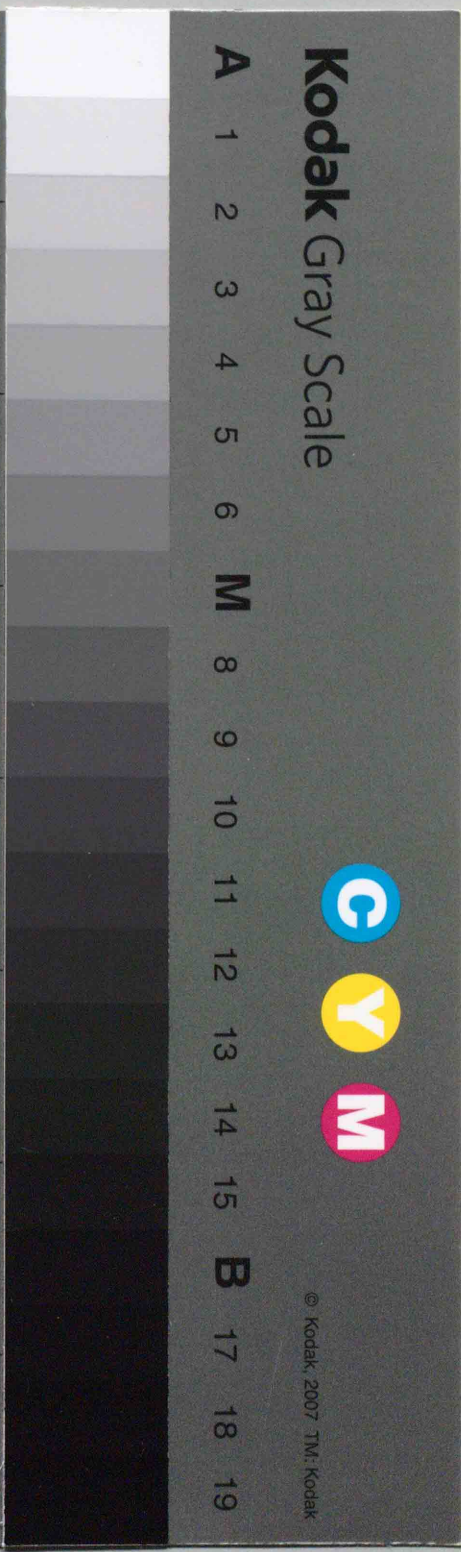
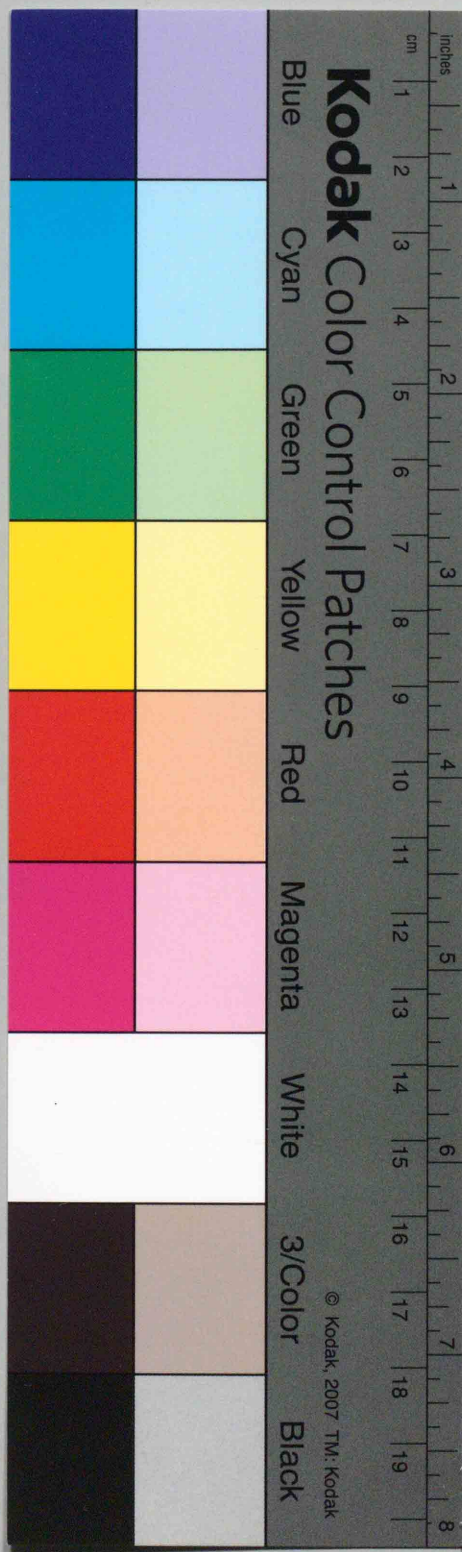
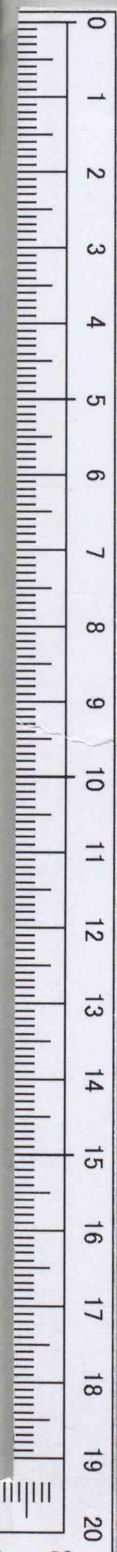
田中啓爾著

改訂版



目黒書店

教科書文庫
4
290
44-1941
2000041341



42901
教科書文庫
4
290
44-1941
20000
41341



教科書文庫

4

290

44-1941

2000041341

實業 新地理概說

改訂版

田中啓爾著

昭和六十一年一月三十日

實業學校地理科

文部省檢定濟

広島大学図書

2000041341



東京
目黒書店

資料室

3759
Ta 194

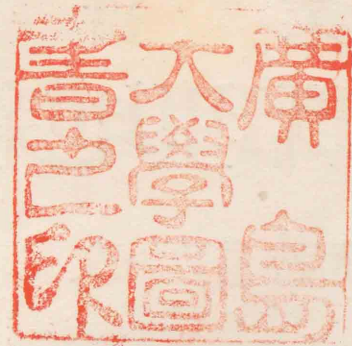


海洋への進出

和田三造氏筆



重工業の壯観 (八幡製鐵所の熔鑪爐) 吉田博氏筆





富 士 山



各國の人々(二)

(上) 巴里北停車場

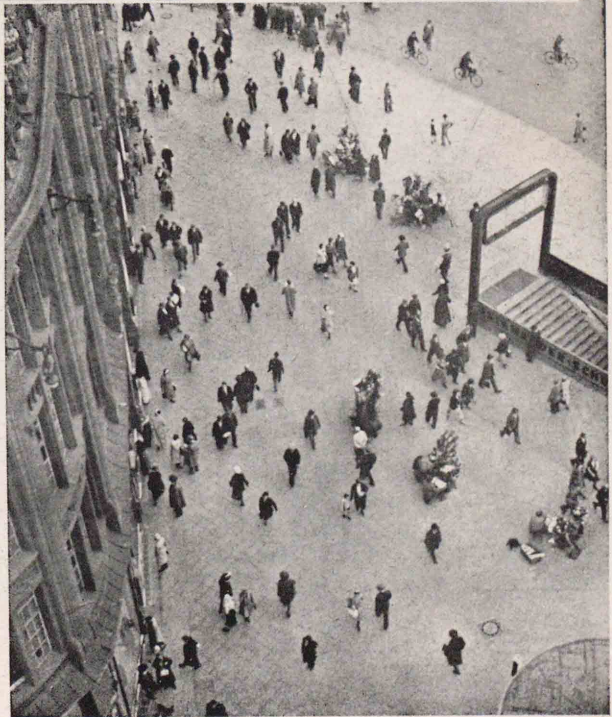
(下) 紐育グラントセントラル停車場

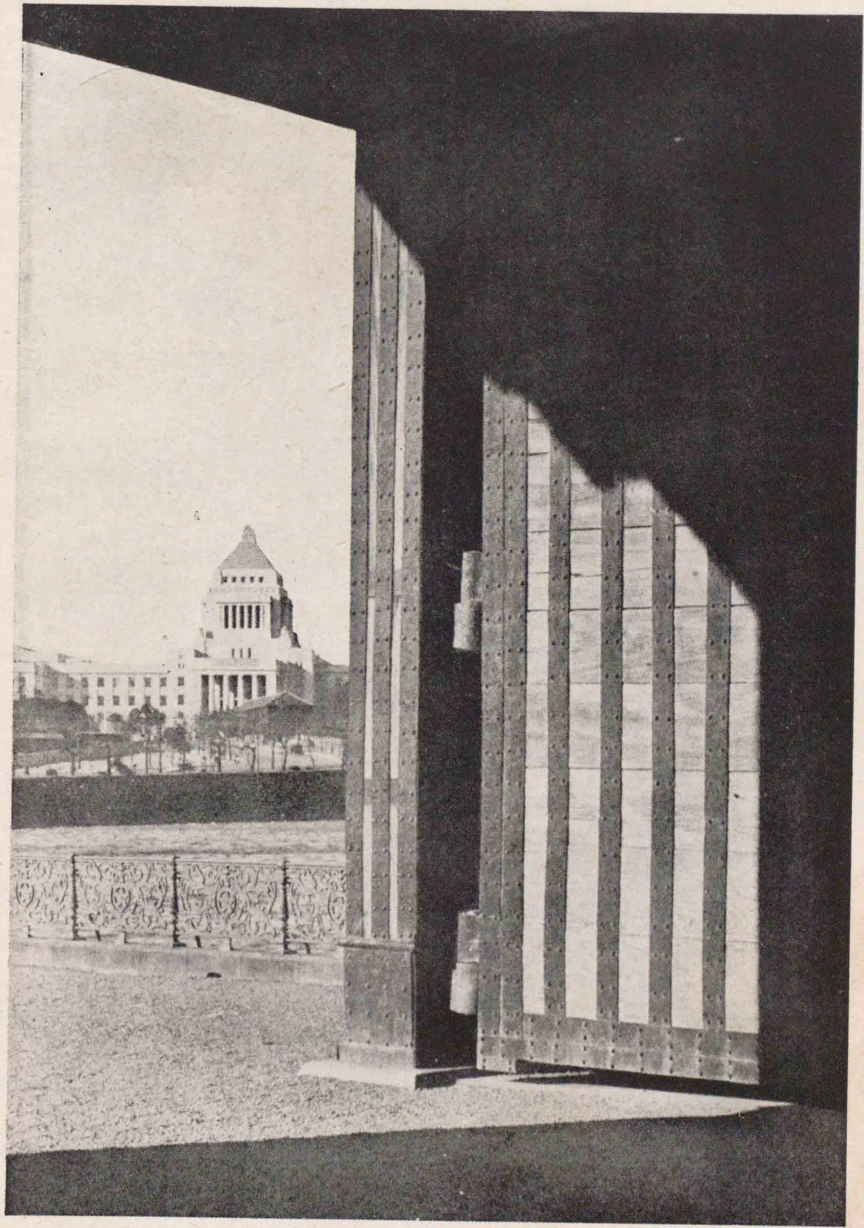


各國の人々(二)

(上) 東京銀座街頭

(下) 伯林街頭





櫻田門より見たる議事堂

緒言

本書は實業學校新教授要目に準據して編纂し拙著「實業新日本地理改訂版」及「實業新外國地理改訂版」と姉妹篇をなす。編纂に當つては重きを經濟活動に置いて、自然及び人類生活の情態並に兩者の相互關係を明かにし、特に我が國及び諸外國の産業交通の大勢を理會せしめ、その比較により、我が國民性・國民生活・國勢發展の因由を明瞭にし、世界に於ける我が國の地位を正しく把握せしめ、以て實務家たるの素地を培ひ、國民精神を涵養し、國家の興隆と民族の發展とに資することに力め、教授要目の趣旨に適合せしめんことを期した。

その他編纂上特に留意した點を擧ぐれば左の如くである。

一、教材の選擇に當つては特に我が國に關する事項に立脚して、産業の分布交通の情態及びそれ等の發達の理由を知らしめると共に、我が國勢を明かにし、之が發展に貢獻すべき識見の育成に力めた。

一、地理的環境に關する事項に就いては經濟活動と關係深き自然的及人文的環境を説述した。

一、本書に於ては日本地理外國地理の學習に於て、常に地理概説と緊密なる聯絡を保ち地理的理法を會得した後を受け、之を世界的に總括歸納し系統化するものにとめた。即ち日本地理總括及外國地理各大陸總括を更に總括歸納したものである。

一、最後の章の「世界に於ける我が國の産業交通の地位」に於ては本書の眞の總括として論結してある。

一、産業交通の章に於てはそれ等と地理的環境との關係及他の經濟的社會的事象との關係については學習者は地誌に於て既に述べた所によつて隨時應用的復習的に探究すべきである。

一、地圖圓グラフ等の圖表に表現された産業交通住民政治等の事象は能ふ限り我が國と外國と對比する如く排列してある。我が國內の分布圖に府縣別ドットマップ・圓グラフ等を多く用ひたのは數量的に國勢を理解することを容易ならしめためである。これ等に關し本文に説明の省略された分は學習者の隨時の研究を期待するものである。生産地帯を表はす地圖には更に需要供

給をも表示することにとめた。又産業交通住民政治等の發達過程を示す年代的統計も成る可く多く採録した。

一、黑色圓グラフ中、全黒は日本内地、外黒は輸出入、白色圓グラフは世界を示し、而して白色圓グラフ中の部分的黒色は日本を示すものである。

一、種々の理由により統計は主として昭和十一年及び十二年度を用ひて支那事變前の常態を示してあるが、世界を通じての戰時體制經濟による一時的の異動については教授者に於て必要あらば隨時附説された。

一、別頁の挿繪も我が國と外國との對比にとめた。

一、拙著「日本地圖改版」「外國地圖改版」を隨時參照されんことを望む。

一、圖表類の作成に就いては國勢社の日本國勢圖會及國勢グラフをはじめ官公私出版物等に負ふ所が大で、こゝに滿腔の謝意を表す。

昭和十五年六月

著者識

實業
新地理概説
改訂版
目次

第一章	地理的環境	一
第一節	地球	一
第二節	地勢	五
第三節	海洋	一三
第四節	氣候	一六
第五節	住民	二五
第六節	政治	三二
第二章	農業	三九
第三章	牧畜業	五九
第四章	林業	六六
第五章	水産業	七〇
第六章	鑛業	七四

第七章	工業	八三
第八章	商業	一〇一
第九章	交通	一〇七
第十章	世界に於ける我が國の産業・交通の地位	一一六



實業新地理概說 (改訂版)

田中啓爾 著

第一章 地理的環境

第一節 地球

地球の性狀

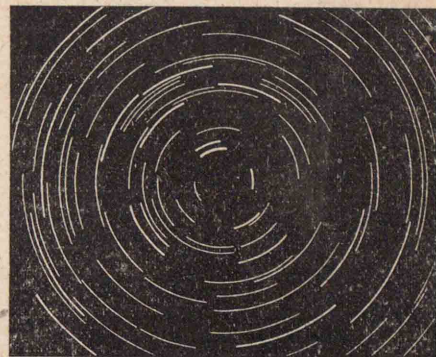
地球は太陽系に屬する一遊星で、兩極の方向に稍扁平な橢圓體をなしてゐる。地表は陸地と海洋とより成り、太陽より熾烈な熱と光を受け、人類を始め、多數の動植物を生育せしめてゐる。

地球の外皮を地殼と稱し、多量の有用鑛産物を包藏し、内部は著しく高温で固有の地熱を保ち、火山・溫泉等の根源をなしてゐる。

地球の運動

地球の運動には自轉と公轉と

太陽の直徑は一三九萬軒(地球の一〇九倍)に達し、體積は地球の一三〇萬倍に及ぶ



北極星を中心とする星の環状運動(地球自轉の一證)

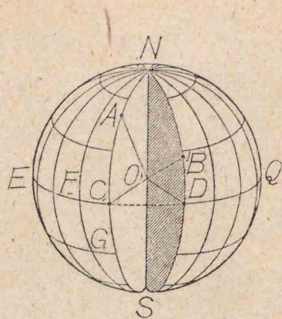
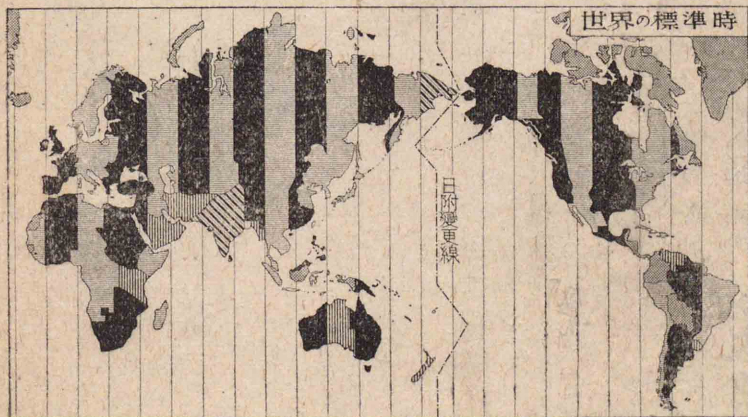
がある。自轉とは地球がその地軸の周圍を約二三時五六分間に西から東へ一回轉する運動をいひ、之により晝夜の別を生ずる。

公轉とは地球が三六五日五時四八分四六秒の

週期で太陽の周圍を圓に近い楕圓の軌道に沿うて一回轉する運動をいふ。地球の公轉が直接人生に影響を與へるのは四季の變化と晝夜の長短とである。

地方時と標準時

地球は自轉するため各地の地方時を異にする。この不便を避けるた



NOSは地軸、EFCは赤道、NACSを本初子午線とすればB點の緯度をすは角BOD、經度をすは角CODに表される。

めに、或地域を限つて共通の時刻を定め、之を標準時とする。我が國の標準時は明石市を通過する東經一三五度の子午線を標準とする。

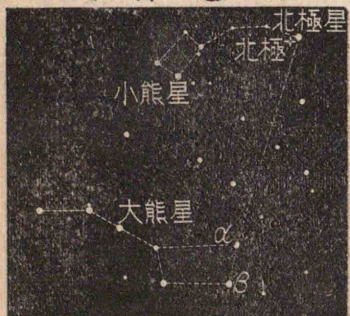
曆には太陽曆と太陰曆と

があり、太陽曆の曆年では平年の外、四年毎に閏年を設けて地球の公轉時間に一致させてゐる。

經度・緯度

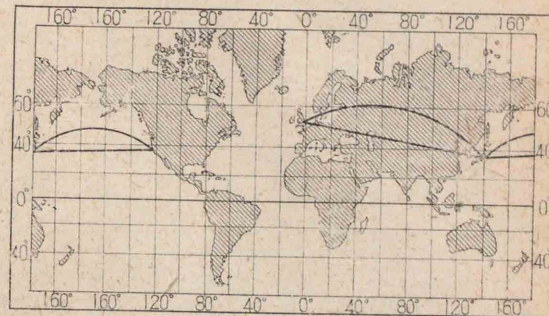
地表の一地點の位置を決定するには經度と緯度とを用

ひる。經度は本初子午線を零度とし、東西に各一八〇度まで數へ、緯度は赤道を零度とし、南北に各九〇度まで數へる。東經一八〇度の經線(子午線)は西經一八〇度の經線と全く一致し、概ね太平洋中を通過するため、多少の修補を加へて日附變更線として之を利用する。



北極星と大熊星及び小熊星との位置的關係

メルカトル圖法



圓錐圖法



針を用ひるが、北極星又は太陽を利用することもある。

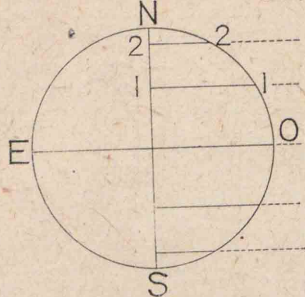
方位

方位を呼ぶには、東西南北の四方方位を主體とし、之を更に八方位・一六方位・三二方位に分ける。精密に方位を示すには南北を基準とし、東西に角度を測つて呼ぶ。方位を知るには通常磁

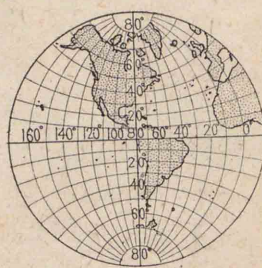
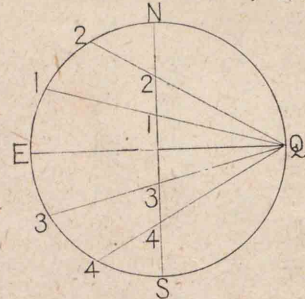
地表の圖示

と地圖とがある。地表は球面であるから種々なる投影法を用ひて平面上に經緯線を描く必要がある。地圖投影法には透視圖法・圓錐圖法・圓柱圖法等の別がある。透視圖法は直射圖法と平射圖法とがあり、何れも半球全體を描くに適する。

直射圖法



平射圖法



圓錐圖法

圓錐圖法は一地方を比較的正しく描くに適する。ボンヌ圖法は之に改善を加へたもので、面積を正しく表す特徴がある。

圓柱圖法

圓柱圖法は經緯線が直交するのが特徴である。メルカトル圖法はこの一種で、方位を正しく表すため、航海用に重用せられるが、高緯度地方では面積が過大に表れる缺點がある。

以上の投影法に依つて描かれた經緯線上に諸種の縮尺と圖式とを用ひて地圖を描く。地圖には地形圖・海圖・地質圖・航空圖・産業圖・交通圖等がある。地形圖に於て土地の高低起伏を表すには等高線・けば(量滲)等を用ひ、海圖に於て深度を表すには數字又は等深線を記入する。

大陸と島嶼

世界の陸地は六大陸に分たれ大部分北半球に偏在するが地球は又陸地の最も多い陸半球と最も少い水半球とに分つことも出来る。大陸は一般に南方に向つて尖端部を有し、三角形に近い平面形をもつものが多い。

島嶼には陸島と洋島との別があり、陸島は地體構造上大陸の一部をなすもので、洋島は大陸と直接の關係のないものである。

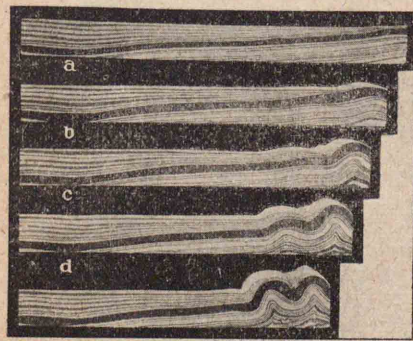
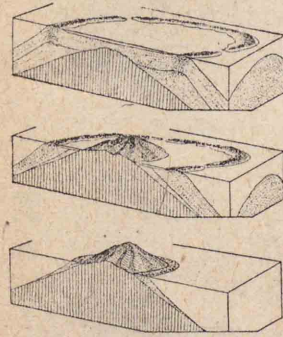
海底火山の噴出に依つて生じた火山島や海棲動物の遺骸の堆積による珊瑚島礁の如きは洋島に屬する。珊瑚礁には裾礁堡礁環礁の別がある。

山地

山地は褶曲斷層

及び火山作用等に依つて生じ、之に侵蝕作用が加つて復

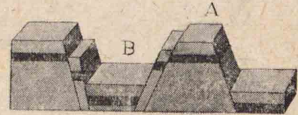
珊瑚礁の形式



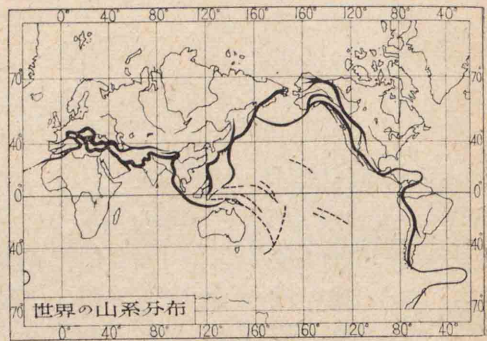
雑な地形を表してゐる。褶曲を生ずる地殼運動を造山運動と云ひ之が更に甚だしくなれば斷層作用を起し地殼はた

めに截斷されて、斷層山地、傾動地塊、地壘、地溝等を

生ずる。我が國は斷層地形に富み、飛驒山脈、木曾山脈、關



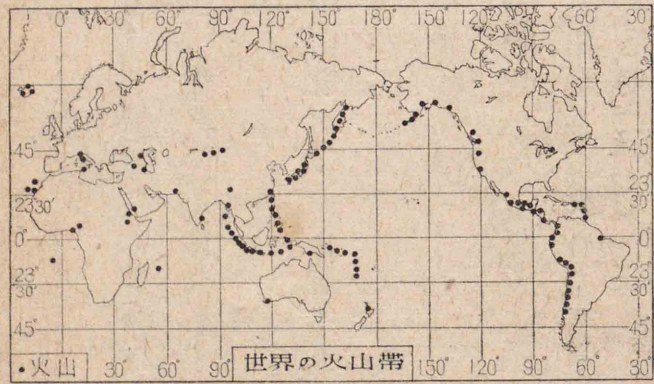
地壘と地溝



東山地、西國山脈及び近畿の地壘群等はその適例である。山地の高度小なるものを丘陵と呼び、山頂の平坦面の大なる時は、高原又は臺地と稱へる。

火山、温泉、地震

地球内部の岩漿が地殼の弱所を破つて噴出する作用を火山作用と云ひ、その噴出物の堆積した山地が火山である。火山の噴



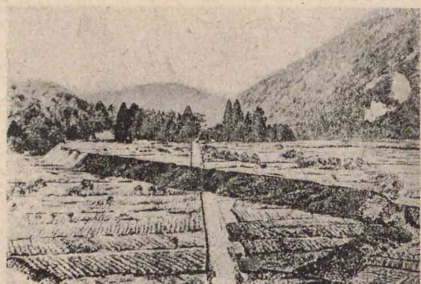
火は岩漿中に含まれた水蒸氣の張力に起因し、山體を急激に破壊して、災害を與へることがある。

火山噴出物の主なものは瓦斯體と熔岩とである。瓦斯體の大部分は水蒸氣で、熔岩は熔岩流又は泥流となつて噴出する。爆發性を帯びた火山では火山灰・火山砂・火山礫・火山彈等を噴出する。

火山には富士山・男體山の如き單式火山と、箱根山・阿蘇山の如き複式火山とがある。複式火山では外輪山と中央火口丘との間に火口原又は火口原湖があり、川が火口壁を破る所は火口瀨をなしてゐる。

亞細亞の東岸、南北米の西岸の如き、陸上に大褶曲山脈隆起し、近海に大海溝の陥没せる大陸邊緣地帯は地殼が不安定で、火山發生の條件を具へてゐる。従つて世界の火山帶中環太平洋火山帶が最大で、その他には地中海・阿弗利加地溝帶に沿ふもの等があるのみである。我が國は世界屈指の火山國である。

地熱のために温められた地下水が湧出して温泉となる。温泉は單純



濃尾地震に於ける
尾根谷斷層

泉・鹽類泉・硫黃泉・アルカリ泉・炭酸泉・酸性泉等に分類され、各成分によつて療養上種々の効果がある。我が國は又世界有數の温泉國である。

地震は地表に斷層を生じ、地盤の隆起・沈降を起

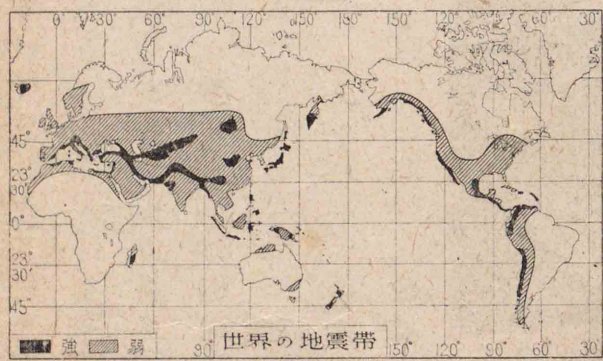
し、又地盤に無數の龜裂を生ぜしめる。若し震源が

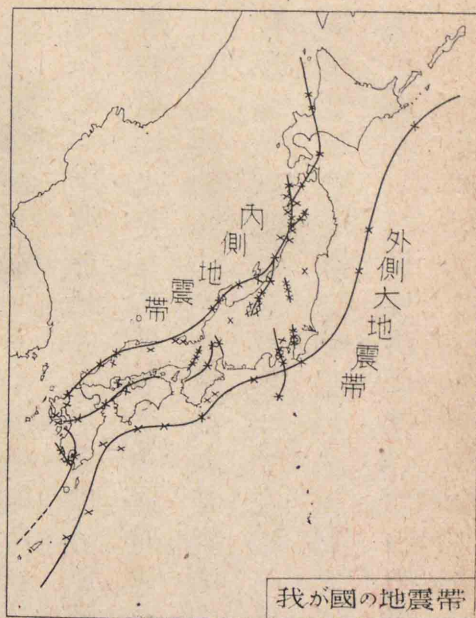
海中にあれば海水を震動

せしめて津波を起す。地震は道路・橋梁・家屋を破

壞し、更に火災を誘發して、生命財産に大災害を與へる。大正十二年の關東大震災はその例である。

木造建築も震動を考慮して造れば、震災を避け得られるし、耐震構造のコンクリート建築は最も安全である。震災豫防に就いては地震研究所その他で研究され、地震の豫知事業も進行中である。





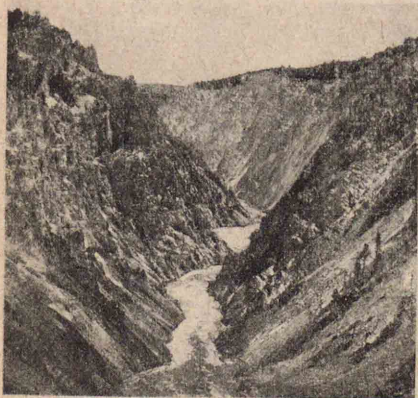
我が國の地震帯

地震帯の分布は略火山帯・褶曲帯の分布と一致する。環太平洋地震帯は世界最大の地震帯で地中海沿岸と共に屢々大震を起す。我が國は世界的な地震國で内帯・外帯の兩地震帯がある。

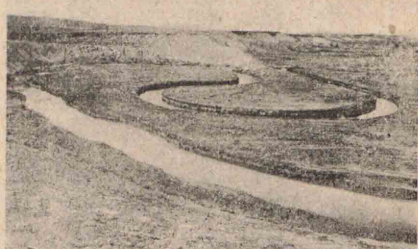
河川・谿谷・泉

河川の上流は一

傾斜をなし、下刻作用(下刻作用)がよく行はれ、V字形の深い谿谷を造り、硬い岩石の部分では急流や瀑布を生じてゐる。中流より下流に至るに従ひ、谷の傾斜は次第に減じ、侵蝕・運搬の兩作用は衰へ、堆積作用が盛となつて、その河岸に洪瀦地(氾濫原)を生じ、河道は蛇行して、遂には



・V字形の幼年期の谷

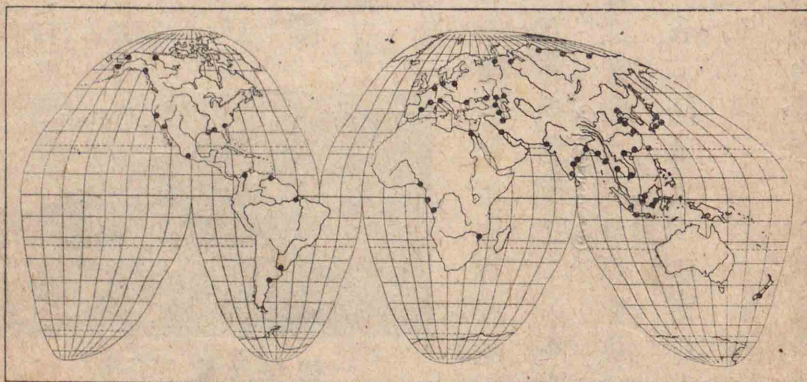


蛇行の一例

廣い沖積平原を生ずるに至る。洪瀦地上に於ける河川は河床に洲を生じて網狀河川をなし、氾濫の害を與へる事が多い。谿口の部分で堆積が急に行はれると扇狀地を造り、河口に於て堆積が行はれると三角洲(デルタ)が形成される。堆積の行はれる河川が隆起すれば侵蝕作用が復活して下刻作用が旺盛となり、舊河床の一部は階段狀に残り、河岸段丘を生ずる。

谿谷は成因により斷層谷・侵蝕谷・裾合谷等に分つ外、縱谷・横谷に分つこともある。

世界三角州地域



扇狀地の末端河岸段丘の崖端等には地下水が地表に湧出して泉となる。又含水層の傾斜せる地域は鑽井に適し、近年各地で大規模に利用される。

平地

平野には流水の堆積作用によるもの、海底の隆起したもの、山地の削剝されたもの等がある。扇狀地・氾濫原・隆起三角洲・準平原等は是である。盆地には斷層盆地・湖底盆地等があり、何れも自然的地理區をなす所が多い。

湖沼

湖沼には淡水湖と鹹湖との別があり、湖水の榮養度により水産養殖上差異がある。又成因に依つて火口湖・火口原湖・堰塞湖・斷層湖・陷落湖・河跡湖・潟湖・海跡湖・氷河湖等に分けられる。我が國は火山に富むため火山關係の湖沼が多い。

海岸

陸地は山嶽臺地・谿谷・盆地・平地等の垂直的肢節の外、半島岬角・地峽・島嶼等の水平的肢節が發達し、海岸線を複雑ならしめてゐる。海岸には海蝕に依つて生じた岩屑が波浪や潮流に依つて他に運ばれ、砂嘴・砂洲・陸繋島及び潟湖等が形成される。

海岸はその成因により沈降海岸・隆起海岸・斷層海岸に分けられる。沈降海岸には多くの溺れ谷をもつリアス式海岸や、氷蝕に依つて生じた峽灣等がある。隆起海岸には海蝕臺地及び海岸段丘があり、海岸平野並びに隆起三角洲を伴つてゐる。

土壤

地表の岩石は風化作用を受けて土壤となる。土壤には地域的差異があり、寒帯にはポドソル、熱帯には紅土、北支那には黄土、露國には黒土が見られる。一般に沖積土は地味肥沃である。

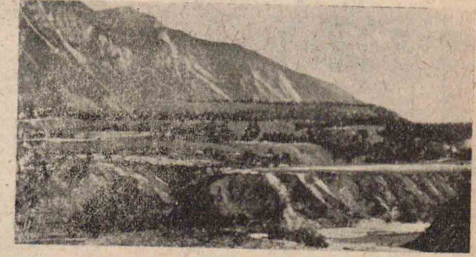
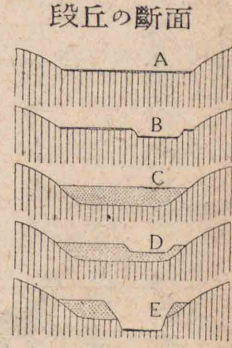
第三節 海洋

海洋の形態

海洋には三大洋及び北極海の外、無数の内海・縁海等がある。



海岸段丘



河岸段丘の一例

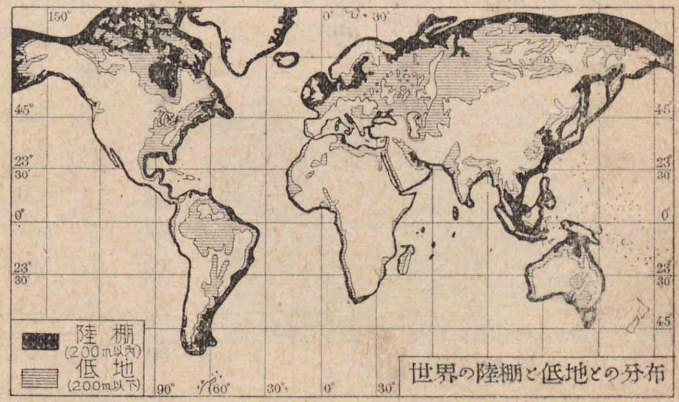
大陸の周囲には二〇〇米以下の深度を有する浅海があつて陸棚を形成する。陸棚の末端は急傾斜をなして海底平原と稱する平坦面へ下る。海底平原は三〇〇乃至四〇〇米餘の深さを有し、所々に堆と稱へる浅海や海溝、海淵と稱する深海がある。陸棚及び堆は魚族の棲息が夥しい。

海水の性質

海水中には種々な物質が溶解してゐるが、その内最も重要なものは鹽類である。海水の温度は緯度によつて異なるが、深海は常に寒冷である。水温及び鹽分は魚族の棲息に關係が深い。

海水の運動

海流は卓越風・水温及び鹽分による比重の差等による。

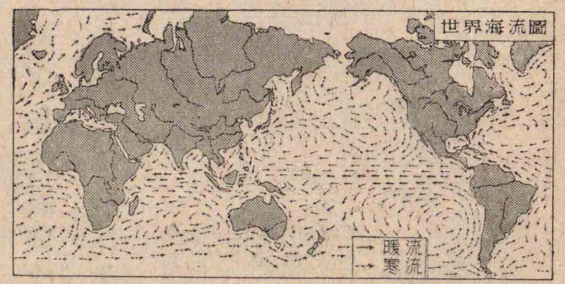
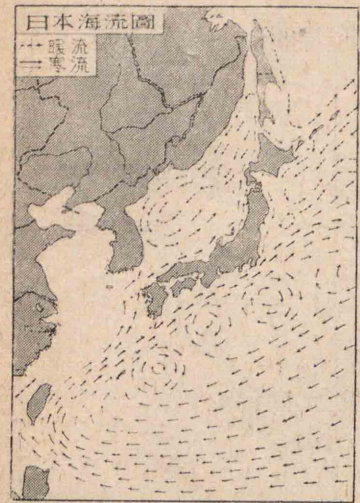


海流には暖流と寒流とがあり、暖流の主なものは日本海流(黒潮)、東オーストラリア海流、メキシコ湾流等、寒流の主なものはラブラドル海流、千島海流(親潮)等である。

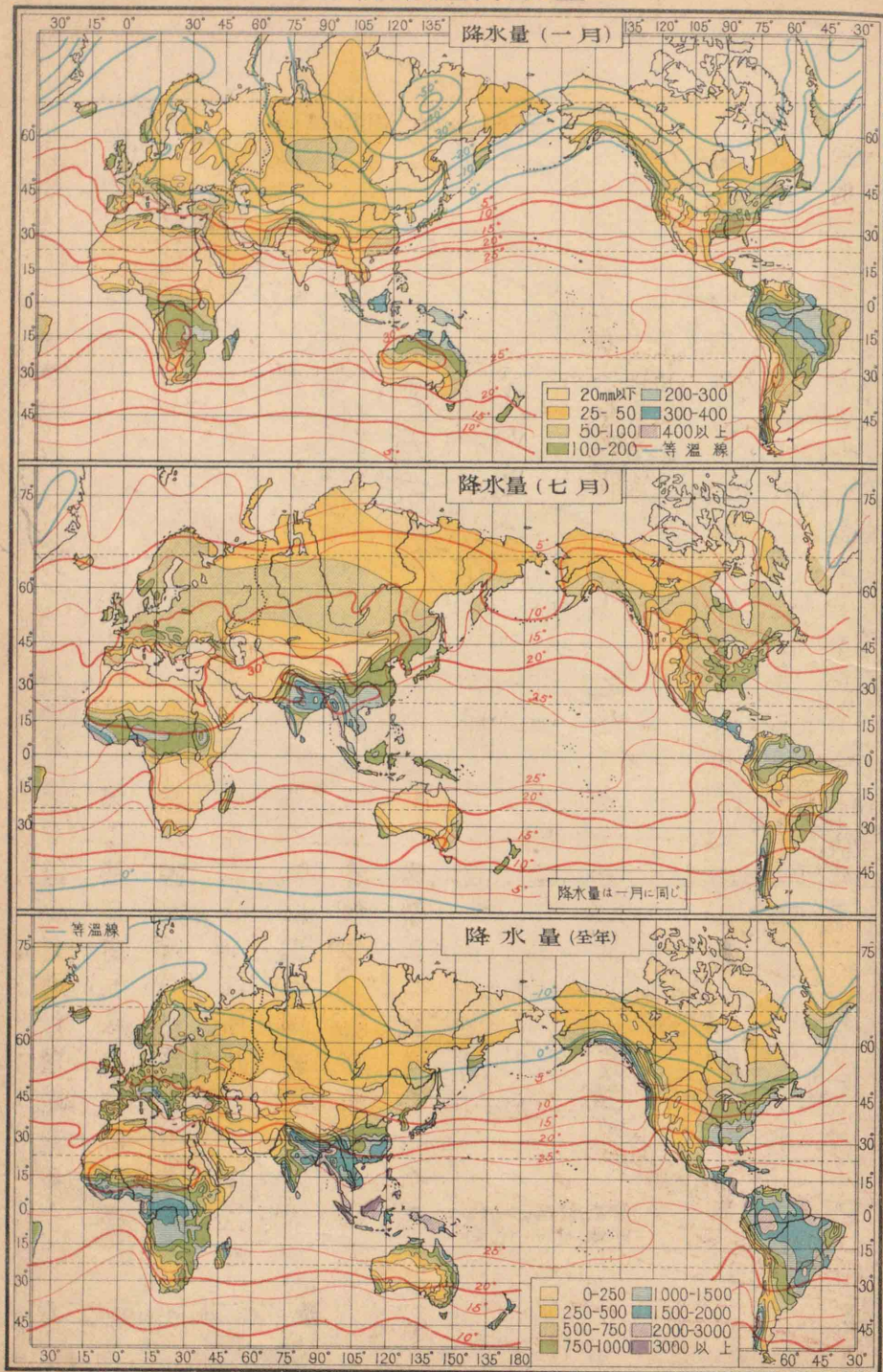
海流の速度は種々異なり、黒潮は九州南部に於て一日約五〇哩、餘四國沖で一〇〇哩に及び、又水温は附近の海水よりも平均四度高い。海流はその地方の氣候、生物分布、産業、航海等に重大な影響を與へる。

海面は一日に二回の

昇降をなし、満潮及び干潮の現象を示す。之を潮汐といひ、潮汐による海水の流を潮流といふ。鳴門海峡の潮流は有名である。潮汐干満の差は水陸分布の状態や地形に依つて異なり、北米のファンデー灣は二〇米



世界気温・降水量

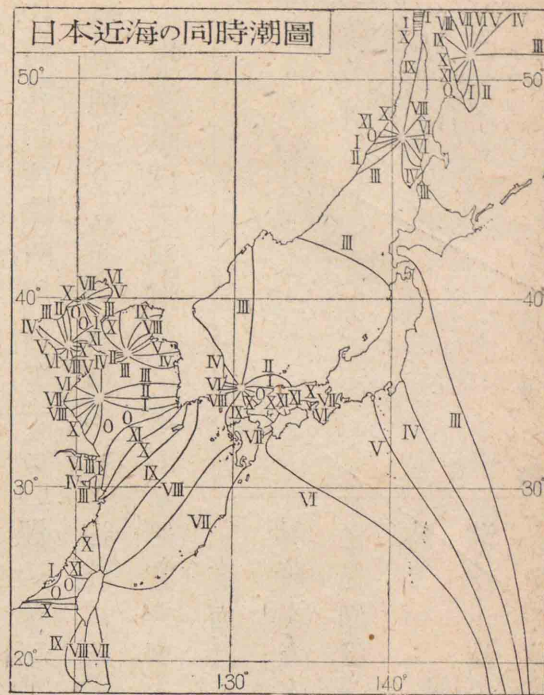


侵入し大害を興へることがある。之を津波といふ。

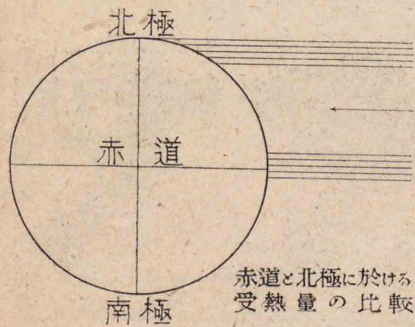
第四節 氣候

気温

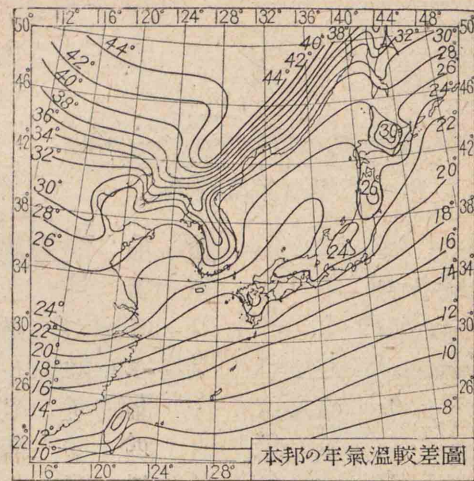
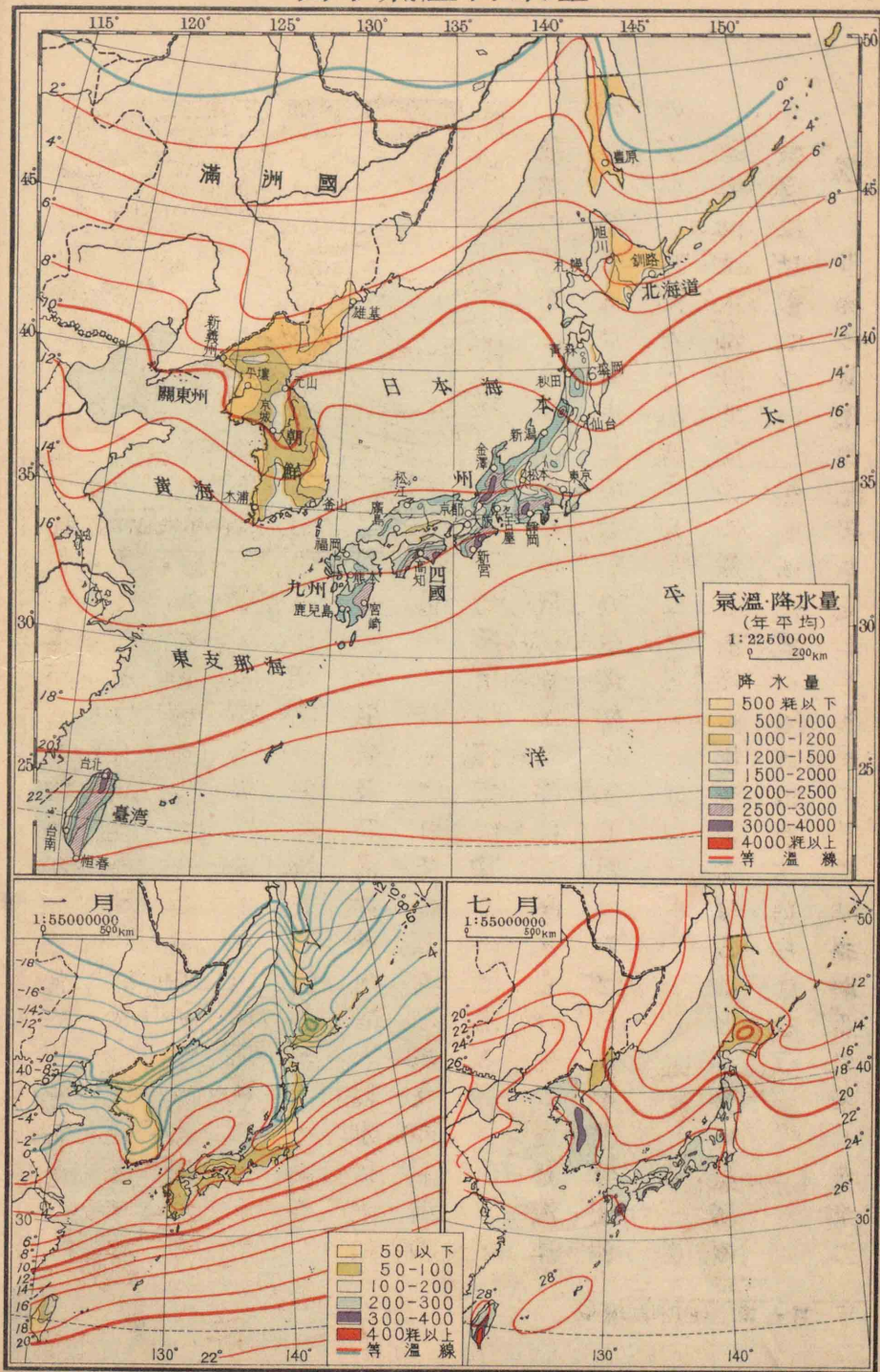
気温は大氣の接觸する陸地又は海水面の温度に著しく支配される。太陽光線は緯度により投射角を異にするため気温の高低を生じ、赤道に



我が近海では仁川附近が一〇米に及ぶが、日本海岸は僅かに三〇厘内外に過ぎない。潮汐干満の時刻は所によつて異なりその状態は同時潮圖によつて表される。海底地震・海底火山の活動又は暴風のために生ずる激浪が陸地に



日本氣溫・降水量



略並行して熱・温・寒の三氣候帯を造る。
 氣溫は又高度を増すに従つて低下する
 ため熱帶地方でも高地に於ては低温であ
 る。大陸内部に於ては海岸・島嶼に比して
 一日及び一年の氣溫の較差が大である。
 大陸性氣候及び海洋性氣候の區別は之に
 依つて決定され、その差異は海水の氣溫調
 節作用の影響に基くのである。

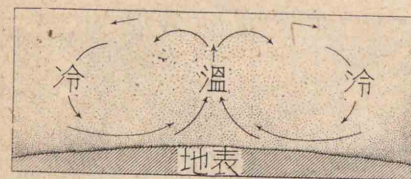
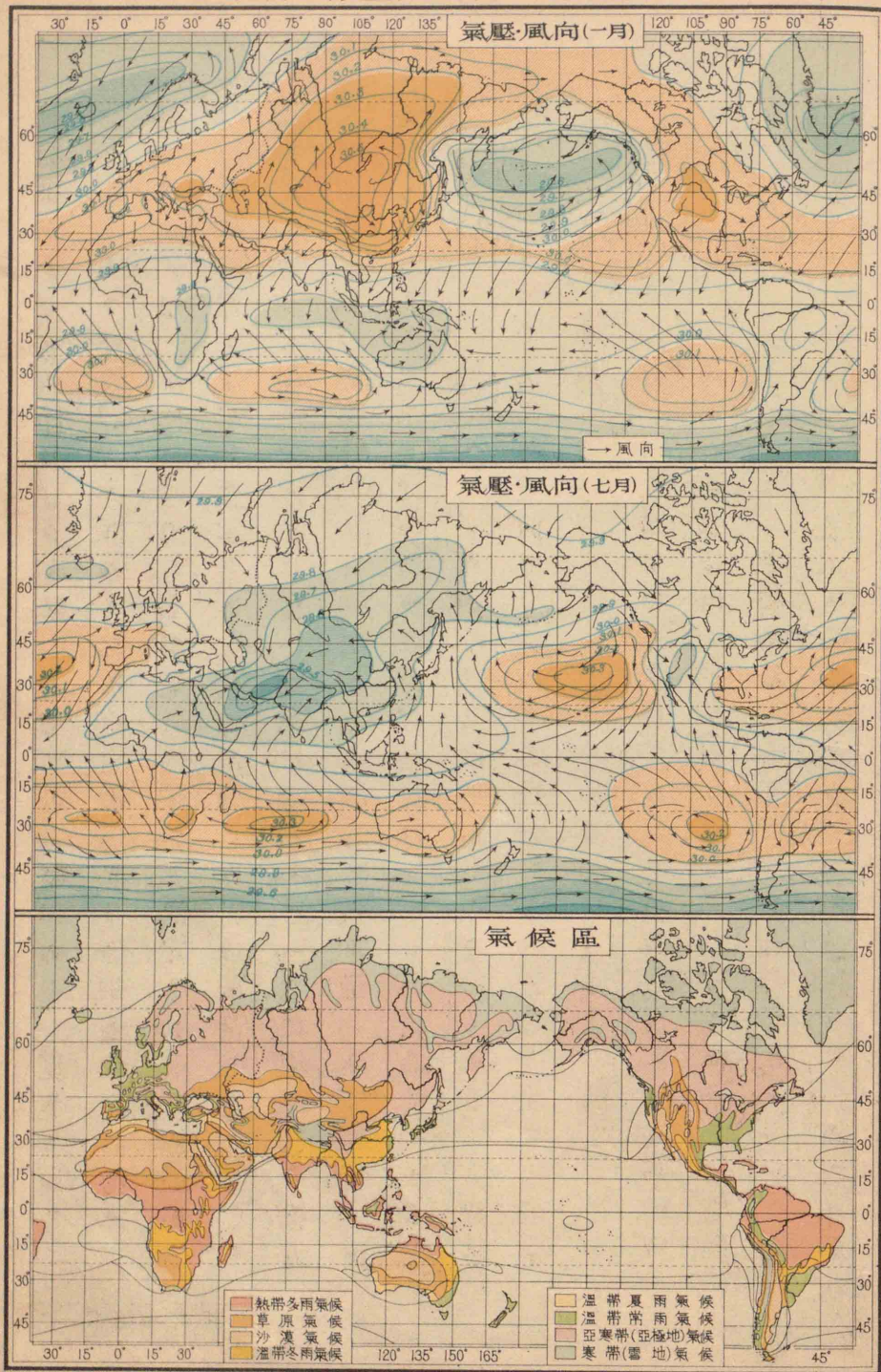
氣溫の分布は水陸の分布地形・海流・風向等に支配せられ、そのため海洋
 の多い南半球は緯度に略並行な等温線を示し、陸地の多い北半球は屈曲
 の多い不規則な等温線を現してゐる。

我が國は大部分北温帯に屬し、海洋の影響を受けることが多く、氣溫の
 年較差は比較的少い。然し所に依つて各特色が見られる。

風

世界の氣壓の配置を見ると、冬季に於ては亞細亞大陸と北米に

世界の氣壓・風向及び氣候區圖



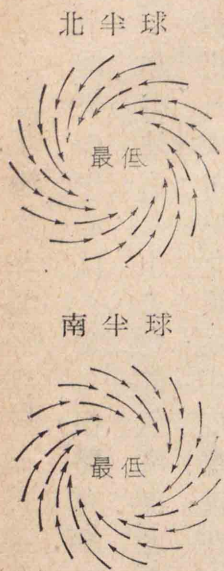
大氣の對流現象

半球では北東風、南半球では南東風となつてゐる。高緯度地方には偏西風(卓越西風)が吹いてゐる。歐洲北米南米濠洲等の温帶西岸に於て著しい發達を見る。

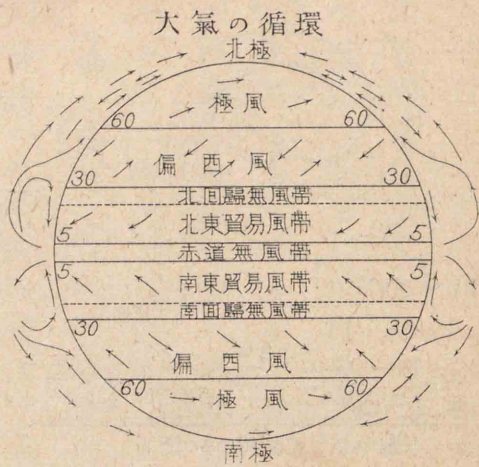
冬季には低氣壓が大洋の上であり、高氣壓が大陸の内部にあるため、氣流は大陸から大洋に向ひ、夏季には凡て之に反する。かく季節に依り海陸の間を互に反對の方向に吹く風を季氣節風といふ。亞細亞の季節風はその適例で、夏

高氣壓があり、大西洋及び太平洋の北部に低氣壓がある。夏季に於ては之に反し、太平洋及び大西洋の中部に高氣壓があり、亞細亞大陸の南部に低氣壓がある。風向は之等の氣壓配置に依つて決定される。赤道地方は一般に高温で、上昇氣流が發達し、風力が弱く赤道無風帯をなしてゐる。この上昇氣流は極地に向ふに従ひ次第に冷却して、南北緯度三〇度附近にて下降し、再び赤道に向ふ下層氣流となる。この赤道へ向ふ下層氣流を貿易風(恆信風)と稱し、地球自轉の影響を受けて、正しい南北に吹かず、北

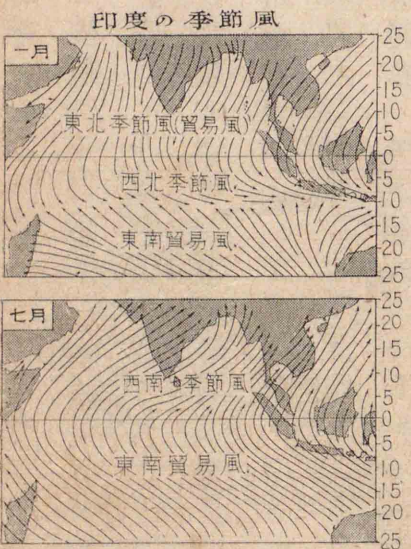
旋風の風向



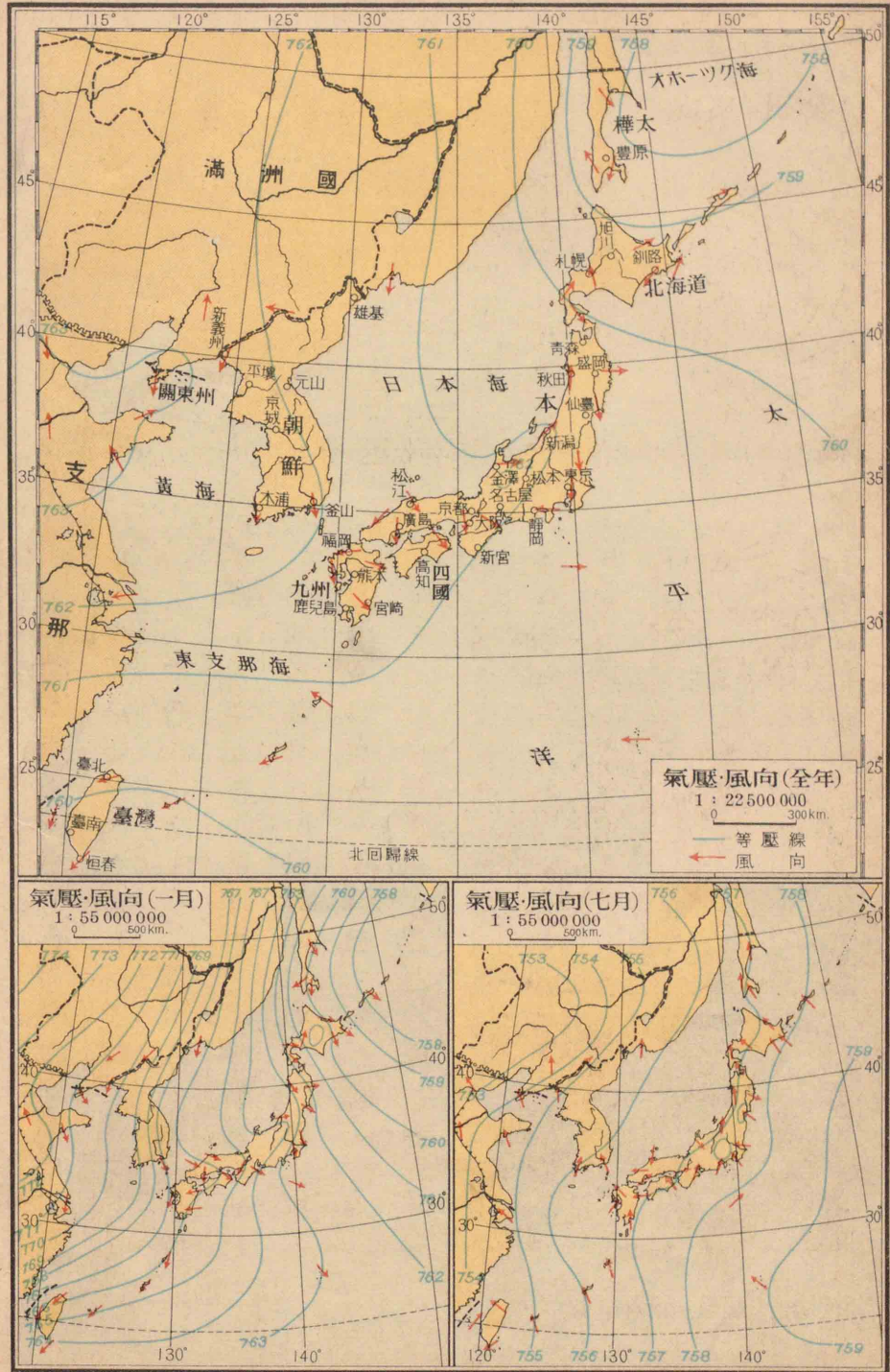
り吹き上げる暖気との間に不連続線
 (陣風線と稱する境を生じ、之に沿つて

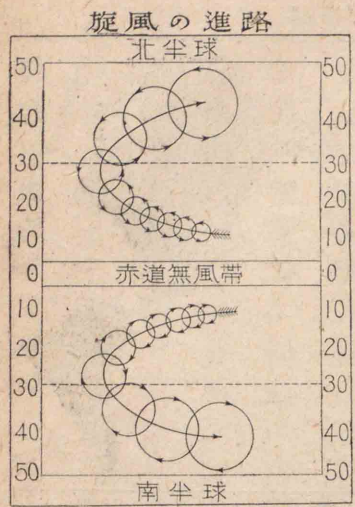


と、南よ
 季には本邦では南東風、印度支那では南風、
 印度では南西風が吹き、冬季は之に反する。
 局部的に濃厚な低気圧が急に生じた時、
 四圍の空氣が之に流入し、北半球では時計
 の針と反對に、南半球では時計の針と同じ
 方向の螺旋狀の氣流即ち旋風を生ずる。
 旋風の附近に於ては北より吹き込む寒氣



日本の氣壓・風向





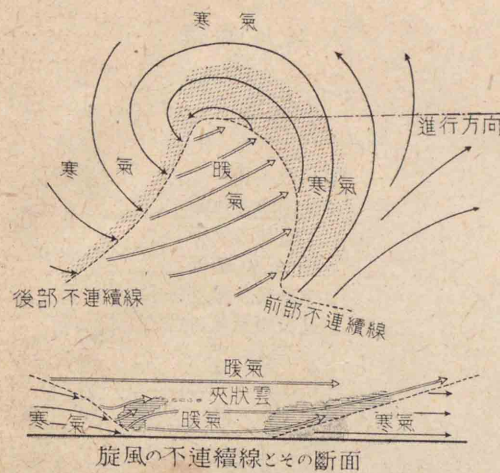
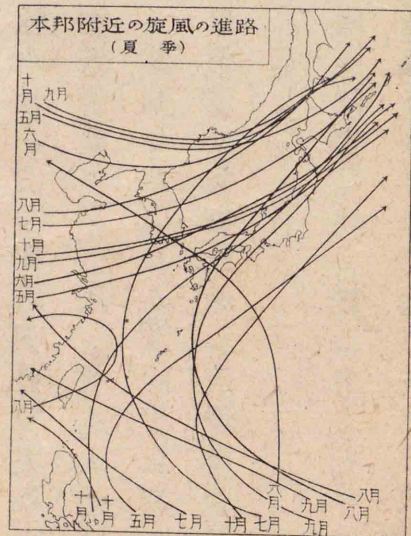
低による外、水陸の分布、海流、地形、風向等と密接な關係を有する。世界に於ける多雨地は、ヒマラヤ山脈の南麓、東印度諸島、ギニヤ湾沿岸、アマゾン盆地、英國及び北米の北西岸等の如き、熱帯・亞熱帯の海岸低地及び貿易風・季節風・偏西風等の風上の斜面で、英

ち二百十日前後南洋諸島或は小笠原諸島附近に發生し、沖繩九州を経て本州方面に襲來し、大風水害及び高潮の害を起すことがある。昭和九年九月大阪地方を襲つて大被害を及ぼした颱風はその一例である。

降水量

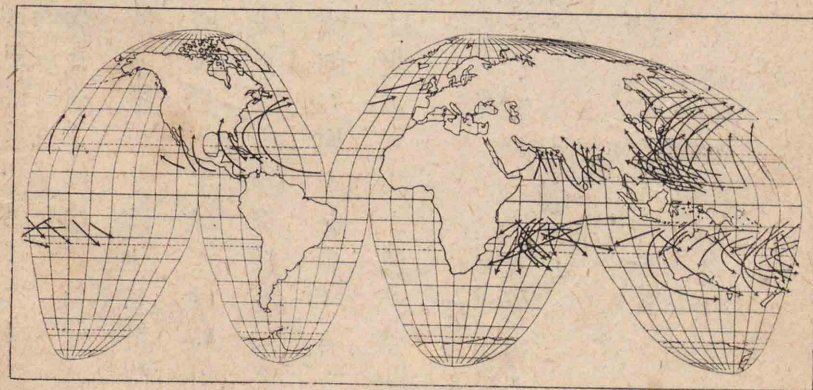
降水量(雨量)は雨・雪・雹

等すべて空中から降下する水の總量である。降水量の大小は緯度の高

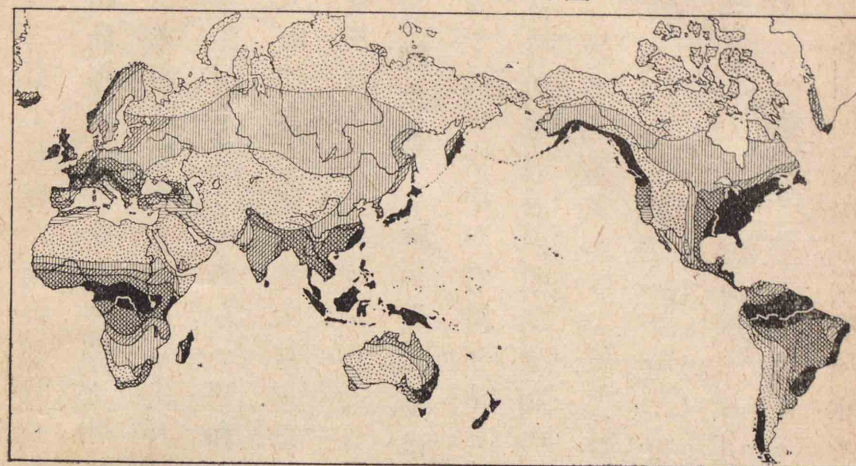


氣温の急激な變化と驟雨の起ることが稀でない。颱風の中心は一定の徑路を経て移動する。熱帯地方に生じた低氣壓は、北半球では最初北西に向ひ、北緯三〇度附近から北東に轉向し、南半球では之と對稱的の進路をとる。世界の各地では之等の颱風のため甚だしい損害を蒙ることが少なくない。我が國に襲來する颱風の主なものには颱風と大陸颱風とがある。颱風は主として夏秋の交即

世界颱風地域



世界の降雨季節的分布圖



■春 ■夏 ■秋 ■冬 ■全年 ■定まらぬもの

領印度のアッサムの如きは年降水量一萬耗を越える。世界の寡雨地はサハラ沙漠・ゴビ沙漠・オーストラリア西部高地等の如き内陸の高臺又は盆地、秘露西部斜面の如き高地のため定風の遮られる風下の地方及び加奈陀・西比利亞の北部低地の如き寒冷なる地方で、之等の地方では年降水量一〇〇耗以下の地がある。赤道無風帯は多濕で蒸し暑く、天氣は常に曇りがちで驟雨多く常雨帯をなし、回歸無風帯では空氣乾燥し清澄な天氣が多い。

雨の兩地域が決定され、又季節的の相違があらはれる。表裏日本の各雨季の外梅雨と颱風との時期が多雨季で、水害を起すことが尠くない。水害防止には植林と治水工事とに俟つことが大である。

氣候と氣候區

任意の時に於ける氣壓・氣溫・晴雨・風向・風力等總て大氣の状態を天氣といひ、長期に亙る天氣の平均状態を氣候といふ。氣候の變化は緯度・地球の自轉による四季の循環、水陸の分布、地形等の條件が關係する。氣候の季節的變化は熱帯に於て乾季・雨季、寒帯に於て夏季・冬季の兩季に分たれ、溫帯に於ては四季の變化が顯著である。氣候を地域的に分類すれば、各地の氣候(大陸性・海洋性・地中海性・季節風帶性等)の性質によつて大小無數の氣候區に分つことが出来る。

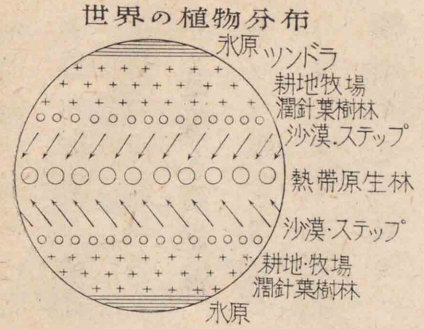
氣候と生物

生物は種々の地理的環境に支配されてその分布が決定されるが、その中で氣候の影響が最も大である。殊に植物は氣候の支配を受くること多く、氣溫と降水量はその成育を決定する。

熱帯の生物 熱帯多雨地方は植物の生育に最もよく適し、従つて熱帯

と は 7 4

降雨帯と熱帯密林帯とは一致し、アマゾンのセルヴァ地方、アフリカのコンゴ河流域、馬來群島地方の如きは之である。椰子・マンダローヴは最も普通の熱帯植物で、その他榕樹・チーク・籐芭蕉・羊齒の類が多く、熱帯寡雨地方には水分を貯藏するサボテンの類等が分布し、甘蔗・珈琲・ココア・棉・椰子類・ゴム・バナナ・稻等があり、材木には、チーク・マホガニー等がある。動物も亦種類に富み、象・犀・河馬・麒麟等の巨大なるもの、虎・獅子・大蛇等の猛なるものなどが棲息する。



温帯の生物 この地帯の生物は熱帯と寒帯との漸移地帯で、その分布も甚だ複雑であるが、松・樅・檜・杉等は、その代表的のもので、又麥・茶・棉・稻・桑等の有用植物も栽培され、動物には牛・馬・羊等の有用家畜が飼はれてゐる。

寒帯の生物 氣温寒冷のため植物の生育に適せず、土地は凍原をなす所が多いので植物の種類も數

2174

も他地方に比して僅少である。植物は主として地衣類・蘚苔類の如き矮小なもののみで、動物には北極熊・馴鹿・狐・麝香鹿等が棲息してゐる。

我が國の生物 我が國は大部分温帯内にあるため、植物の分布は温帯的特色を有するも、南北緯度約三〇度に互るため、琉球以南は亞熱帯性で、津輕海峡以北及び北部朝鮮は亞寒帯性の特徴を持つ。動物は移動性があるため特色に乏しい。北海道の熊、朝鮮の虎、琉球のハブ、臺灣の穿山甲等は特色あるものである。

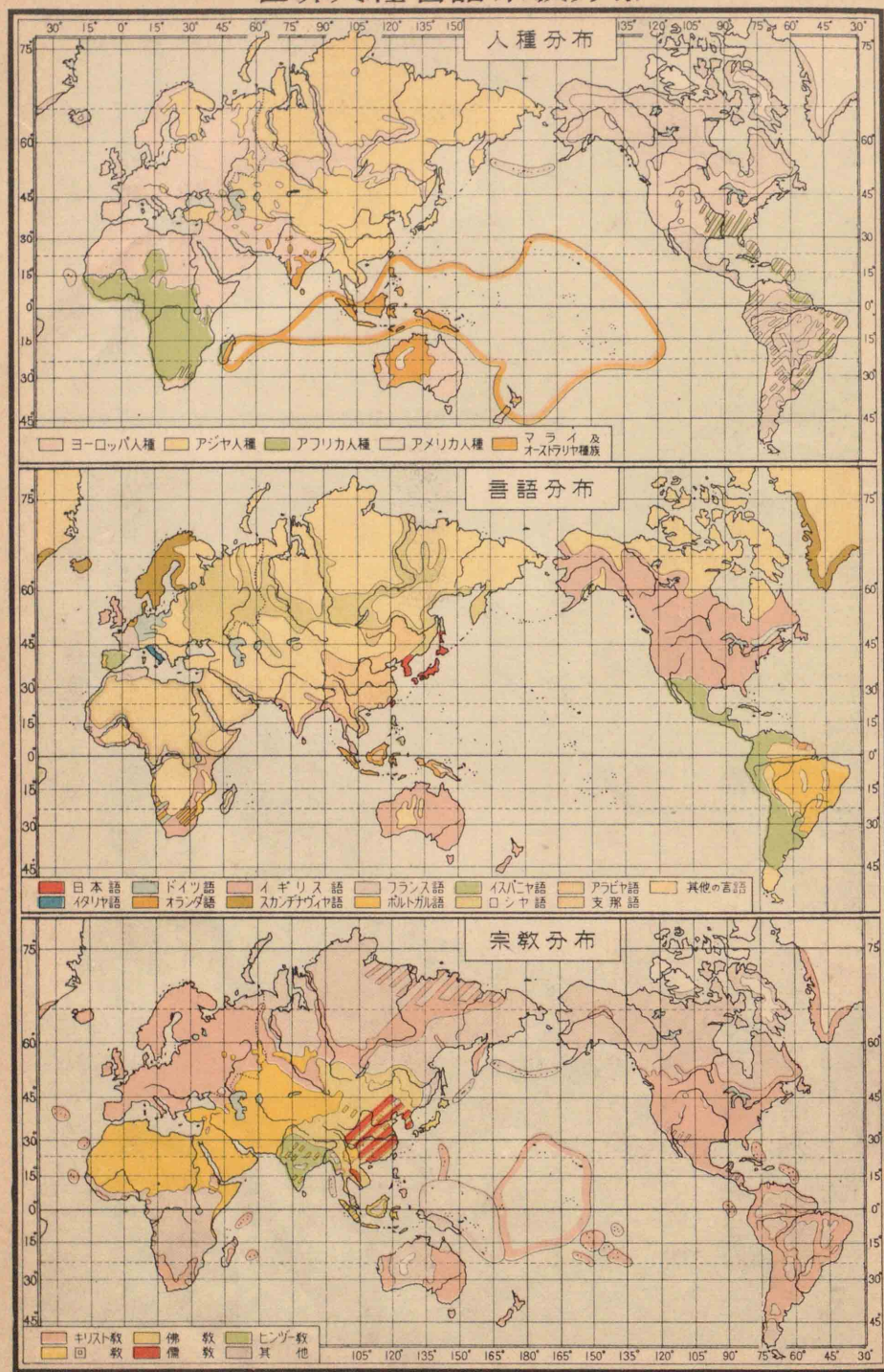
魚族は海水の温度に左右されて寒暖二種に分れ、寒海性の鱈・鮭・鱒と暖海性の鰻・鯉・鯛等が近海で漁獲される。

第五節 住民

人種 人類はその體格・皮膚・毛髮・容貌・言語・風俗・習慣・氣質等が地方によつて異なり、自然的環境に適應し、又異なる氣候に馴化する性質がある。

- 1 柵・赤松・黒松等多く 苹果・蜜柑・桃・梨・葡萄等の果實を産する
- 2 榕樹・檳榔・樹・抄・樺・林・投樹・蘇鐵・樟・竹等茂りバナナ・パイナップル等の果實を産する
- 3 蝦夷松・榎松・落葉松・白樺等が多い

世界人種・言語・宗教分布

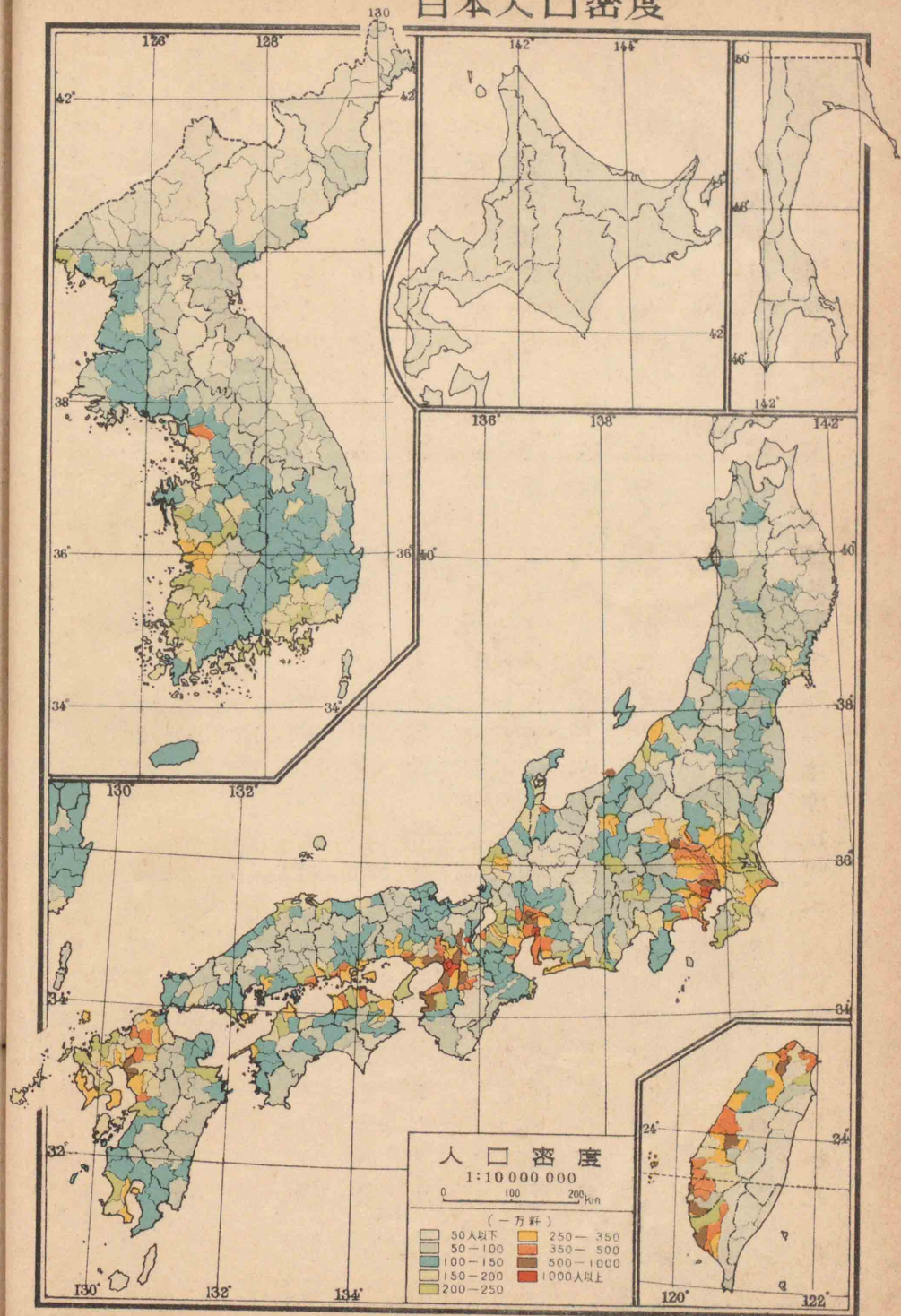


世界約二〇億の人口は、その特性に應じて次の五種族に分たれる。

亞細亞人種 黄色人種又は蒙古人種とも稱せられ、主として亞細亞に住し、歐羅巴の一部にも分布し、總數約六億五千萬、世界總人口の三分の一を占め、大和民族、朝鮮族、滿洲族、蒙古族、土耳古族、フィン族、ラップ族、マジヤール族等は北蒙古族に屬し、漢族、西藏族、印度支那族等は南蒙古族に屬する。我が國民は大和民族が核心をなし、他の諸族を同化融合し、亞細亞人種中最も文化進み、世界最優等人種の一であり、漢族は東洋文明の開發者で、印度支那及び馬來群島その他に移住民として優勢である。マジヤール族、フィン族は歐羅巴に於て歐羅巴人種と伍する民族として存在する。

歐羅巴人種 白色人種、ユーラフリカ人種又はコーカシヤ人種とも稱せられ、主として歐羅巴、地中海に沿ふ北部阿弗利加、南部亞細亞の印度、西、南亞細亞等を主要本據とするも、現今では世界各地に廣く分布し、米國、加、奈陀南、米南阿、濠洲、西比利亞及びその他各植民地に互る。總數約九億八千萬で、世界總人口の約半に及ぶ。アリアン族は最も主要なもので、チユ

日本人口密度



トロンラテン・スラヴの三族は之に屬し、高度の文化を有する。ハム族とセム族とは古い文化の歴史を有し、印度族ヒンヅ族は印度に於て原住民たるドラヴィダ族を南方に壓迫し、亞細亞人種と伍して古代文化を開發した。

アフリ加人種 一名黑色人種とも稱せられ、アフリ加大陸のサハラ沙漠以南に住し、曾て奴隸として亞米利加に送られ、それ等の子孫が今尚亞米利加に在住する。彼等は熱帯及び亞熱帯に適住し、總數約一億五千萬で世界總人口の一三分の一を占め、文化の程度は一般に低い。

亞米利加人種 銅色人種又はアメリカインディアンとも稱せられ、南北兩米の原住民で、總數約四千六百萬で、世界總人口の三%に充たず、亞米利加發見以來白人に征服され、一般に文化の度は低く、漸次減少の傾向がある。

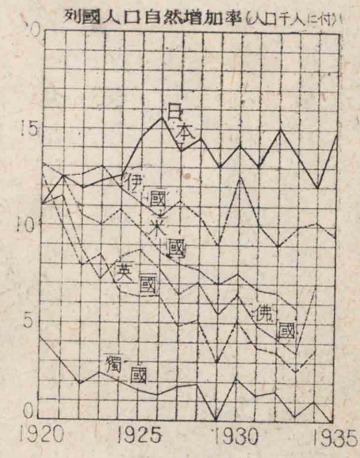
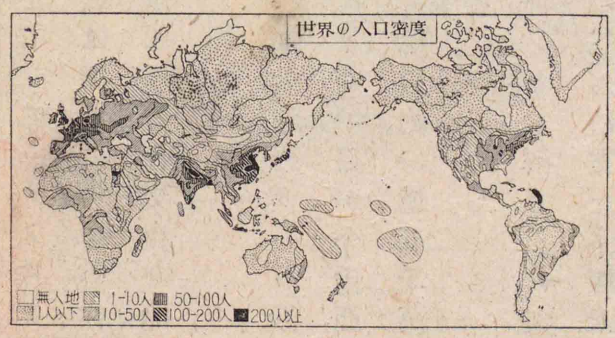
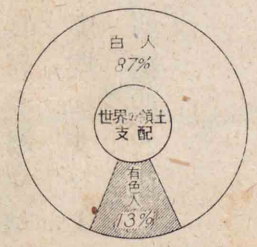
馬來人種 海岸島嶼民族とも稱せられ、亞細亞の東南部及びその附近の島嶼・大洋洲等に住する諸民族の總稱で、總數約四千九百萬で世界總人

口の三%に當る。所謂南洋の土人や、我が臺灣の土人も之に屬する。文化の程度は極めて低く原始的生活を營む者が多い。

人口

列國の人口は英・支・蘇・米・佛・日・蘭獨・伊の順位で、我が國は第六位である。之等の内、本國のみでは蘇・米・日・獨・英・伊の順位である。自然増加率は我が内地が列強の首位を占め、米の二倍、英の五倍に當つてゐる。英・米・獨・佛の如きは年々低下の傾向にあり、將來憂慮すべき問題とされてゐるのに反し、我が國は獨り増加の趨勢を辿り、内地は年々約九〇萬の増加をなしつゝある。

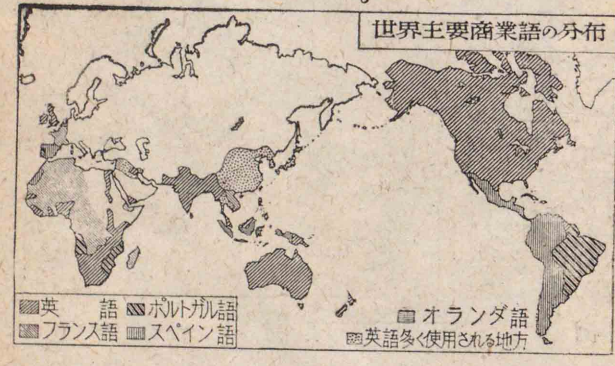
世界の人口の密な地方は歐洲の溫帶地方即ち英・佛・白・蘭の地方と、亞細亞の季節風帶即ち日・支・英印の地方と、北米の溫帶地方即ち米國の東北部地方とである。之等の地方は



世界文化の中樞地であり、自然的、人文的環境の最も優れた地域で、實に世界總人口の六分の五を含んでゐる。一方、料の人口密度は白耳義が二七三人で首位を占め、蘭・英兩國之に次ぎ、我が國は第四位に當る。我が國は近時都市集中の傾向著く、市部の人口は總人口の約三分の一を占めてゐる。我が人口密度の大な地方は京濱より名古屋・京阪神を経て北九州に至る地域である。

言語宗教

言語は種類も多いが英語は廣く世界の商業語及び通用語として重要視され、獨語は學術語、佛語は外交用語として各國に重んぜられる。葡語は我が移民渡航先の伯刺西爾に用ひられる。世界の大宗教は凡て亞細亞に起つた。佛教は東



→上空より見たる米國式都市景觀

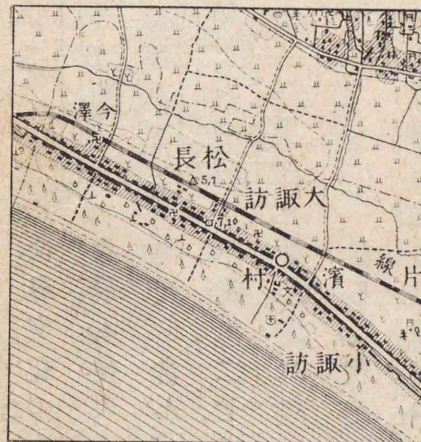


←東京中央市場の魚市場

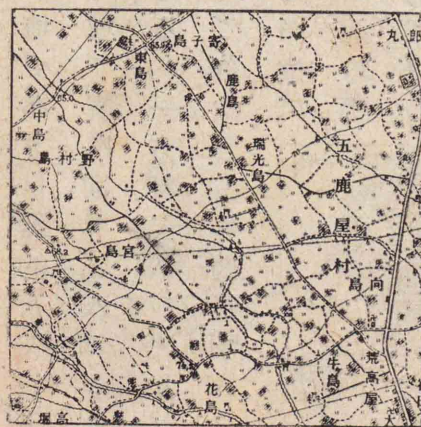
ト教も行はれ、別に我が國固有の祖先崇拜から生れた神社崇拜の美風がある、

聚落

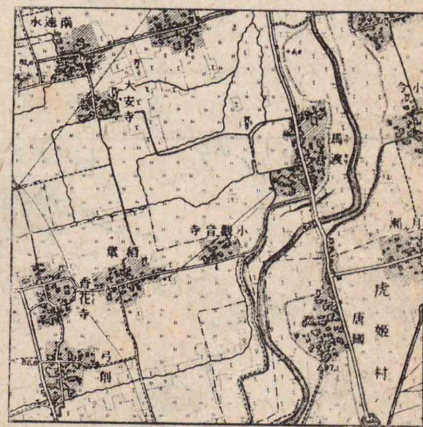
村



街村の一例



散村の一例



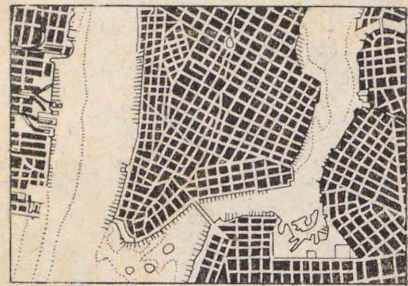
集村の一例

漸し、キリスト教は西漸して歐米に移り、回教は亞細亞、阿弗利加の乾燥地帯に、ヒンヅ教(印度教)は印度半島にそれ〴〵傳播した。佛教は我が國と印度支那とに最も盛である。キリスト教は歐羅巴人種の分布と略一致し、舊教、新教、希臘教等の諸分派がある。我が國は大部分佛教で、神道、キリス

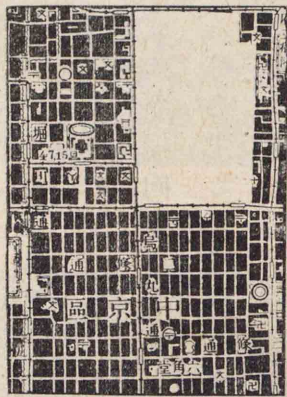
都市(古くは城下町の如き)學術都市宗
 都市(古くは城下町の如き)學術都市宗
 市商業都市交通都市(港町・宿場町)の如
 き)工業都市鑛山都市政治都市軍事
 工業を副業とするものが多い。
 都市は機能から經濟都市・市場都
 市商業都市交通都市(港町・宿場町)の如
 き)工業都市鑛山都市政治都市軍事

新開)に形態から集村・散村・街村等に分たれる。

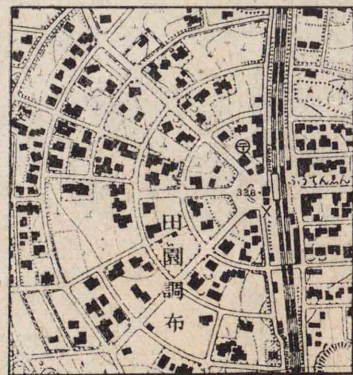
農村・漁村・山村は各關係産物の加



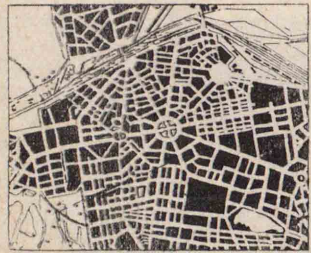
紐育の一部



京都市の一部



田園調布

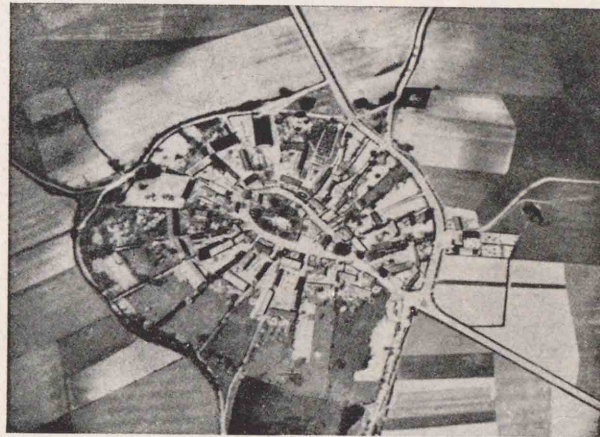


大連の一部

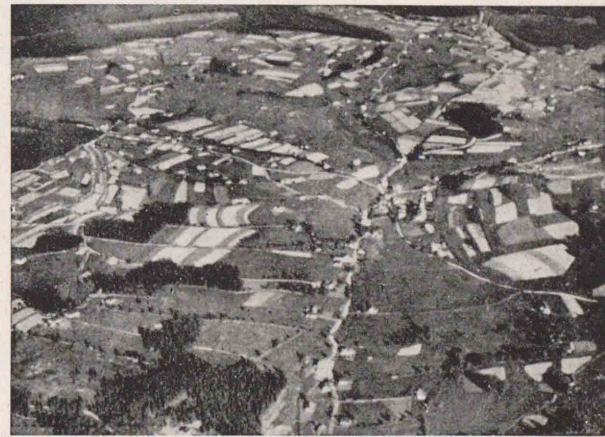


巴里の一部

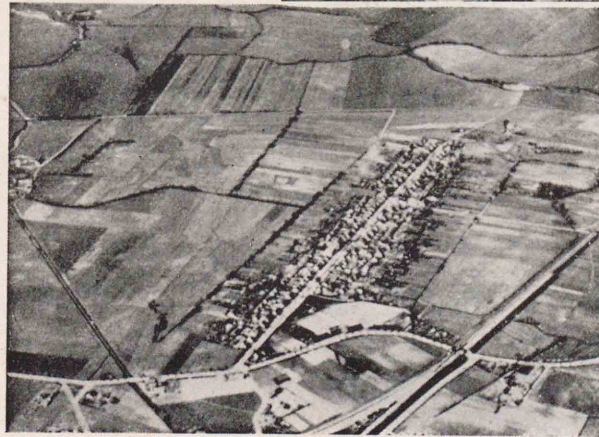
落は機能から農村・漁村・山村に、發生から親村・子村(新田



← 集村 (北獨逸平野)



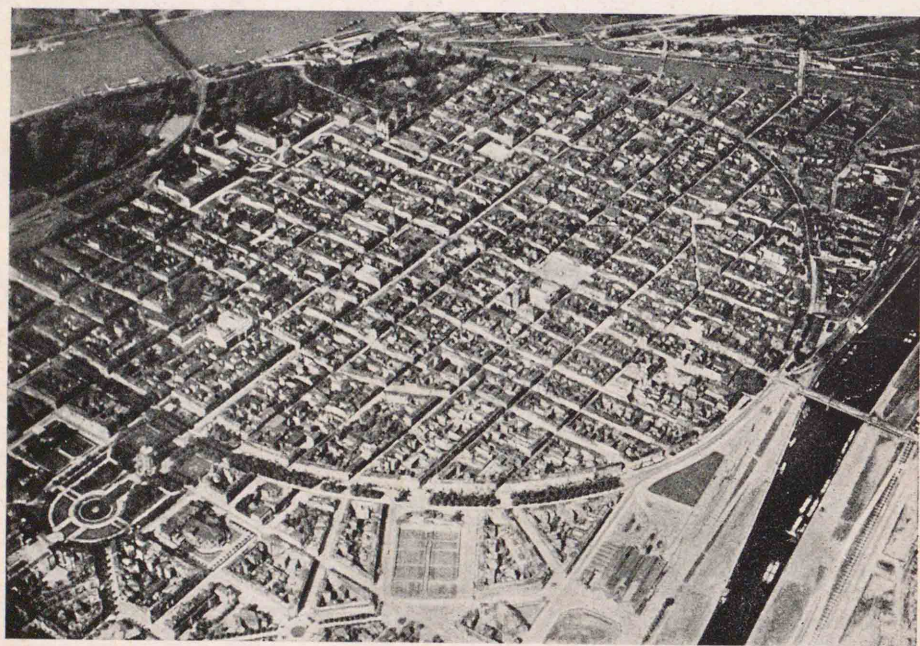
→ 散村 (エルツ山地)



← 街村 (北獨逸平野)



カリフォルニアの新住宅区



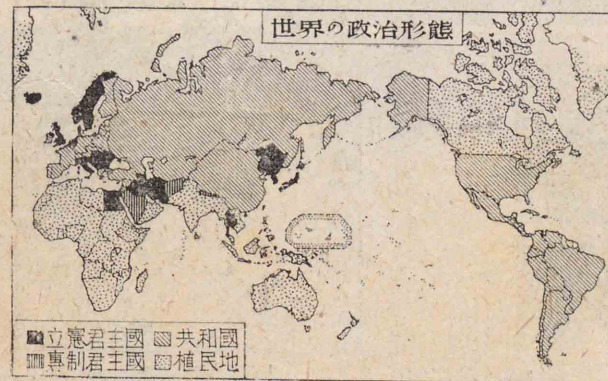
獨逸マンハイムの計畫的都市

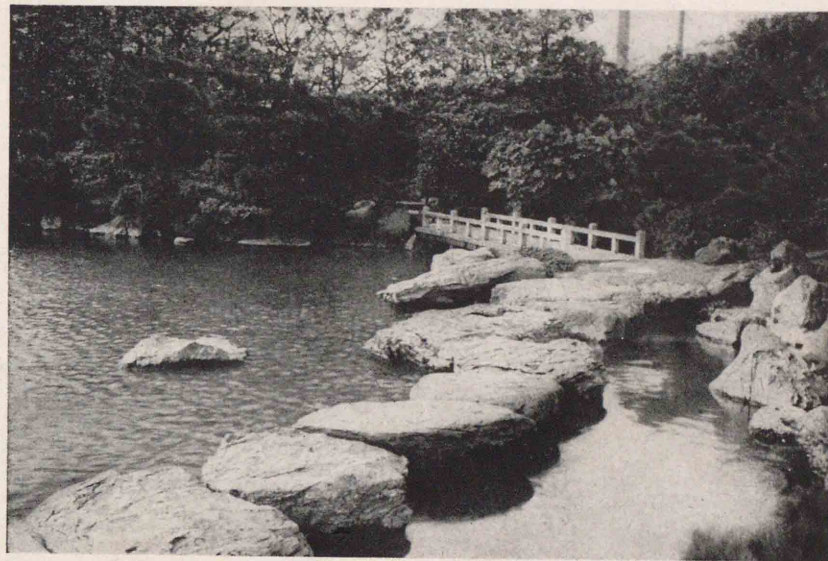
教都市(門前町の如き)遊覽都市(觀光都市)休養都市(溫泉都市等に發生から自然都市)人為都市(混合都市に形態から直交式都市放射狀式都市同心圓狀式都市)城郭都市等に分たれる。近代の都市計畫によれば一都市が商業地域工業地域住宅地域風致美觀地域に分たれ又田園都市と稱せられる特殊な住宅地域もある。

第六節 政治

國家と國民

獨立國は世界に約六〇あり、國體によつて君主國と民主國(共和國)とに、政體によつて立憲國と專制國とに分たれる。日英兩國は立憲君主國であり、米佛獨三國は立憲共和國である。又最近獨國のナチス、伊國のファシシ、蘇聯の政治等の如き政治形式の新傾向も生じて來た。國家は民族・宗教・言語等必ずしも單一ではない。従つて主要民族は他民族の同化につとめ、國民の





東京の清澄庭園



巴里のブローニュの森公園

團結により國勢の發展を期しゐる。又各國民はその國の地理的環境の影響を受け、各特有の國民性を有する。

國境と領海

國境には山脈・河川・湖海・森林等の如き自然的事物、又は宗教言語・民族等の如き人文的事象による自然的國境と經緯線等による人為的國境との二種がある。これ等國境附近には中立地帯が設定され、或は緩衝國が成立することがある。又海岸から三哩以内の海面をも領有し、これを領海と稱する。

植民地

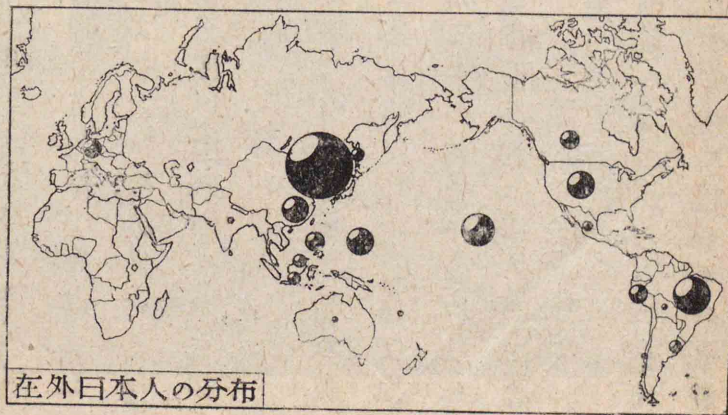
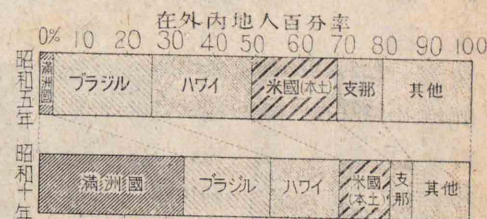
主要國は過剩人口の解決、原料品・食料品の獲得、加工品の販賣等を行ふため植民地を領有する。植民地には移住植民地・投資植民地・商業植民地等の別がある。植民地所有國は歐洲に多く、英・佛・伊・蘭・白はそれ、歐洲以外では日・米兩國がある。植民地には租借地・委任統治地・保護國・自治領・直轄地等の區別がある。

移民

移民現象は人口の過剩國で生活の困難な地方から、人口稀薄國の生活安易な地方へ一時的又は永久的に移住する時に起るもので、最

近一ヶ年間の出移民数は英國が首位で、我が國は第二位を占め、伊波西獨之に次ぎ、入移民数は伯刺西爾が首位で、米國、亞爾然丁、加奈陀之に次ぐ。最近の我が移民の渡航先は滿洲國が大部分で、伯國比島が之に次いでゐる。

在外内地人總數は約九三萬人、内滿洲國が最も多く、伯國、布哇、米國、支那等之に次ぎ、その他比較的多いものに比島、祕露、加奈陀等がある。海外在留邦人の送金額は國際收入の一要素で、毎年約二千萬圓に達する。伯國移民には珈琲園行の契約移民と自作農移民等がある。伯國に於ける過去五〇年間の外國移民總數は約四〇〇萬人で、内我が移民は一七萬人に



過ぎない。米國に於ける我が移民は米國籍の子孫を加ふればその數約三〇萬に達する。馬來諸島に於ける我が移民の企業は各種産業に及んでゐる。滿洲移民は我が對滿政策の一基調をなすもので、政府は二十ヶ年間百萬戸(五〇〇萬人)入植の目標を立て、集團移民、自由移民、青少年義勇軍共に極力奨励してゐる。

國土の膨脹

英國は世界各地に領土を獲得し、露國は漸次極東及び中亞に進出し、殊に海洋(不凍港)への進出に努め、佛國も亦大なる領地を有し、蘭國は蘭領東印度を有するに至つた。我が國は日清日露の兩役の結果として、臺灣、樺太、朝鮮を領有し、關東州を租借し、世界大戰後には南洋群島に及び、滿洲事變後は大陸方面にも勢力を扶植するに至つた。

現在に於て本國面積の大なる國は、伯米、露、支等で、植民地を加へれば英國が最大で、世界陸地の五分の一を占め、露、佛、支、米がこれに次いでゐる。

國家の自給自足と經濟ブロック

國家は主要産業により、農業國、工業國等に分たれるが、各國は一朝有事の際、自給自足をなし得る經濟的國

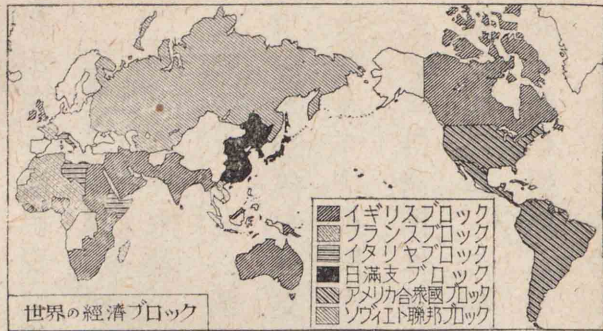
急激な膨脹を示し、今や三〇億に達せんと

我が財政は国力の伸展に伴ひ、

財政

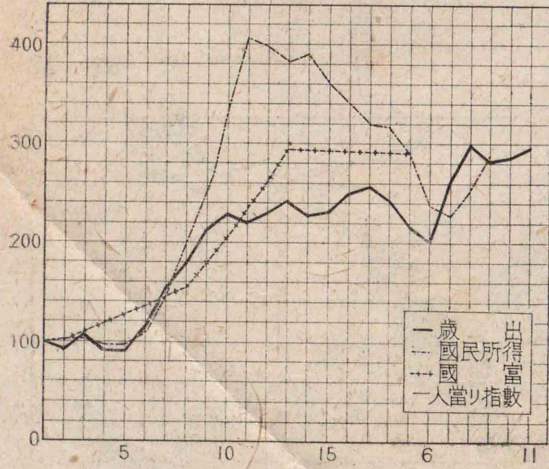
のブロックの強化に外ならぬ。

洋との関係も重大なる關心を有するはこ

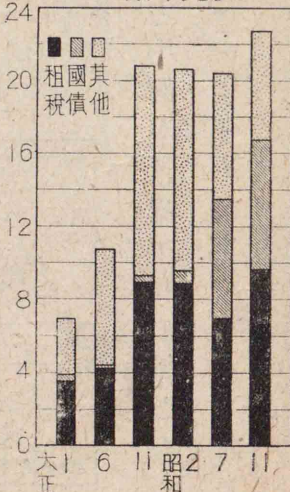


が國は優秀なる工業力を持ちながら、資材の不足に悩むことより、茲に密接なる經濟提携をなし、以て日滿支三國の國利民福を計るべきである。東亞新秩序建設の必要なる所以はこゝに存する。南

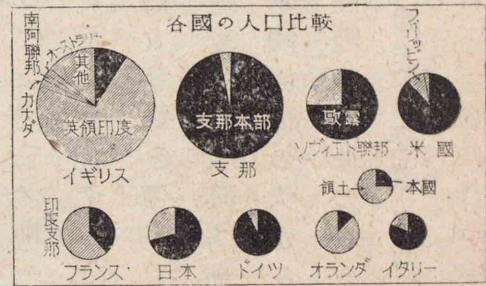
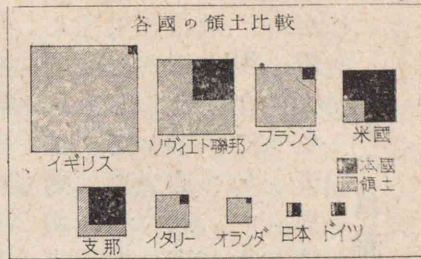
歳出・國富・國民所得累年比較



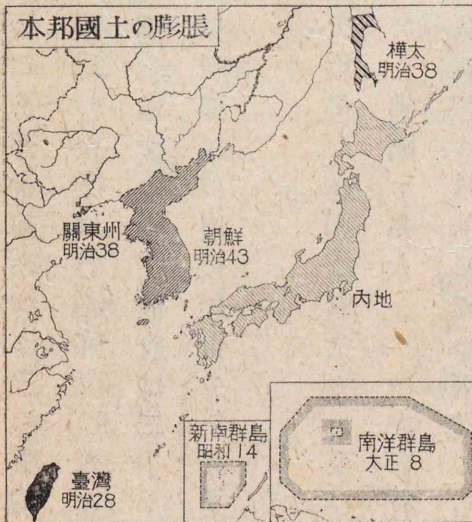
歳入内譯(租稅國債)の累年比較

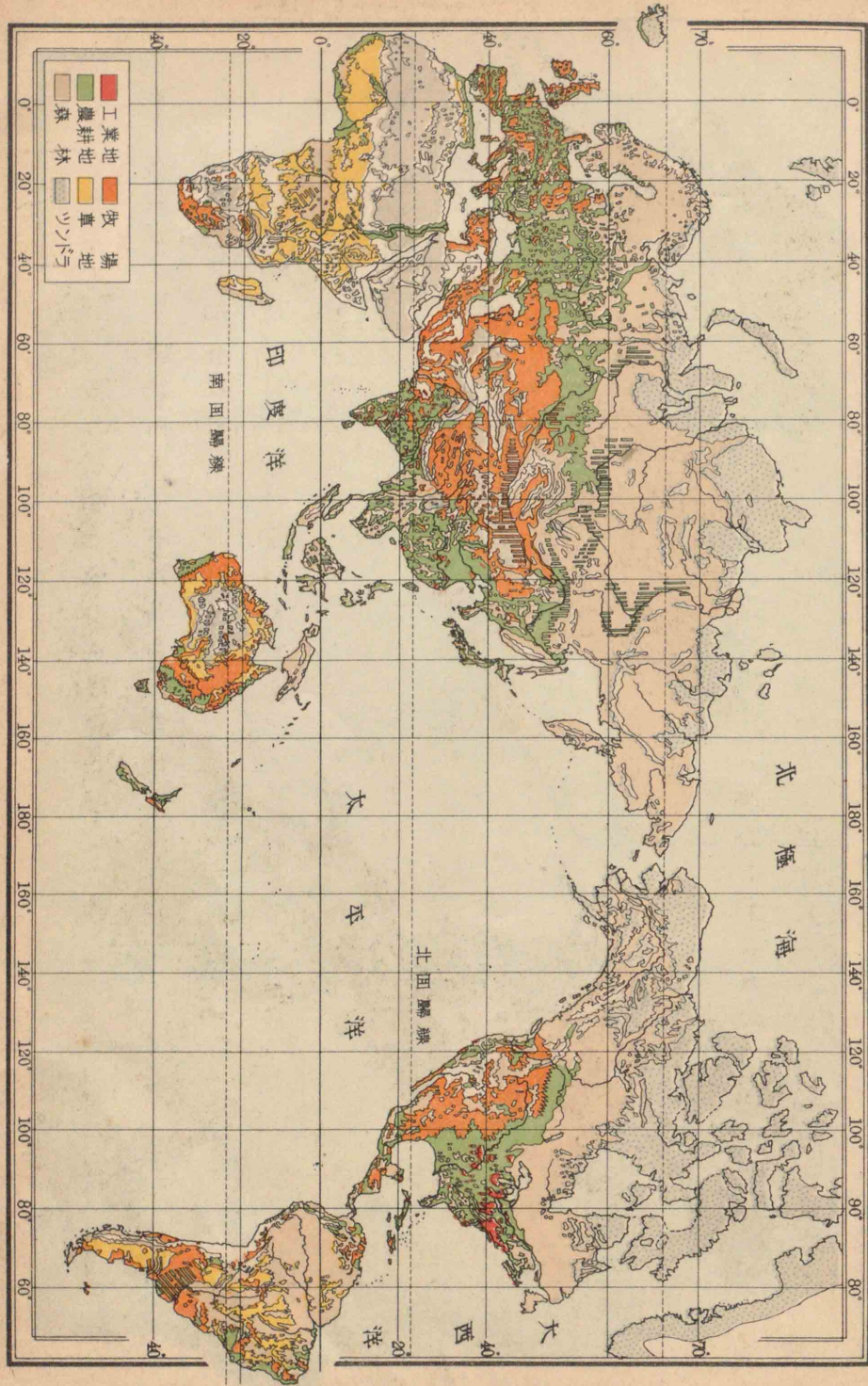


彼の原料資源の輸入と、我が工業品の輸出とは、滿洲に對する資本の投資と技術の進出等と相俟つて緊密なる日滿の有機的關係を示してゐる。日支の關係も略これに等しく、極めて豊富なる天然資源をもちながら未だ開發にいたらず、我



家主義の確立に腐心する。こゝに於てブロック經濟運動が勃興した。英吉利ブロック・北米合衆國ブロック・佛蘭西ブロック・蘇聯ブロック及び我が東亞ブロック等の如きはその有力なるものである。我が國と滿洲とは經濟的に不可分な關係を有し、



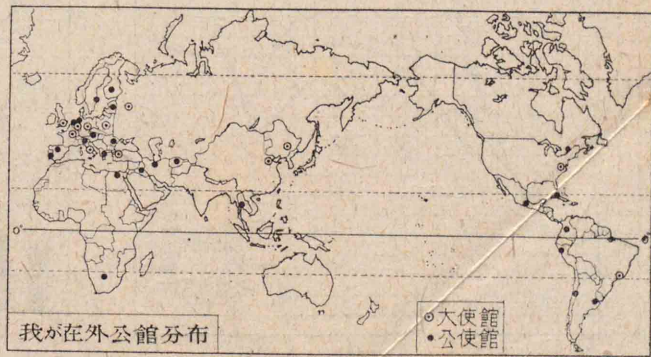


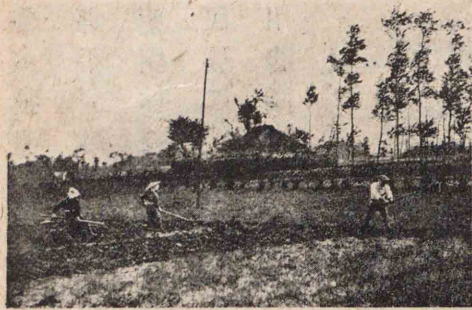
世界土地分類

してゐる。財政の状態は國の國民經濟發達の程度に依つて差異があり、我が歳出は略國富及び國民所得の變化に伴つて増減してゐる。歳入内譯は租稅・國債の外官業及び官有財産收入等が主で我が國では租稅・國債共に著しく増加してゐる。

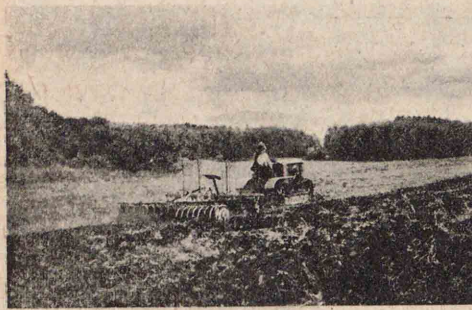
軍備 我が國は列強と共に陸海空軍の強化につとめ、極東及び太平洋の平和の確保と國威の發揚のため、之が擴大充實を計つてゐる。

國際關係と外交 國際關係の中心となる國々は、歐洲では英・獨・佛・伊、北米では米國、極東では日本で、これ等諸國は世界及びその地方に於ける有力國家である。これらの有力國家相互の勢力均衡が世界平和の鍵となる。我が條約國約五〇國は全世界に分布し、大使・公使・領事等を交換、主要地に駐在せしめ、政治經濟上の發展に資してゐる。



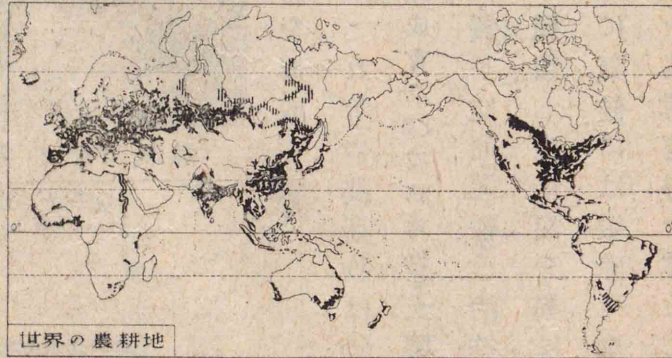


小 農 法



大 農 法

農業 比較的文化の進んだ地方に於ては知識と熟練により住居倉庫等の設備が完備し棉花煙草甘蔗等を産する高度な農業地



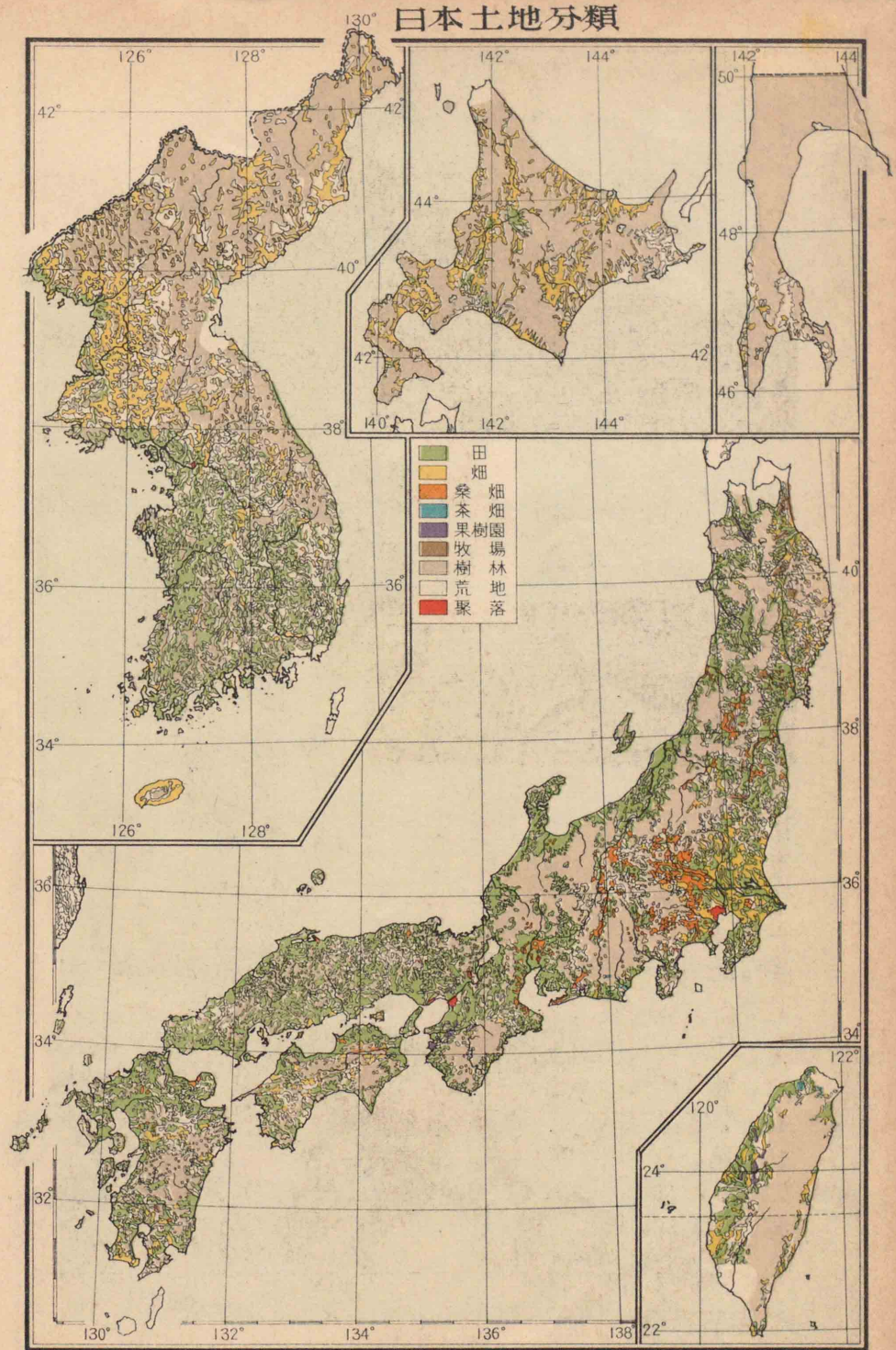
世界の農耕地

農業

第二章 農業

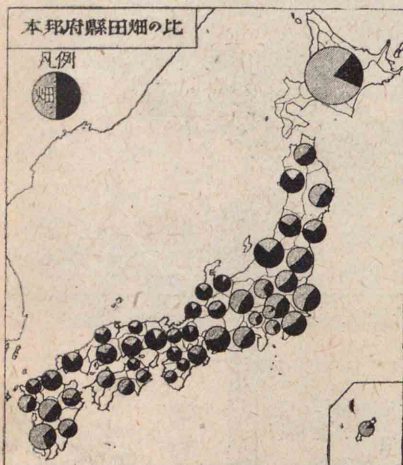
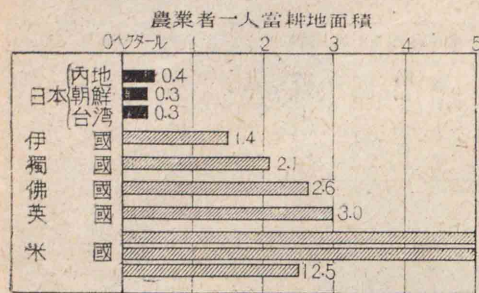
アマゾン平原太平洋諸島等の熱帯森林の邊縁又は伐採地に於ては原始的農業が行はれ、バナナ・甘藷・玉蜀黍・米・ココ椰子等が原住民に依つて栽培せられ、インド・蘭領印度・ナイル等の熱帯

日本土地分類



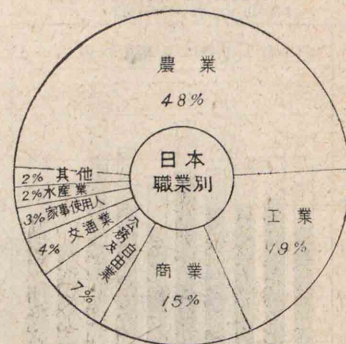
1:1000000

0 100 200 300 km

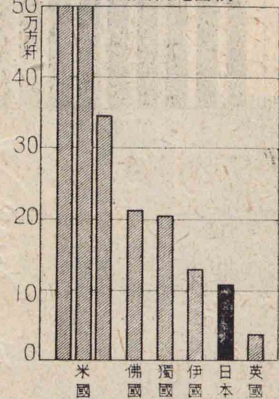


我が内地に於ては國民の半數が農民で、農業は我が國の主要産業である。然るに農者一人に對する耕地面積は我が國は米、英、佛、伊の諸國に比すれば遙かに少く、ために我が農民は米國等の大農法に對し、小農法を採用し、單一栽培より多角農業に移化

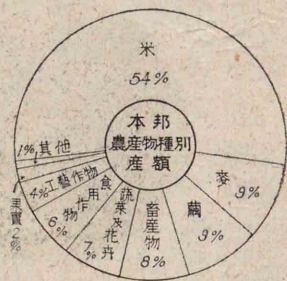
本邦有業者職業別



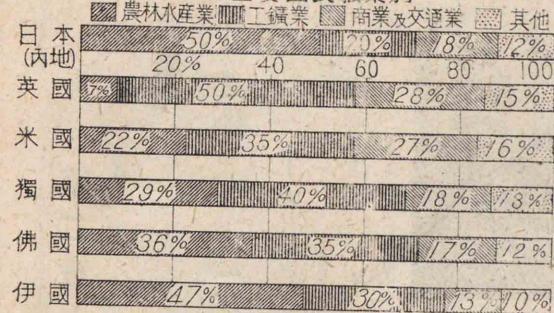
主要列國耕地面積



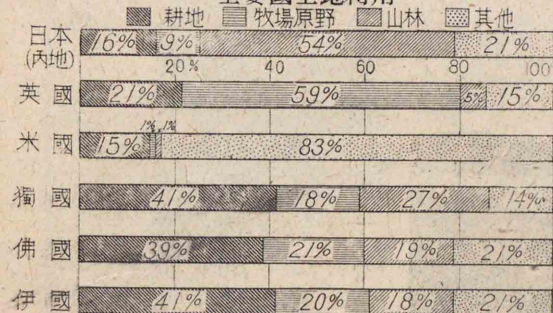
とが少くない。降水量の少ない地域に



主要國民職業別



主要國土地利用



帯が發達してゐる。北米の中央平原支那平原、歐羅巴の諸平野等の如き温帶潤葉樹林の伐採地及び草原地は進化した民族により開發せられ、小麥その他の有用農産物を産出するに至り、世界の主要

農耕地帯を形成してゐる。これ等の農産物は降水量、温度、成育及び成熟時期、土壌、勞力、熟練貿易、交通、運輸、政治等に應じて種類と生産額を異にする。殊に氣候には敏感で、冷害、旱害、風水害、雪害等を被るこ



灌漑による果樹栽培

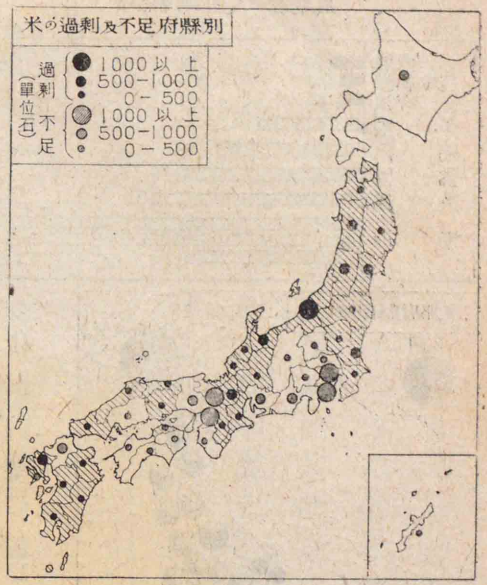
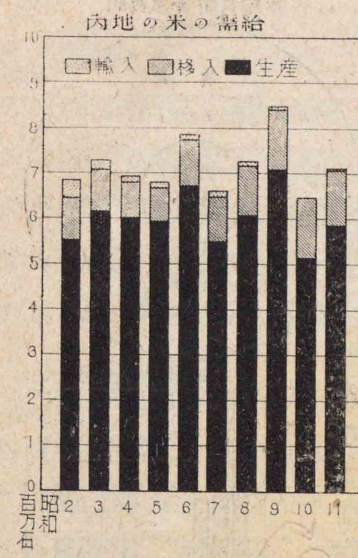


世界の灌漑農業地域

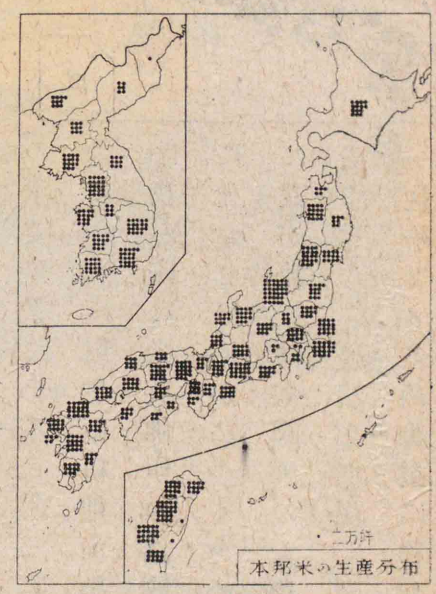
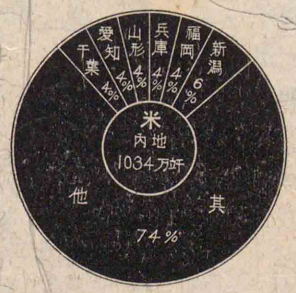


各國の耕作景(一)

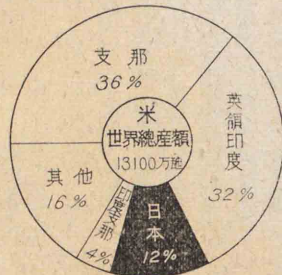
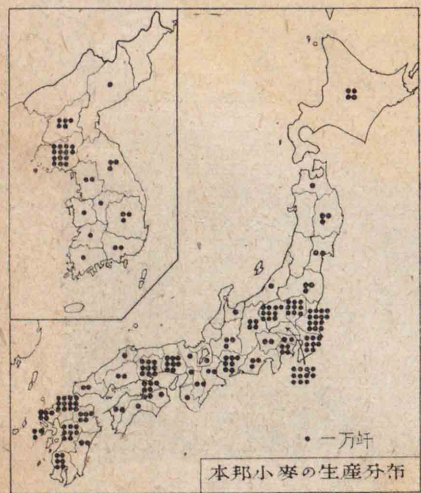
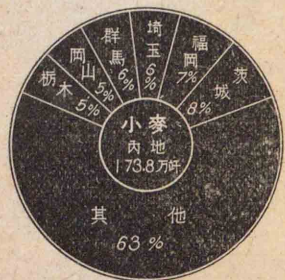
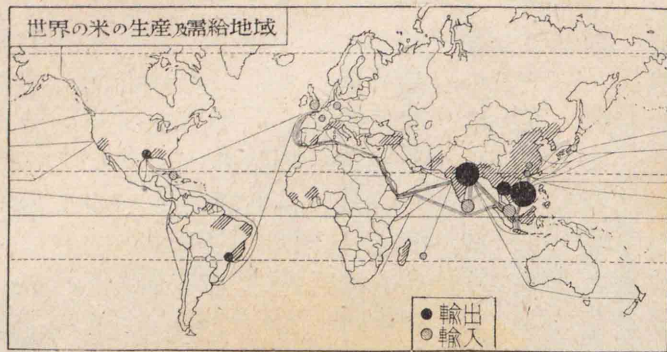
- (上) 我が國 (臺灣桃園附近)
- (下) 英國 (西南イングランド)



しつゝある状態である。又農業には粗放農業・集約農業の別がある。世界の耕地の大部分は畑地であるが、亞細亞の季節風帯に於ては田の形式をとるものが多い。我



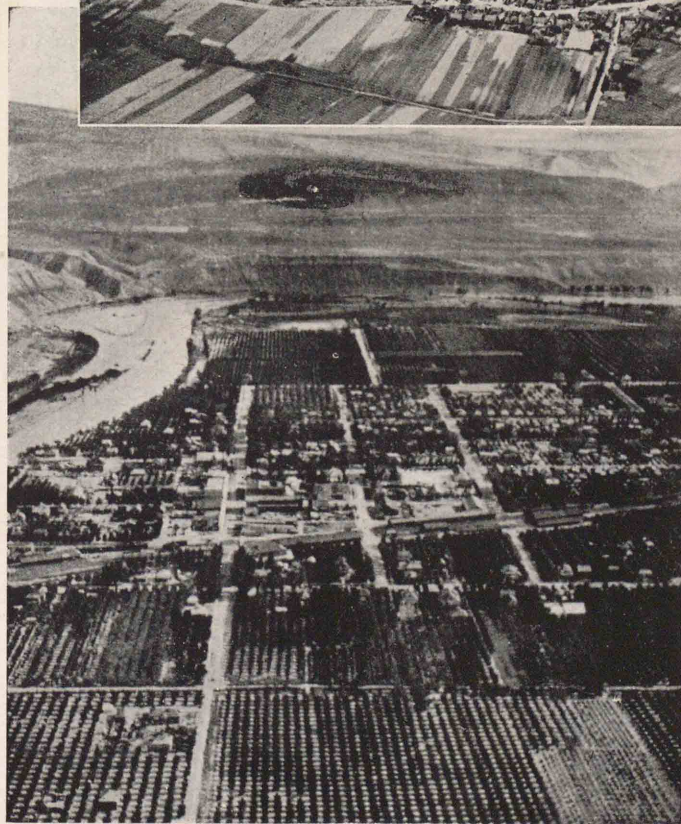
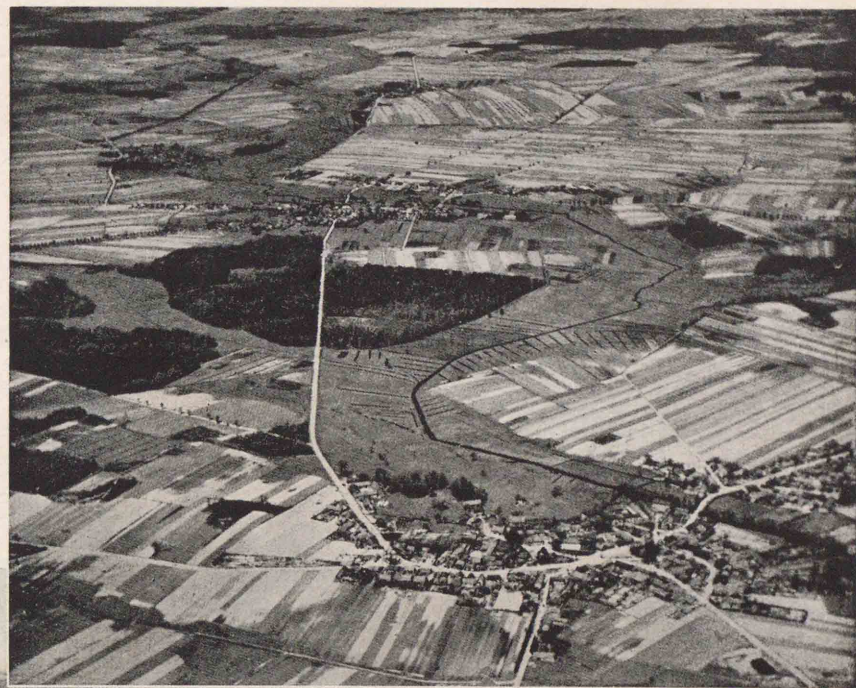
度・日本は三大生産國である。氣候の關係上内地は一期作、臺灣は二期作、印度



米

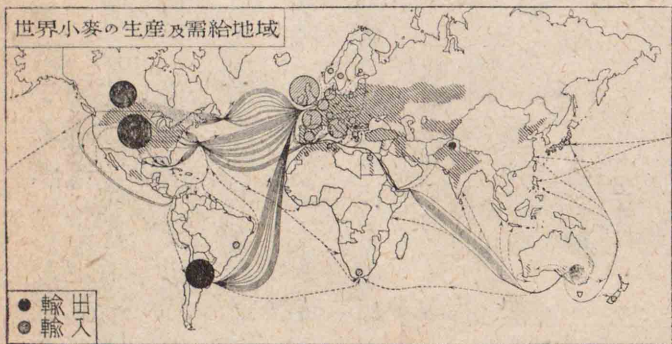
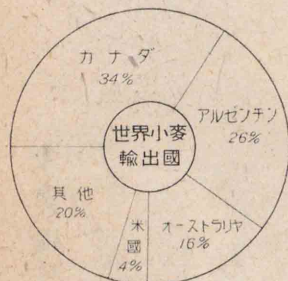
と略一致し、小麦より温暖な地方に適し、熱帯三角洲に好結果が得られ、支

が國に於ては耕地の五四%が田で、その内約四割は裏作が可能である。我が國の農産物は米が首位で、總額の半を占め、麥、繭と共に三大農産物をなしてゐる。



各國の耕作景(二)
 (上) 獨逸 (北獨逸平野)
 (下) 米國 (紐育附近)

支那は三期
作を行ふ
又北海道・奥
羽地方に於
ては早稲の
栽培を主とする。
之等の諸國では米を常食と
するため、自國消費をなし、却つ
て人口密度小な印度支那から
輸出する。我が内地の生産は需要に對して約三割不足するが、近年外地
米の増收に成功し、輸入額を著しく減じた。



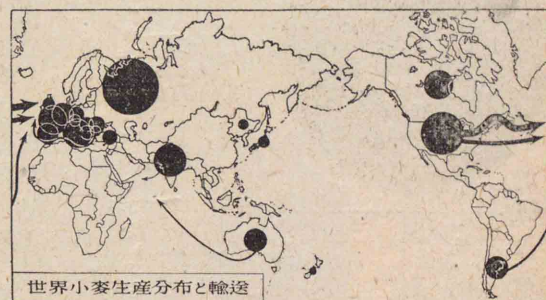
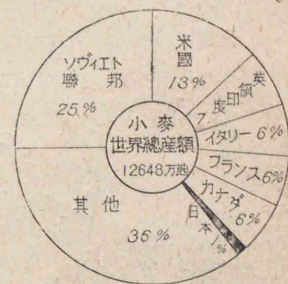
人口の密な歐洲が中心で、輸出國は加奈陀亞爾然丁・濠洲米國等である。我が國の小麥の主産地は西南日本及び中央日本の寡雨地域で、近時増産計畫を立て國內消費に對して自給自足するに至つた。小麥作地域は氣候により冬蒔小麥地域と春蒔小麥地域とに分れ、我が北海道・蘇聯の黒土地方の北部、米國の北部及び加奈陀は春蒔小麥地域に屬する。

支那は三期作を行ふ又北海道・奥羽地方に於ては早稲の栽培を主とする。之等の諸國では米を常食とするため、自國消費をなし、却つて人口密度小な印度支那から輸出する。我が内地の生産は需要に對して約三割不足するが、近年外地米の増收に成功し、輸入額を著しく減じた。

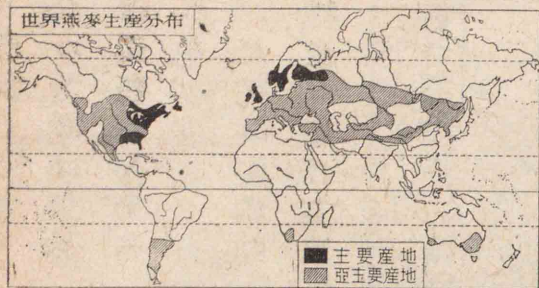
小麥

小麥は温帯で適度な降水量地域に産し、南北兩半球の文化地帯に廣く栽培せられ、乾燥地帯の周縁又は草原地帯に好結果が得られる。世界的に見れば最も重要な穀類で、歐米人の常食の原料となり、需要地は

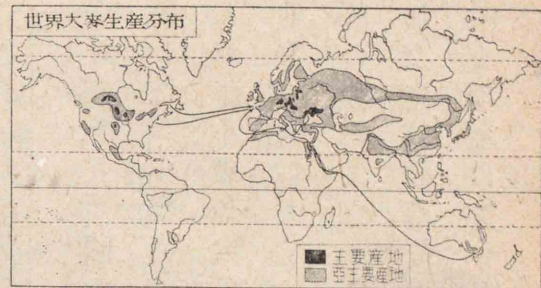
支那は三期作を行ふ
又北海道・奥羽地方に於ては早稲の栽培を主とする。



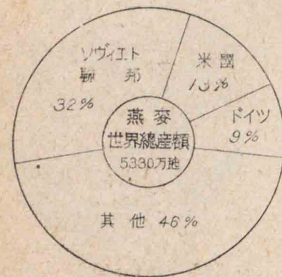
本邦の田植



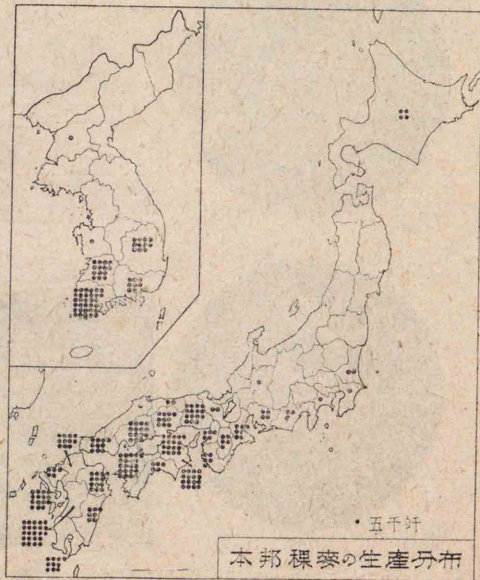
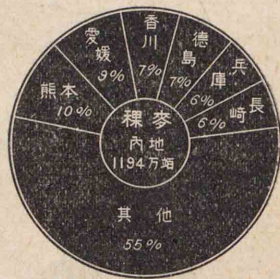
國に於ては稈麥は西南日本に、大麥は中央及び東北日本に、燕麥は北海道に主に栽培される。



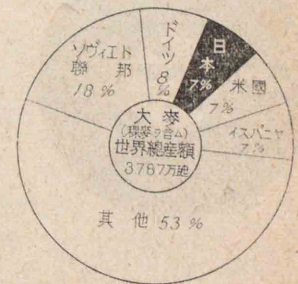
される。歐米では之等の麥類は主に家畜の飼料とするが、大麥は麥酒醸造用、ライ麥は黒パンの原料ともなる。我が



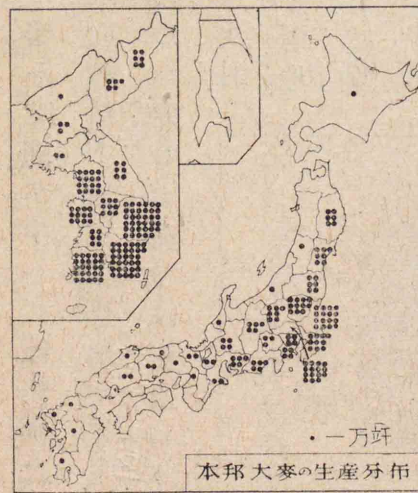
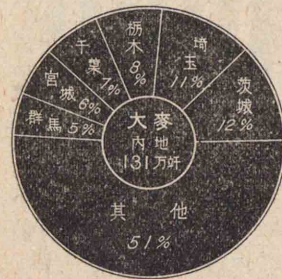
その他の食用作物 我が國は外國に比する



と甘藷の産が著しく多く、馬鈴薯は近年漸く生産が増加しつつある。外國に於ては馬鈴薯は重要な副食物で、産額も多く殊に歐洲大陸の平野に卓越する。玉蜀黍は外國に於ては極めて重要な家畜の飼料で、小麥よ

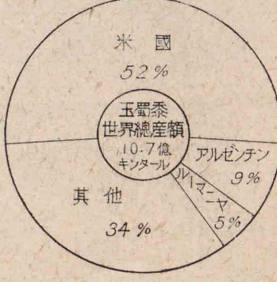
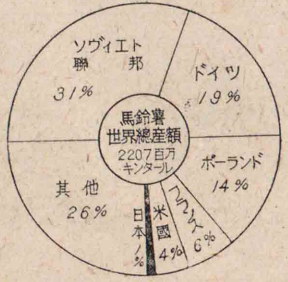
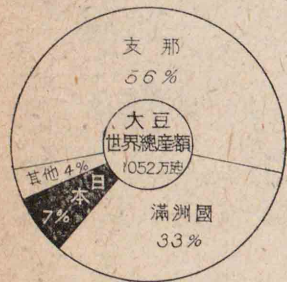
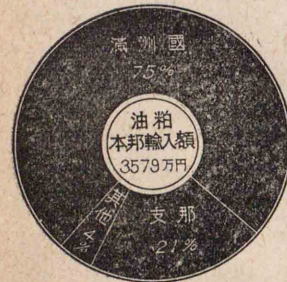
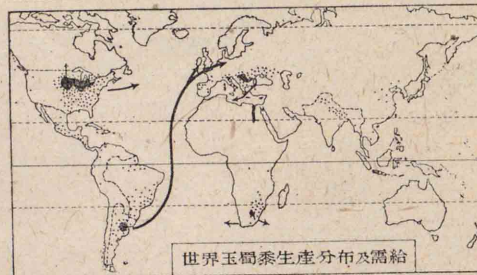
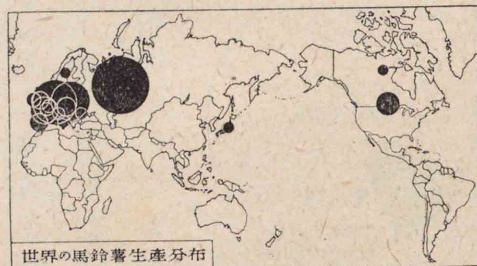
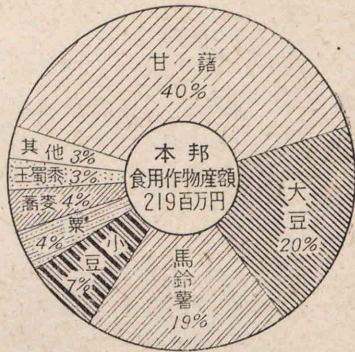


麥作地域より低温で、且貧弱な土壤の地域にも栽培される。燕麥の栽培條件はライ麥と略等しく、ライ麥と燕麥との選定はその住民の需要によつて決定

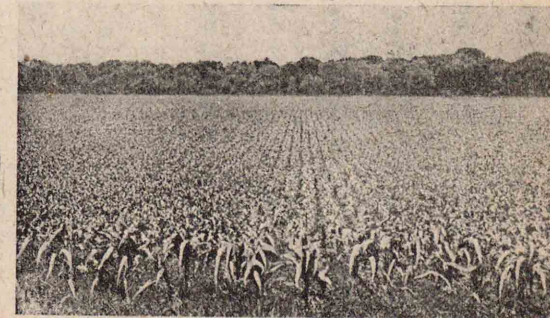
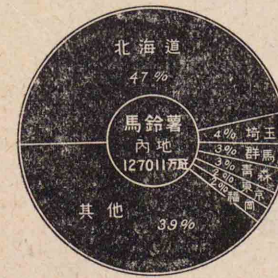
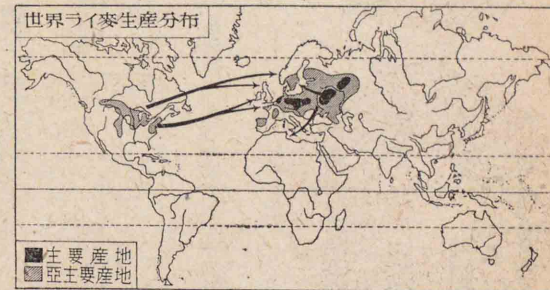
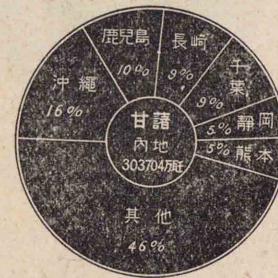
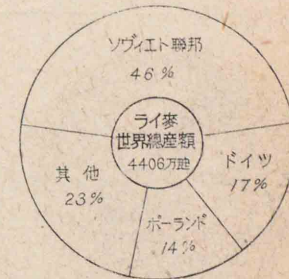
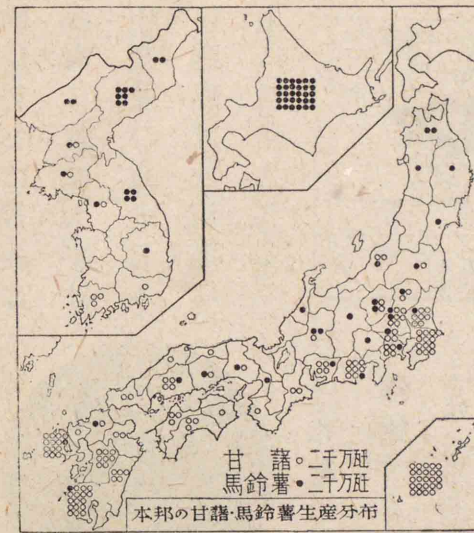


大麥・稈麥・燕麥・ライ麥 大麥は小麥より低温で、且乾燥せる地域にも適するが、小麥と地域的條件の等しい點も多い。稈麥は大麥作地域より高温の地域に適し、ライ麥は小

産は需要の三割を充
すに過ぎず、満洲及び
朝鮮から輸入する。
洲は世界最大の
大豆供給國で、我
が國のみならず
支那・歐洲にも輸
出する。



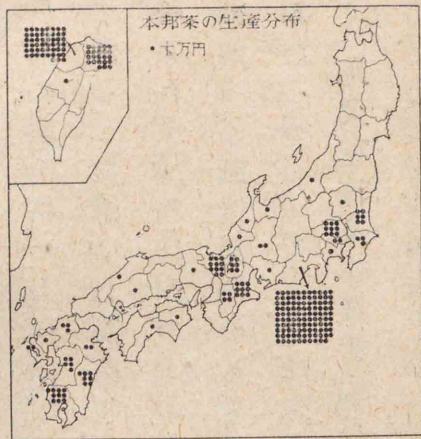
り暖濕の地域を
占め、米國は世界
總産額の半を占
める。
大豆は東洋の
特産で、滿洲・支那に多く、我が内地



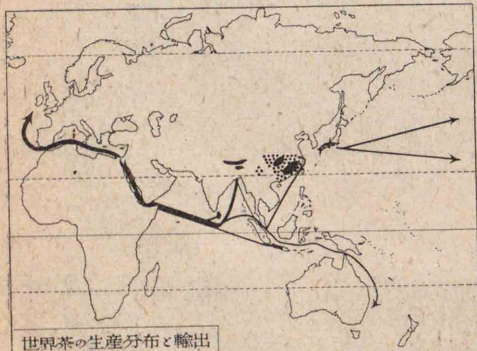
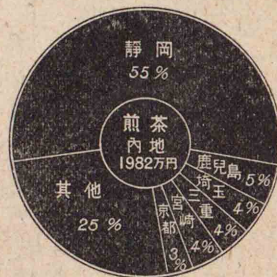
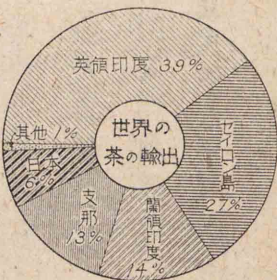
米國の玉蜀黍畑

茶の總産額の約七割緑茶は約二割を占めてゐる。

世界最大の紅茶消費國たる英國は世界の主要輸出國たる英領印度錫蘭島より輸入してゐる。本邦産の緑茶は緑茶消費國たる米國へ輸出せられるが、その量は本邦産額を



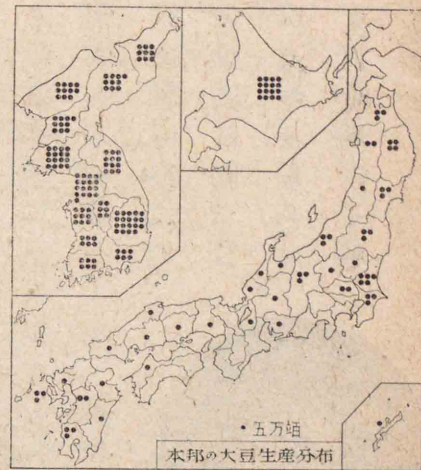
紅茶は共に消費量が大である。



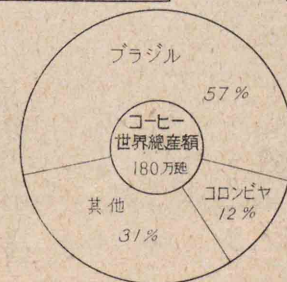
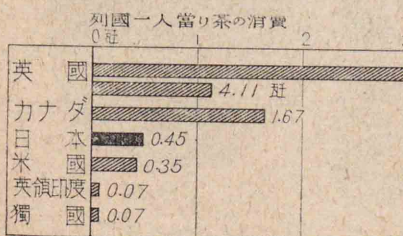
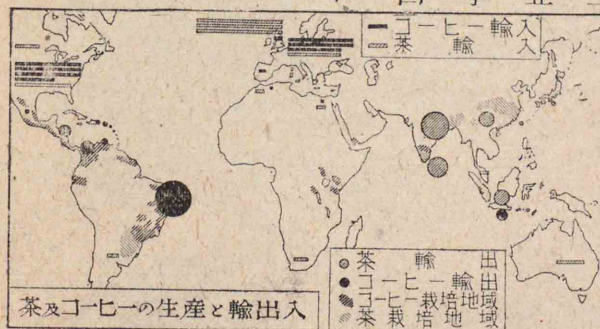
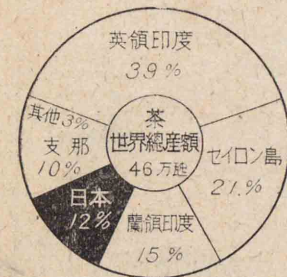
佛等の歐洲大陸諸國は之に反し蘇聯は茶珈琲

節風帯に多く、珈琲の生産地は伯刺西爾・コロンビヤ等の熱帯亞熱帯地方に限られる。

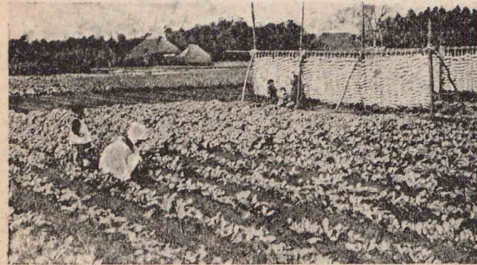
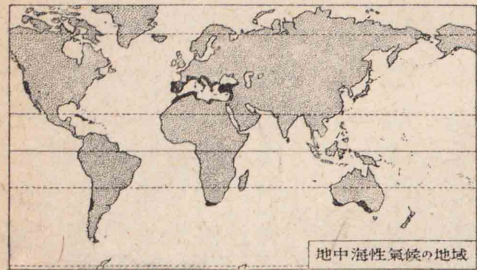
日・支・英・米等の諸國は珈琲よりも茶を多く消費し、殊に英國は甚だしく、獨



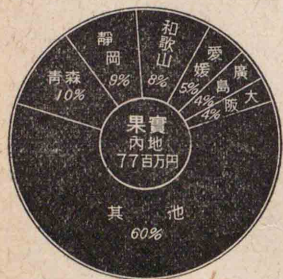
て茶の生産地は亞細亞の季節



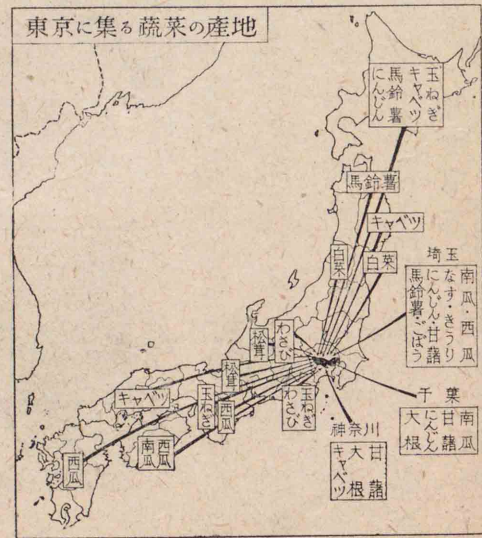
茶珈琲カカオ 茶珈琲は溫暖多濕ても排水のよい土壤又は傾斜地に栽培されるが茶樹は珈琲よりも低溫地域にまで及んでゐる。従つ



東京市郊外の大根畑



於ても近郊遠郊促成等の栽培が行はれる。我が國に産する主なる果實は柑橘類を第一とし柿梨苹果之に



郊の高度な集約的蔬菜栽培は世界的傾向で、近時は遠郊蔬菜栽培も著しく増加した。東京近郊のメロン等の如き温室栽培又は伊豆半島室戸崎の冬季蒔豌豆久能山南麓の早生苺等の如き冬季露地栽培等による促成栽培が行はれるに至

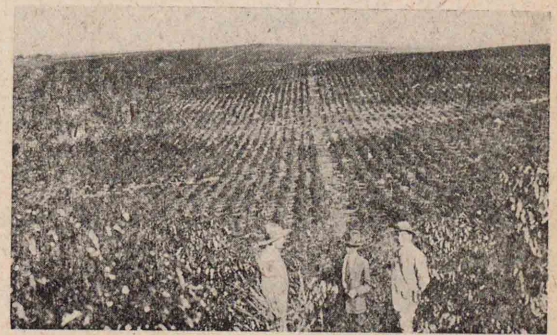
つたのは 歐米風の影響であり、花卉及び果實に

約三割に過ぎない。支那も緑茶の産地で我が國の競争國である。我が國の茶樹は中央日本以西に栽培せられ、近時紅茶の生産にも進出しつゝある。静岡縣は内地産額の半以上を占め、國內茶の大供給地である。臺灣は烏籠茶包種茶・紅茶等輸出のものゝを産する。珈琲は世界的に見れば茶よりも産額が多く、歐米諸國の重要な輸入品である。飲料及びチョコレート原料たるカカオ(ココア)は熱帶阿弗利加の黄金海岸に多く産する。我が國の蔬菜は農村に於ては自給自足し、都市は農村より供給を受け、殊に大都市は全國的である。都市近

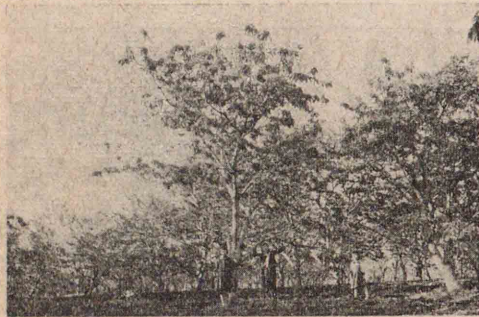
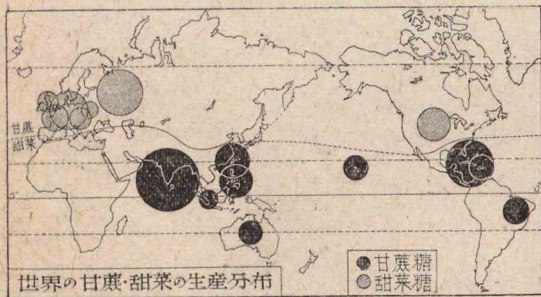
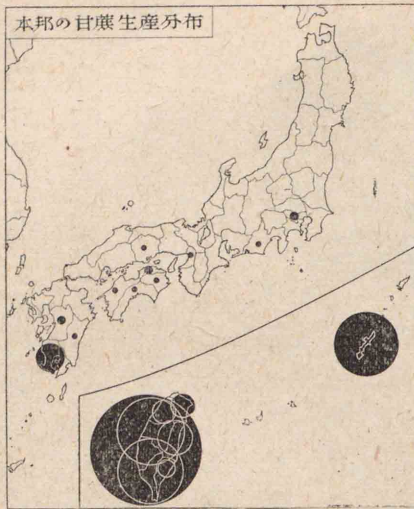
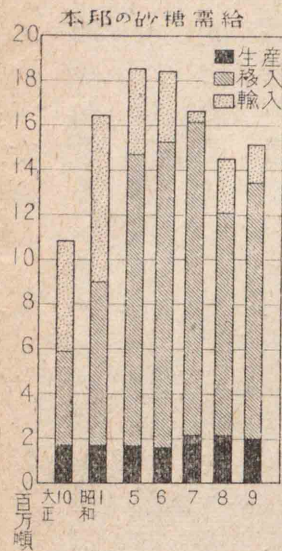
蔬菜花卉及び果實(園藝農産物)



宇治の茶摘



ブラジルの珈琲畑



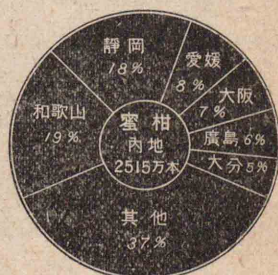
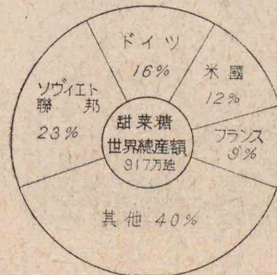
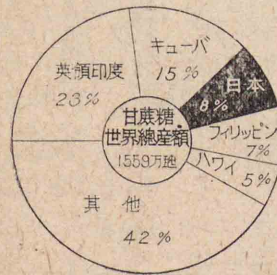
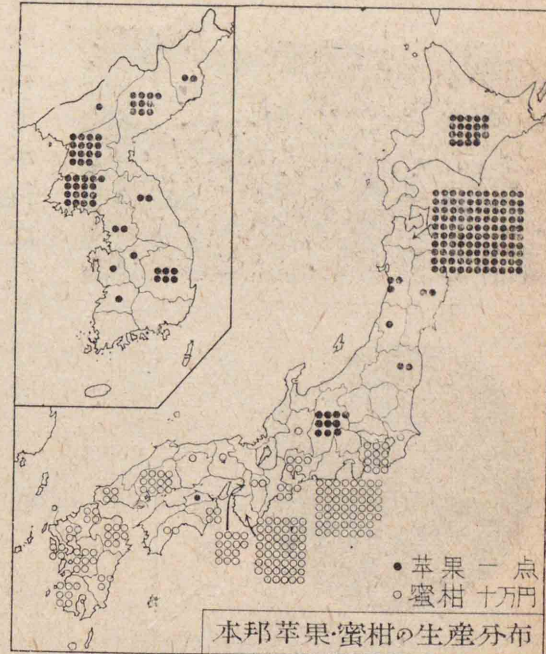
山形縣の櫻桃畑

には甜菜が適し、甘蔗糖は英領印度及び玳瑁に次ぎ本邦は世界第三位を占め、甜菜糖は歐洲大陸が核心地域である。甘蔗糖と甜菜糖との比率は四對三である。英領印度及び日本は自國消費が大であるから、玳瑁・瓜哇・比島より砂糖の需要國米國英國等へ輸出する量が夥

次ぎその他葡萄・桃梅・枇杷・櫻桃等がある。氣候上柑橘類・枇杷は中央日本以西に、苹果・櫻桃は中央日本以北に産じ、朝鮮からは苹果を、臺灣からはバナナ・パイナップル・罐詰等を内地へ移入する。葡萄は苹果よりも溫暖な地方に産し、地中海性氣候地域には葡萄・オレンジ・レモン・オリーブ等が栽培される。

甘蔗・甜菜・棉

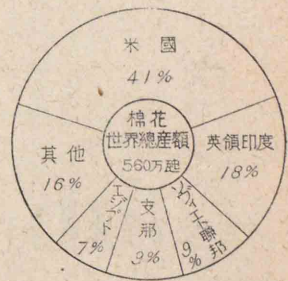
熱帶地方には甘蔗、冷涼な溫帶地方



しい。我が國は西南日本に甘蔗糖、北海道に甜菜糖を産し、

自給自足の域に達してゐる。

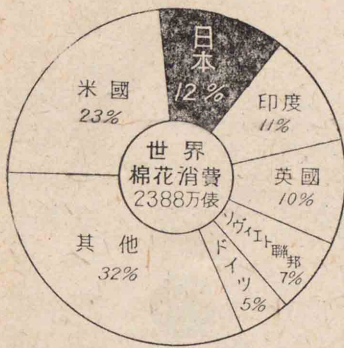
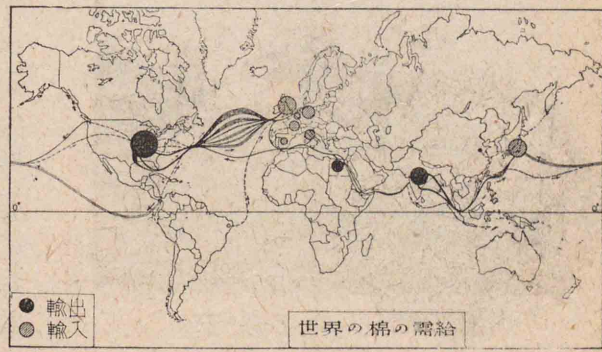
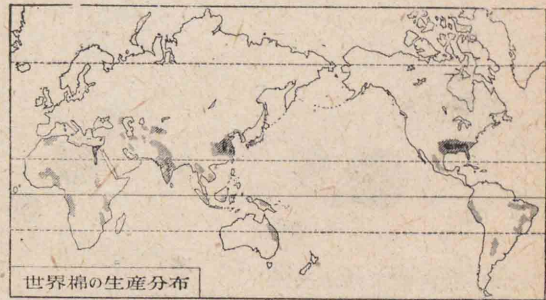
棉は我が國の重要工業原料品であるが、朝鮮産の外は輸入



に仰

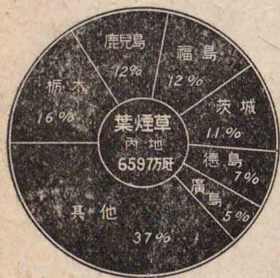
ぎ、我が輸入總額の三割に

達する。我が内地も中央日本以西は棉花を栽培してゐたが廉價の輸入棉に壓倒されたのである。棉花の産地は無霜季節二〇〇日以上のある暖地で、米英印の如く雨量の多き所か、埃及の如



き灌漑可能地域かである。棉花の生産は米國が世界の首位を占め、英印・蘇・支・埃等之に次ぐ。世界の棉花消費高は米國が首位を占め、我が國は第二位で、英印・英國が之に次ぐ。世界棉産國米國及び英印は又主要消費國であるが、日・英兩國は純然たる原料棉輸入國である。

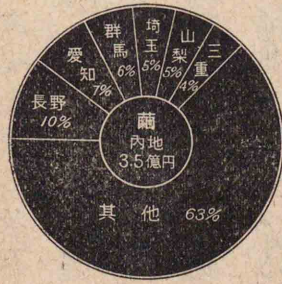
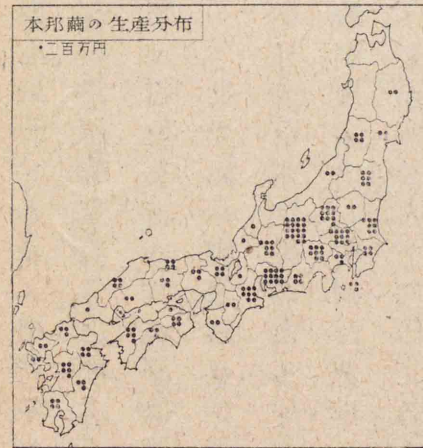
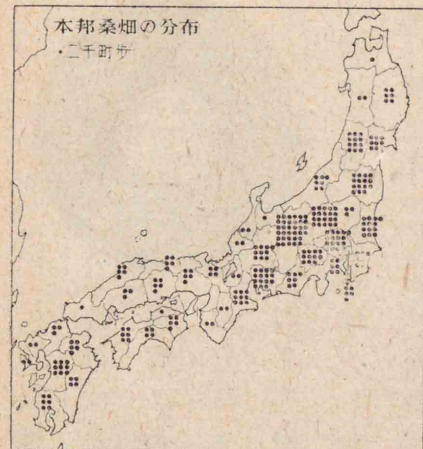
米國は自國需要を充たし、尙餘剰は輸出し、英國は英印及び埃及に多量の原料棉を産するが、尙高級品は米棉の輸入を仰いでゐる。我が國の輸入棉花は米英印埃及産でもとは米棉より印度棉を多く輸入してゐたが、最近我が綿製品の高級化と共に米棉を多く使用するに至つた。尙支那からも輸入され、滿洲にも我が資源として増産計畫が立てられてゐる。朝鮮の實棉は臺灣の甘蔗と共に外地の特産物で、前者は米國の陸地棉を移植して好成績をあげ、後者は布哇種・瓜哇種等を移植して在來種に代つたものである。



水産物
水産物の
水産物の

亞麻・麻煙草

亞麻の産地は東歐・米國・英印・亞爾然丁の四大中心地がある。我が北海道・朝鮮にも産し、滿蒙にも栽培される。又我が國はマニラ麻を輸入する。黄麻は亞細亞の熱帶季節風帶の特産で英印・支那から我が國へ輸入される。我が國への麻の輸入は我が生産の六倍に當り、その首位はマニラ麻で、主に比島から輸入される。煙草は英印・米國が主産地で、本邦では專賣制度の下に統制され、その産額は工藝用農産物中首位を占め、關東・九州に多く産し、自給の域に達してゐる。



養蠶

繭の

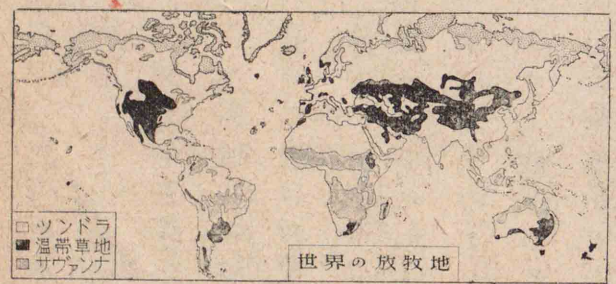
生産は我が農家

にとり、米作と並ぶ重要産業である。全國養蠶戸数は約二〇〇萬戸で農家總戸数の三六%の多きに達する。桑園の分布は略繭の生産と比例し、氣候上奥羽地方以南に適し、畑地の多い信州を中心とした中央高地の山麓地方に比較的集團してゐる。世界の繭の産地は亞細亞の東南部の季節風帶並びに南歐で、産額は伊・佛等は日・支兩國に比すれば極めて少い。

第三章 牧畜業

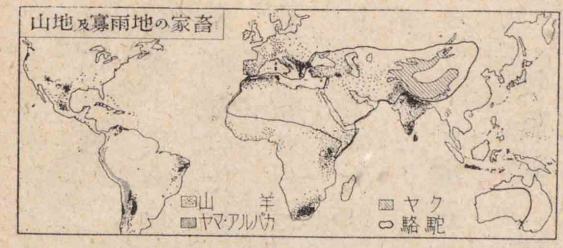
牧畜業

牧畜は原始的には草地・準沙漠地に於て放牧の形に於て行はれ、近代的には温帯に於て飼料の栽培又は輸入による舎飼が行はれるが、何れの場合も氣候に對する關係が深く、早害に對しては鑽井が行はれ、夏冬の季節的變化に應じて牧場の水平的・垂直的移動が行はれる。近來冷凍肉・罐詰肉の輸送によつて遠



隔地にある牧畜地の利用価値が高められた。

歐米人は夙に肉類、酪製品を常食とし、毛皮類を服装必需品とするため、牧畜業は長足の進歩をしてゐる。従つて消費地は歐米の人

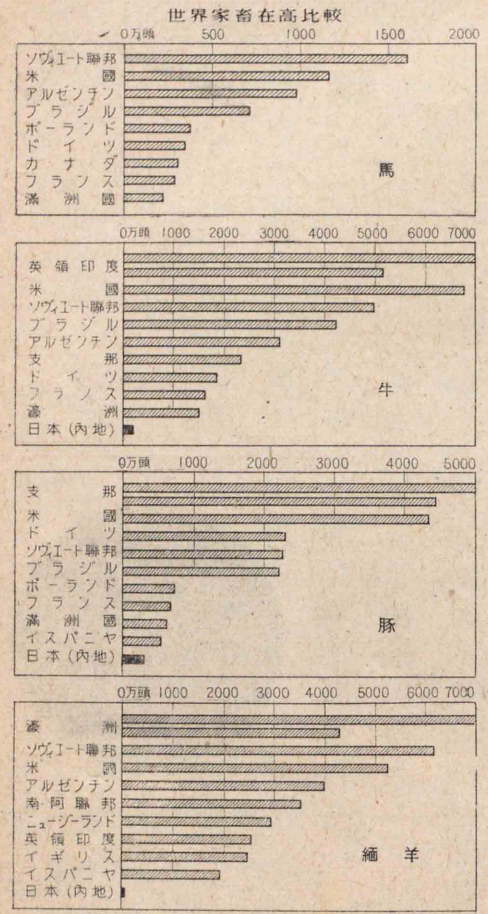


口密度大な工業地であるが、これが供給は人口密度の小さな亞爾然丁のパンパの平原、濠洲の中央平原、北米のグレートプレーン等の放牧地か、北米のプリーリー、歐洲の英・佛・獨・蘭・丁諸國等の比較的人口密度の大な舍飼地かである。世界の大放牧地は温帯草地・サヴァンナに大規模なものが多く、寡雨地帯と一致する。山地及び寡雨地にはリヤマアルパカ、駱駝等の特色ある家畜を飼育するものもあるが、馬・牛・豚・羊・雞の如きは最も普通の家畜である。

列國人口百人に對する家畜數

新西蘭	濠洲	亞爾然丁	米國	佛國	獨國	英國	日本(内地)
六	五	四	七	五	四	三	四
一	〇	二	五	〇	三	二	頭
二	一	五	頭	頭	頭	頭	頭
頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭

東亞の季節風帯は食料農業を主とするに反し、歐米の温帯半乾燥地帯は有畜農業を主とする。近時我が國民生活様式の變化は有畜農業を勃興せしめたが、未だ人口に對する家畜數は歐米諸國に比して遙かに少い。馬は温帯以北に限られ、中歐・西歐の文化地帯と東歐の農業地帯とに多く、亞細亞は亞刺比亞・蒙古の乾燥地帯に多い。南北米も亦盛に飼育される。



牛

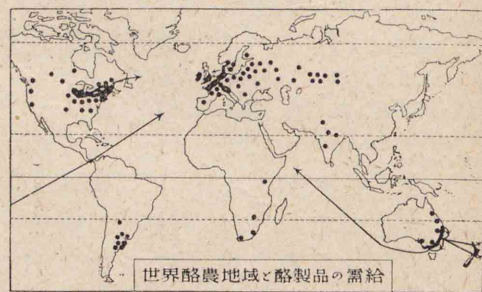
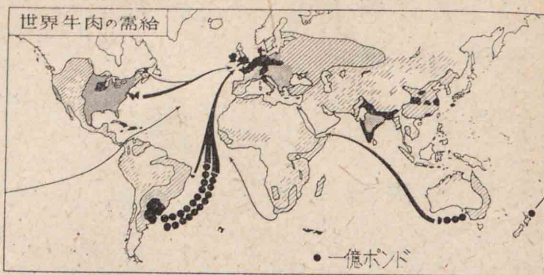
我が國の役肉牛は約九割を占め、乳牛は僅か一割に過ぎぬが、需要の増加に伴ひ最近急増しつつある。役肉牛は西南日本

も行はれる。

最大供給國は丁抹で、酪農工業が進歩し、和蘭に

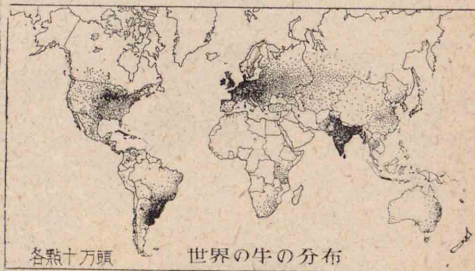
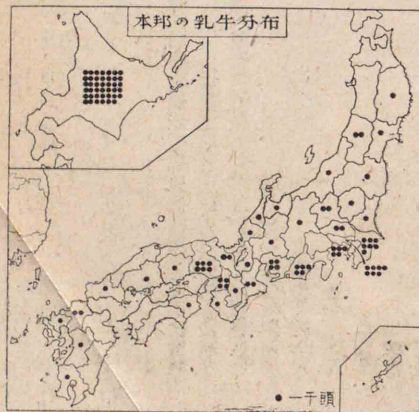
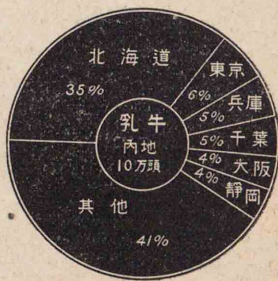
は濠洲新西蘭から歐洲へ輸出する。バターの一割で、副業としては比較的有利なもので、有畜

豚 我が内地の飼養戸數は農業戸數の約

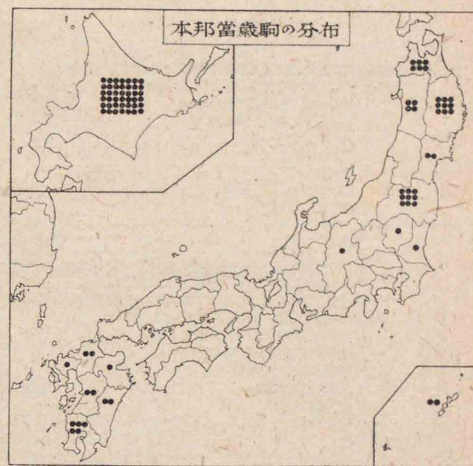


濠洲から歐洲へ輸出し、乳製品は亞爾然丁、肉類は亞爾然丁、

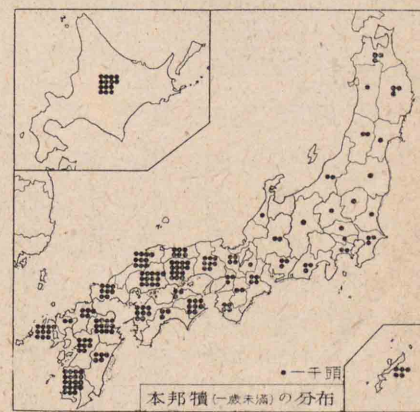
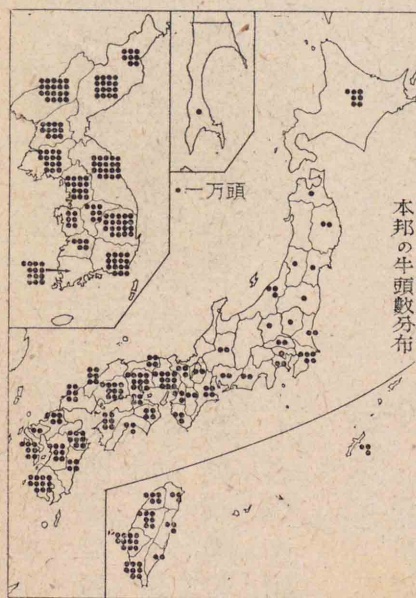
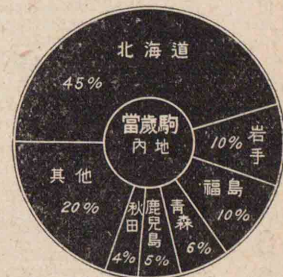
水量、氣温の適度な地域である。



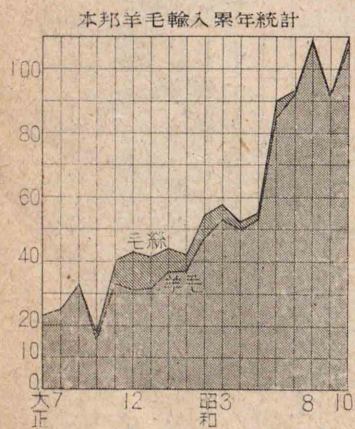
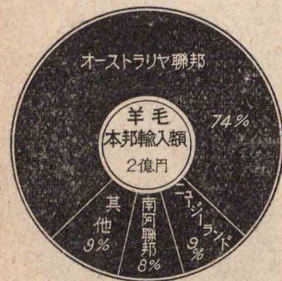
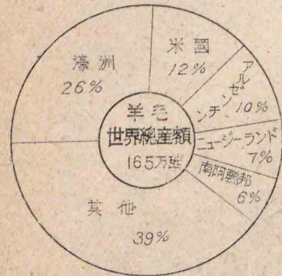
近に多い。朝鮮牛は内地へ盛に移入される。搾乳高は大正初年頃の三倍となり、煉乳は輸入から出超へ轉じてゐる。世界の飼養地は北半球では英印、蘇獨、佛、英、米、支、で、南半球では亞爾然丁、伯刺西爾、濠洲等で、降



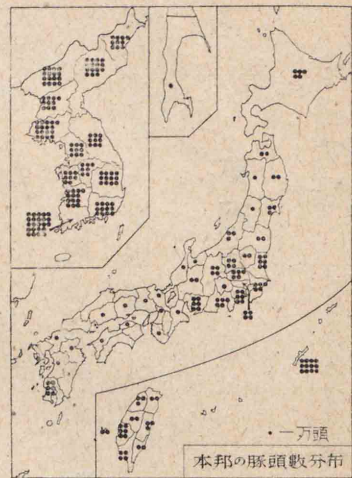
都市附近に多く、乳牛は北海道と京濱、阪神の大都市



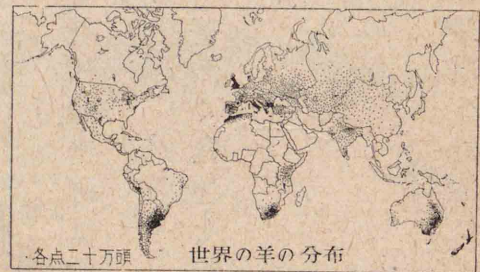
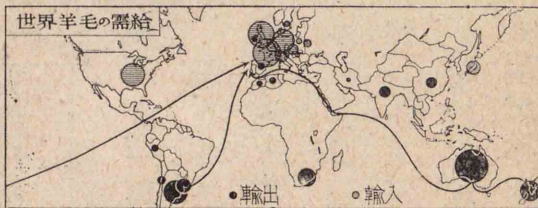
世界の羊毛の産地は、北半球では多く飼育する



棉花に次ぐ重要輸入品で、我が輸入總額の七%を占めるに至つた。滿洲に於ては、綿羊飼育の計畫中である。

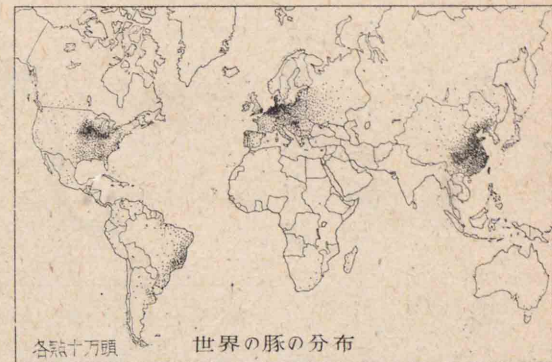


我が國の羊毛需要は激増したが、棉と共に國內生産が極めて少いため、



人口千人に對する養豚業

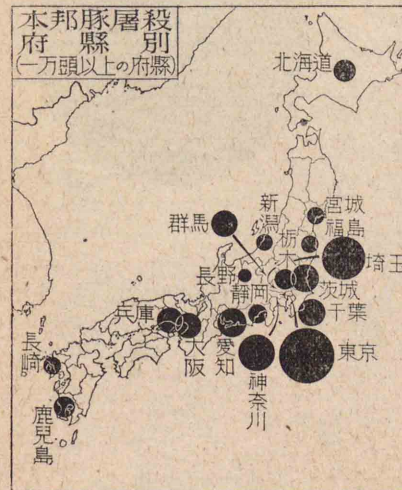
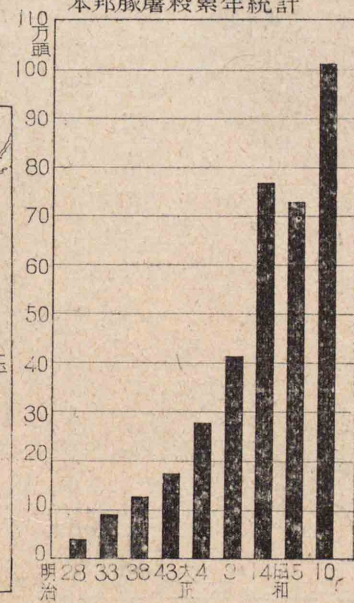
日	英	佛	獨	米	丁
本	國	國	國	國	抹
一	一	一	一	一	一
四	七	五	四	八	六
頭	頭	頭	頭	頭	頭

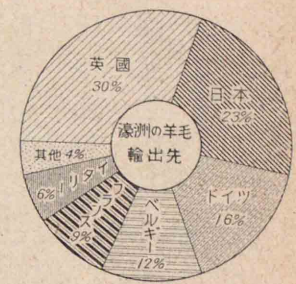


養豚率の首位は丁抹で、我が國とは著しい差がある。亞細亞では支那及び滿洲に多い。近時

農業の一つとして、急進的に増加し、沖繩・臺灣の外、京濱・阪神等の大都市附近に多い。世界の飼養地は、米・獨兩國で飼料たる主蜀黍・馬鈴薯の産地と一致するが、

本邦豚屠殺累年統計

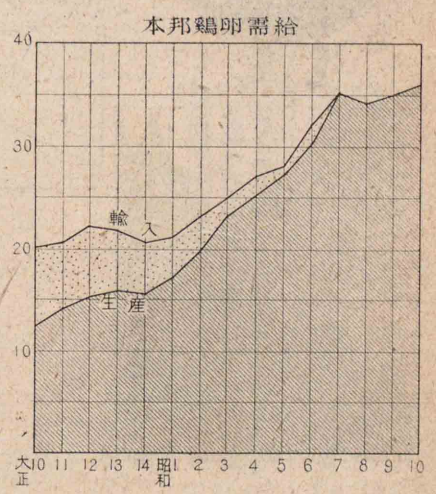




歐洲と放牧による米國南半球では大草地に放牧する亞爾然丁濠洲・南阿の三地方で羊毛の産額は濠洲が首位で米國・亞爾然丁新

西蘭南阿の順位である。英領地の産額は世界總産額の半に達し、濠洲は羊毛供給國として第一位である。我が輸入羊毛は濠洲が首位で、新西蘭南阿は近

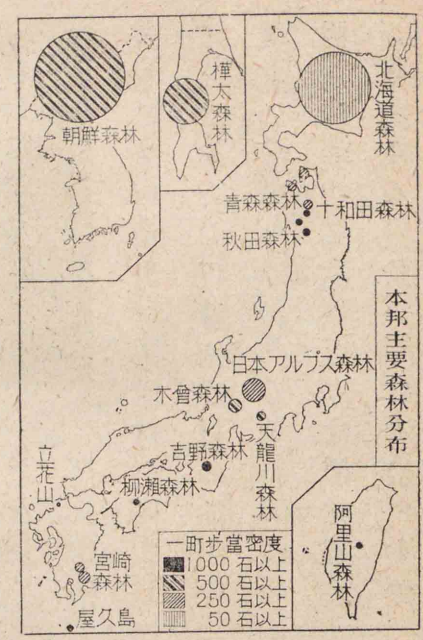
時増加した。
 鶏 我が國の養雞業は世界の主要國と等しく近年著しく發達し支那卵の輸入を絶滅した。



第四章 林業

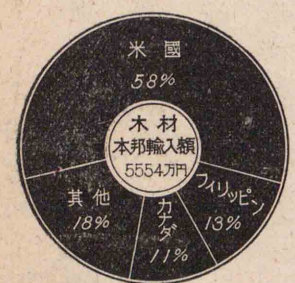
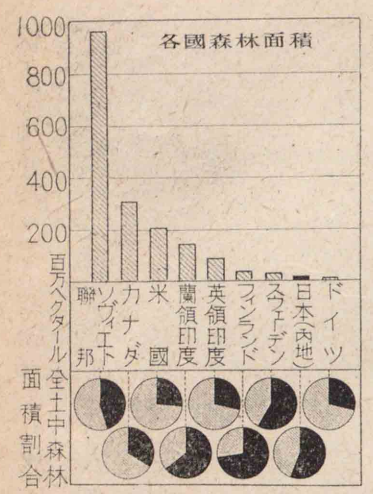
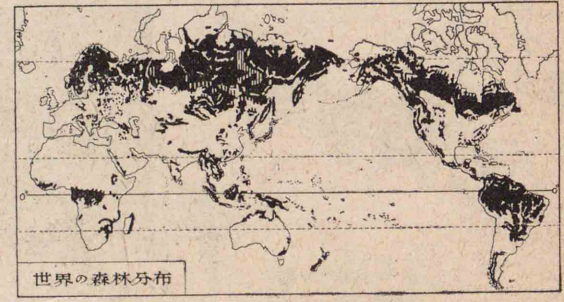
木材木炭

世界の森林は北部寒帯性針葉樹林と熱帯原生林とに二



の半を占め、森林國で、内地は北海道材を首位とし、青森材・秋田材・天龍川材・木曾材・吉野材・宮崎材・外地では樺太材・北鮮材・鴨綠江材・臺灣材等があるが、出材量は必ずしも多くない。たゞ樺太のみが相

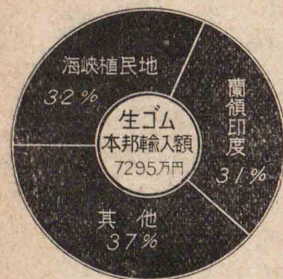
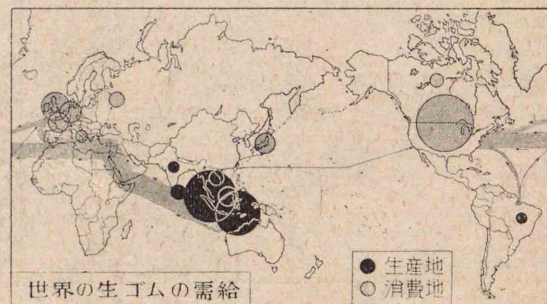
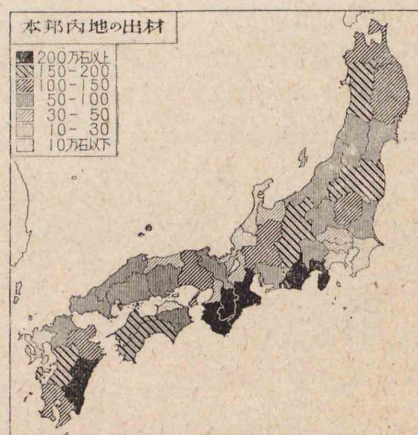
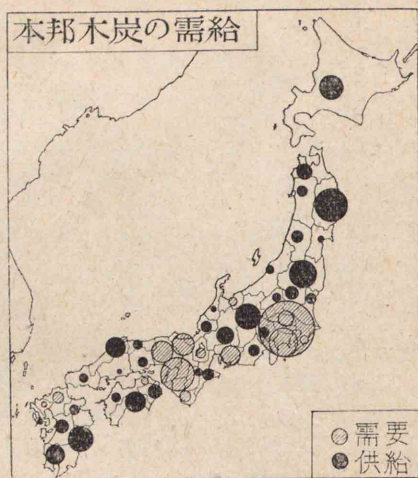
大別される。北部森林帯は新舊兩大陸に長く互り、朝鮮・樺太・北海道はその延長である。我が國の森林地は總面積



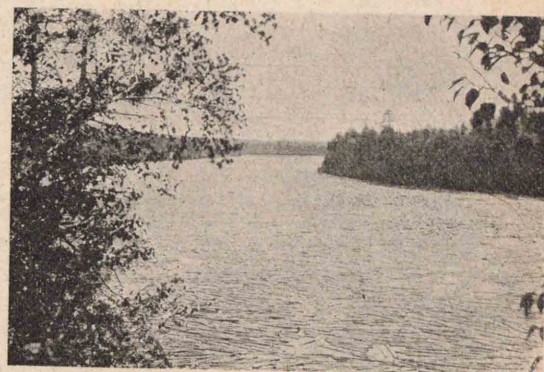
材・秋田材・天龍川材・木曾材・吉野材・宮崎材・外地では樺太材・北鮮材・鴨綠江材・臺灣材等があるが、出材量は必ずしも多くない。たゞ樺太のみが相

消費地は大都市で、供給地は岩手・福島等の森林縣が主で、多く農閑期利用の副業的生産物である。

ゴム ゴムは熱帯多雨地に生産せられ、もとは伯刺西爾の野生ゴムが世界生産の半以上を占めてゐたが、近時邦人の活動する馬來・蘭領印度と錫蘭島との栽培ゴムが大部分を占めるに至り、生産總額は著しく増大した。最近我が國は米英獨に次ぐ世界第四位のゴ

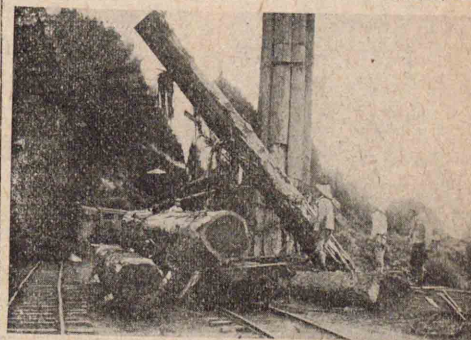
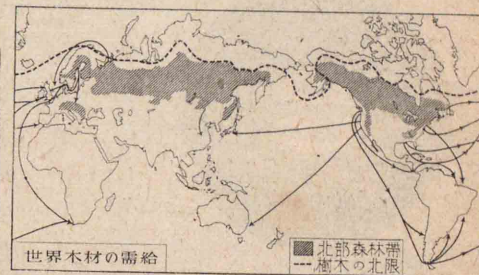


殊材は米材沿海材・南洋材を輸入して之を充たし、近時南洋材の進出は著しい。歐洲に於ける輸出國は北歐諸國で、中部歐羅巴には植林事業が盛である。我が國の木炭の主要

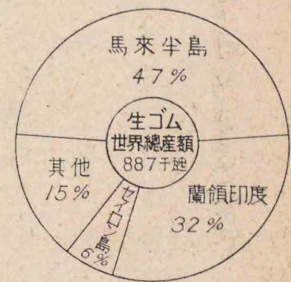
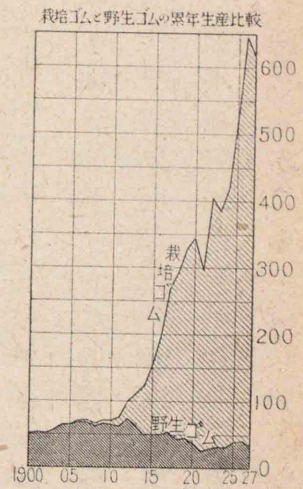


カナダの河川の流木

當のハ
ル・製
紙原料
を供給
してゐ
る。本
邦に不
足な巨
材及び特



臺灣阿里山の檜材の積出し

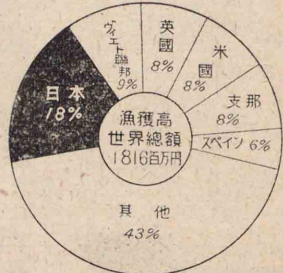
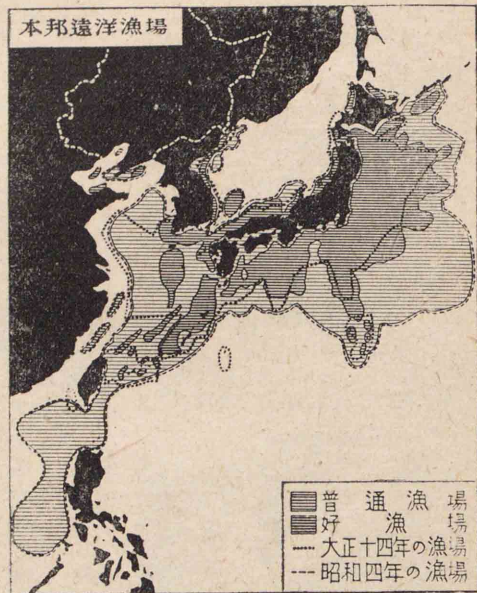
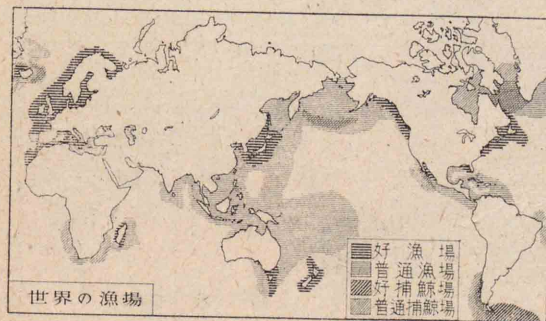


ム工業國になつたが原料の生ゴムは總て海峽植民地及び蘭領印度に供給を仰いでゐる。米國は世界總消費高の半

を占め我が國の消費は僅かにその一〇分の一に過ぎない。我が國はもとゴム靴製造が主であつたが最近ではタイヤの製造が多くなつた。

第五章 水産業

水産業 水産業は主に臨海地域の住民の營むもので、漁場に適する陸棚、溺れ谷、漁港に適する入江等に關係が深い。船車による冷蔵魚の輸送は斯業の著しい發達を促進した。

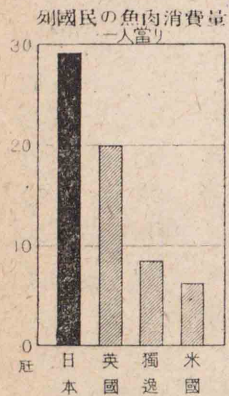


の約二割を占め、漁業者も世界の約三分の一に當り、世界第二の水産國である。我が近海は歐洲の北海・ニ

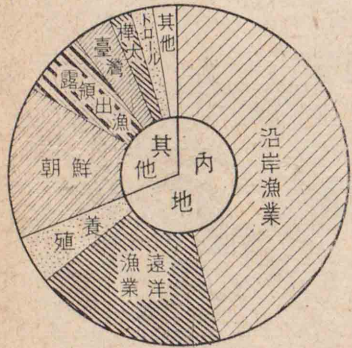
水産物

我が

ーファウンドランド近海と共に世界三大漁場を形成する。本邦の漁業には沿岸漁業、内地沖合遠洋漁業、汽船トロール漁業、工船蟹漁業、汽船捕鯨業、水産養殖業、外地出漁漁業等がある。漁獲高



本邦漁獲高

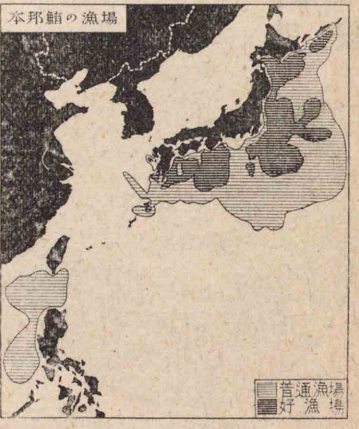
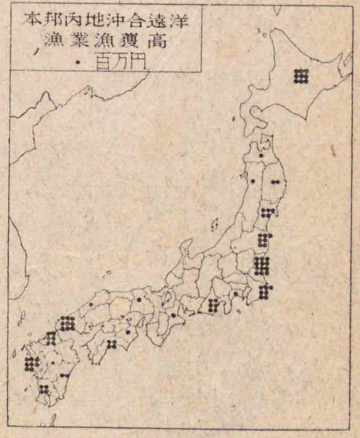
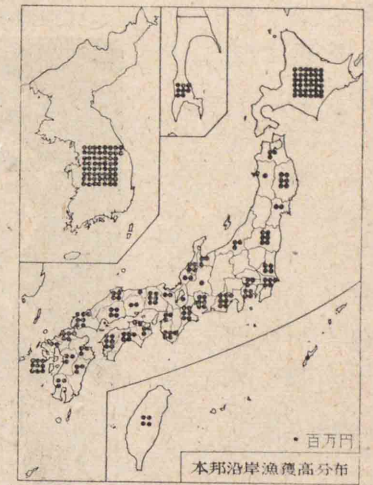
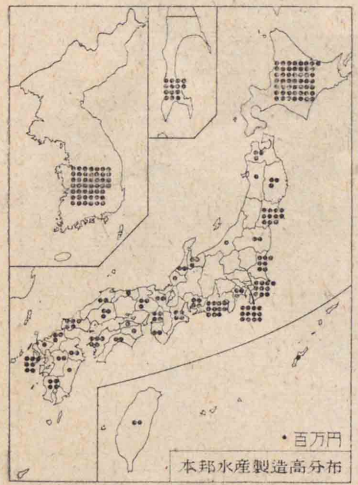


は沿岸漁業が首位を占め、遠洋漁業が之に次いでゐる。

遠洋漁場は

最近著しく擴大し、南は比律賓・蘭領印度は勿論、濠洲・北米海岸、更に伯刺西爾まで、北はオホーツク海・ベーリング海・カムチャツカ

にまで及んでゐる。北洋蟹工船の活動は目ざましいものがあり、南洋群島にも漁業が新に興りつゝある。 鱈・鯉・鮪

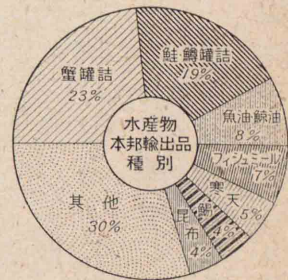


鯛・鱈等の漁場は水温等の関係によつて自から決定される。近時南極近海へ出漁する二萬噸級の捕鯨般は英諾船に加はつて新漁場の開拓に従事してゐる。

我が國以外で漁獲高の多い國は蘇英米で、何れも北半球の寒温帯に漁場を有するため、鱈・鯉が主である。本邦の輸出水産物は支那向の乾魚・昆布類と歐米向の罐詰類が主で、纖維工業品に次ぐ重要輸出品である。瀬戸



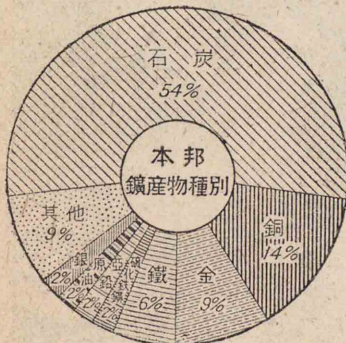
ロフオデン諸島の漁港



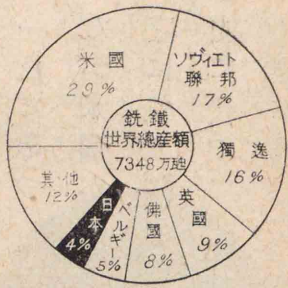
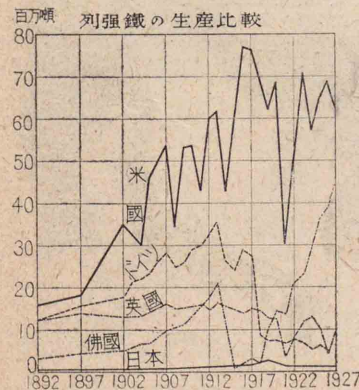
岩鹽を利用し、米・蘇・獨等に産が多い。

第六章 鑛業

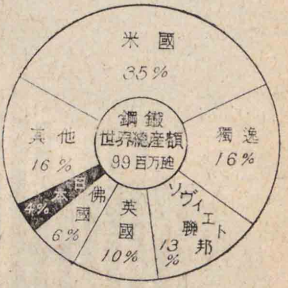
鑛業 鑛産は一般に地體構造の複雑な古期岩石の地域に多く、埋藏量は多くても採鑛能率は深度、交通運輸の便否、政情資本、技術等の優



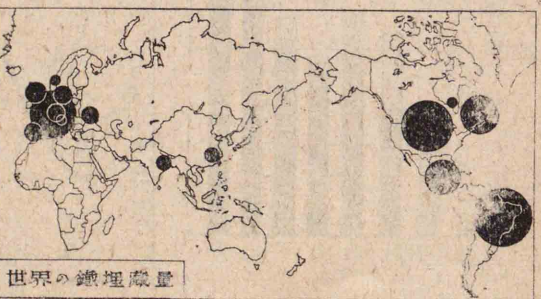
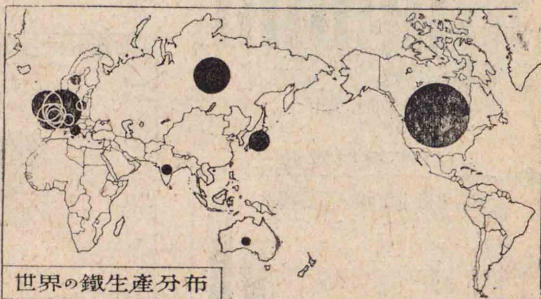
(昭和十年)



(昭和十年)



(昭和十年)



劣に依存する。

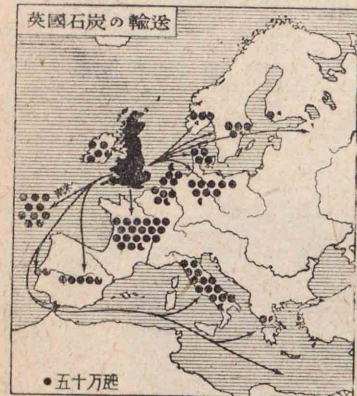
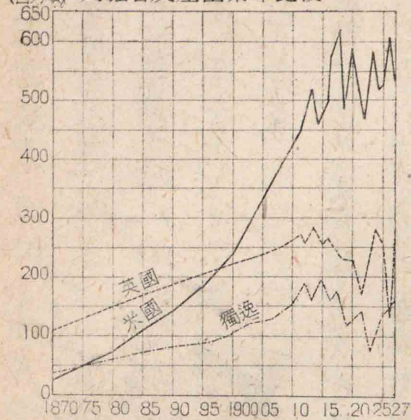
鐵

本邦の鐵鑛山は釜石・倶知安・朝鮮の利原・下聖・載寧、滿洲

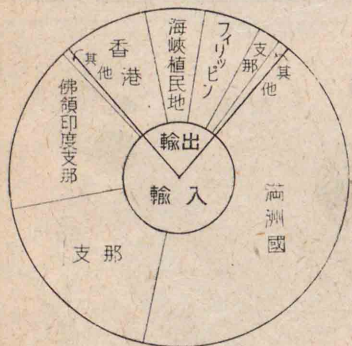
には鞍山がある。その他各地にあり、鉄鑛及び鋼塊製造所は八幡・釜石・兼二浦・室蘭・鞍山・東京・横濱・川崎・名古屋・大阪・尼崎・神戸・小倉・戸畑・若松・長崎及び鞍山等の各地に散在する。

本邦鉄鑛の産額は米・蘇・獨・英・佛・白に次ぎ世界の第七位で、内地需要の約六割に當る。不足は外國からの輸入に依存し、鋼材製造の一原料として屑鐵を米・英・印より、鉄鐵を滿洲・英・印より多量に輸入する。

列強石炭産出累年比較 (百万噸)

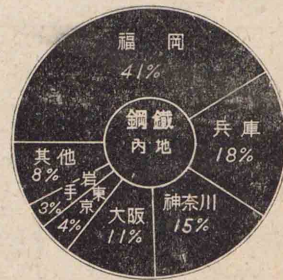
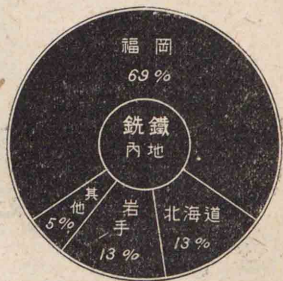


本邦石炭輸出入國別



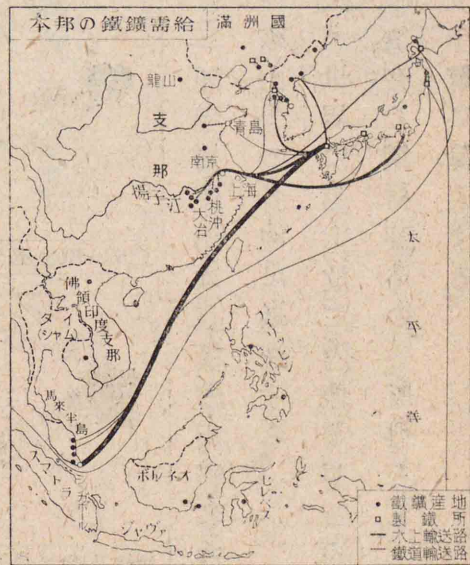
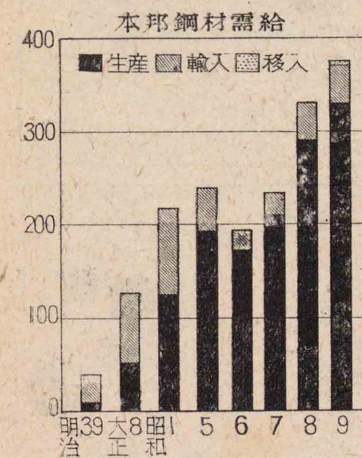
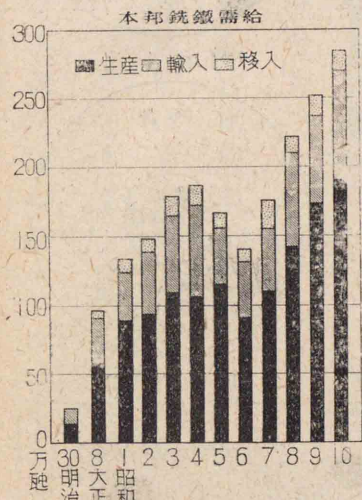
である。

位となつた。我が國は之等競争國に近づかんと努力しつゝある。瑞典は良鑛を産するが石炭に乏しいため、原鑛のまま輸出し、英國は鐵・石炭の夾在する點が強味



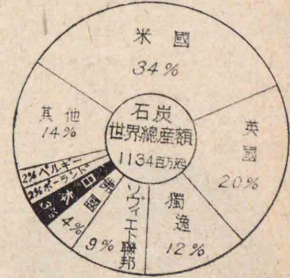
鐵鑛は國産一三%、移入五%、輸入八二%で、輸入のうち二七%は滿支から、その他は南洋が主で、大洋洲からも輸入した。(昭和十一年)

鋼鐵の産類は米獨蘇・英佛に次ぎ、白耳義を凌いで第六位となり、連年の輸入超過を防止して出超に轉じた。世界列強の鐵生産の競争は一面列強勢力の消長を示すもので、古くは英國が第一位であつたが米國が之に代り、獨佛國に代つて



石炭 本

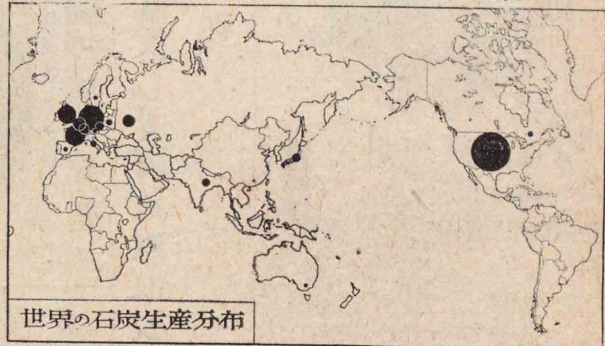
邦の石炭産額は總産額の半を占めてゐる。産額は米・英・獨・蘇・佛に次ぎ世界の第六位を占め、國內需要



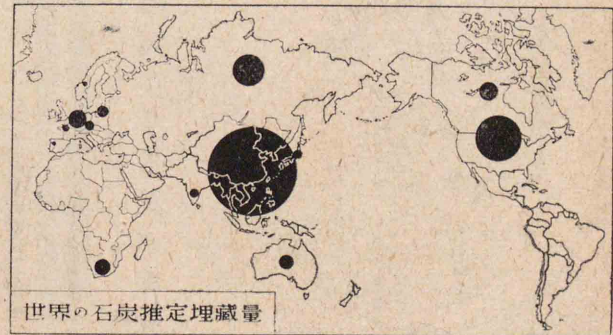
(昭和十年)



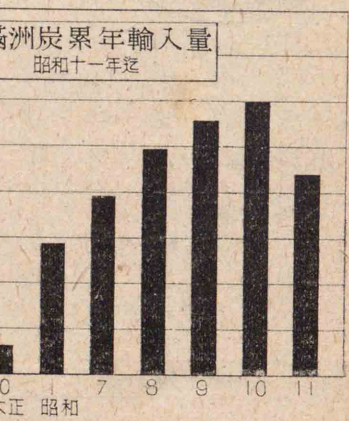
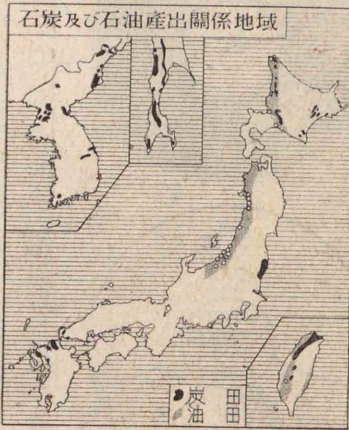
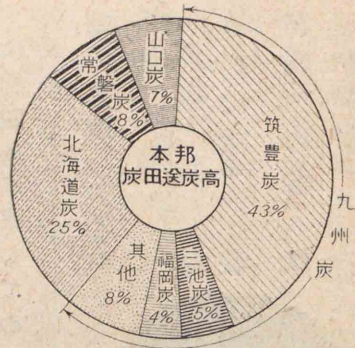
を略充たしてゐるが、尙撫順炭・開灤炭・山東炭等を輸入する。本邦産石炭は第三紀層のもので、支・英・獨・佛・白・米等の古生層のものに劣る。内地の石炭は九州炭と



世界の石炭生産分布



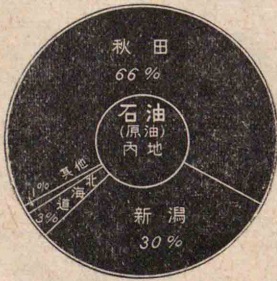
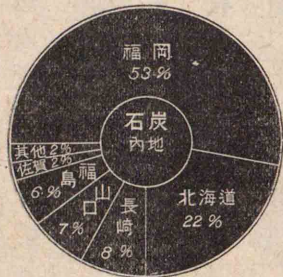
世界の石炭推定埋藏量



北海道炭の二中心があつて、京濱・阪神名古屋の三大文化地帯へ兩方面から供給する。殊に九州炭は總出炭の約三分の二を供給し、その内筑豊炭は最も多い。米國は自國消費が大であるから輸出國としては第三位に當り、英國が首位を占め、歐洲大陸諸國への供給の中心地をなしてゐる。

石油

我が油田地帯は樺太より北海道・裏日本・臺灣に通ずる第三紀



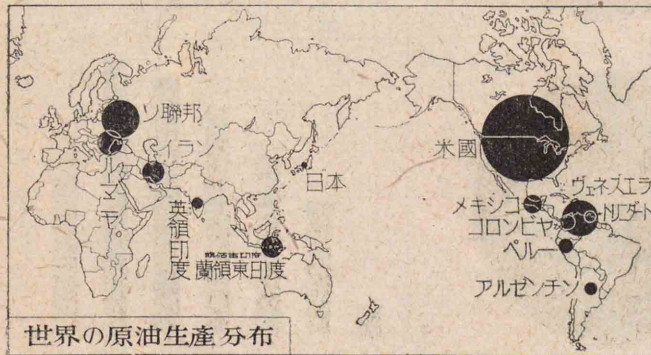
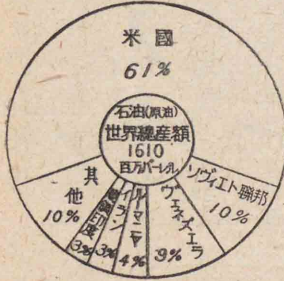
本邦石油の需給は製品輸入が五六%、輸入原油精製が三四%、國産原油精製が一〇%である。

本邦石油の需給を果年的に觀れば逐年増加し昭和十一年は昭和元年に比すれば國産原油精製は約一倍半、輸入原油精製は約四倍半、製品輸入は約五倍に當りこの三種の總量は約四倍に達してゐる。

聯ヴェネズエラ・ル
ーマニヤ・イラン
等之に次ぐ。我
が國への輸入は
米國が過半を占



層の地域を主とし、我が石油の需給は、國産原油からの精製が甚だ少く、他は輸入に仰いでゐる。需要の大部分が海外資源に依存する點は、棉花及生ゴムに類似する。世界の産額は米國が首位で、蘇



金の産額は大分縣が首位で、茨城縣・北海道・秋田縣・愛媛縣等がこれに次ぎ、朝鮮は平安南道が主で、咸鏡北道・忠清南道がこれに次ぐ。

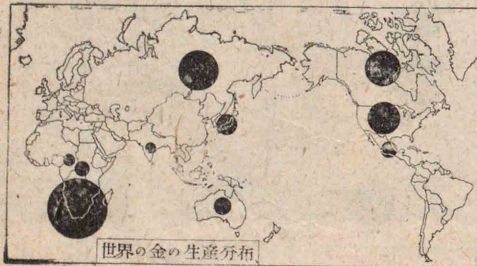
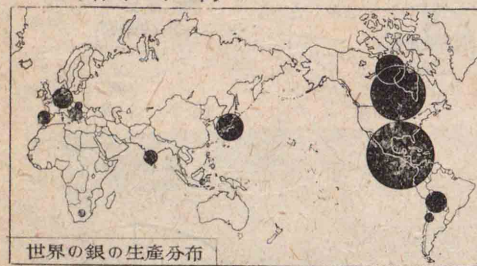
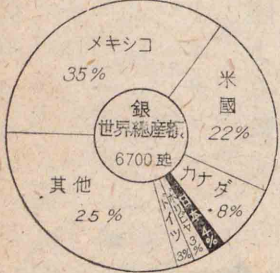
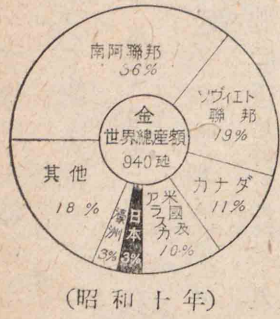
銀の産額は秋田・茨城・愛媛・大分の四縣が略等しく北海道がこれに次ぐ。

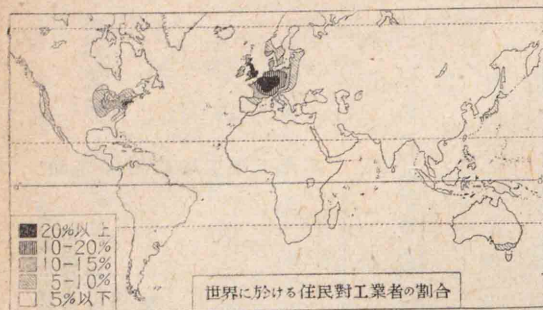
め、蘭印・英領ボルネオが之に次いでゐる。北樺太油田も試掘中であり、撫順に於ては油母頁岩よりの製油も試みられてゐる。

金・銀銅

本邦の金産額は世界の第五位で、第一位の南阿聯邦の一二分の一に當る。銀産額は墨西哥・米加に次いで第四位で、第一

あつたが、大戦後、利





工業 工業は十八世紀の産業革命以來急激に變化して、各國に大規模な近代工業が勃興した。工業は各種の標準から手工業と機械工業、家内工業と工場工業、中小工業と大工業、重工業と輕工業とに分つ外、農産工業、畜産工業、林産工業

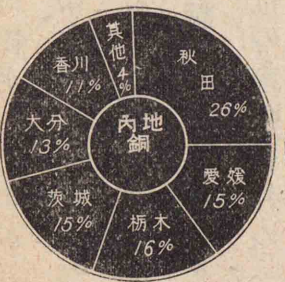
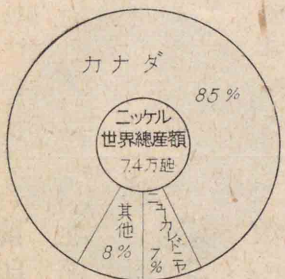
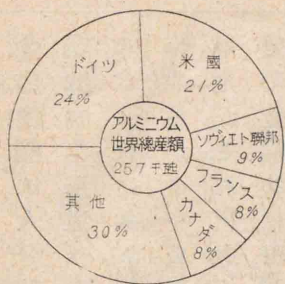


小工場の一形式としての米澤織

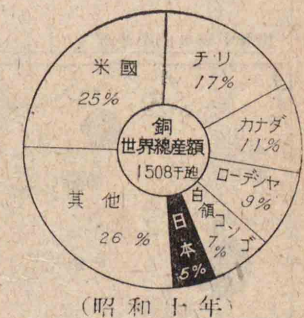
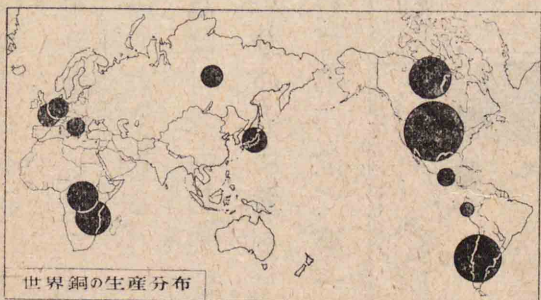
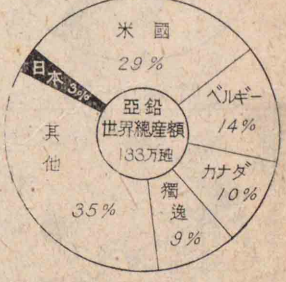
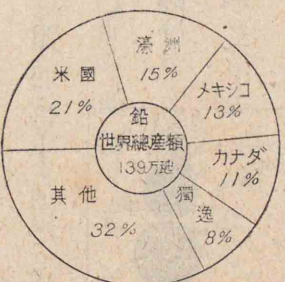
第七章 工業

亜鉛・鉛・錫・ニッケル

が主で、何れも我が國産は少く、歐米諸國より輸入してゐる。 亜鉛・鉛は米國、錫は英領馬來、ニッケルは加奈陀



領コンゴ等に大鑛床が発見されるに至つて第六位となつた。 我が國はアルミニウムの原料たるボーキサイドの資源に乏しいため、外國より輸入を仰いでゐたが、最近アルミニウムの製造起り輸入を輕減するに至つた。 マグネシウムは獨逸が世界の第一位を占め、我が國へも輸出して

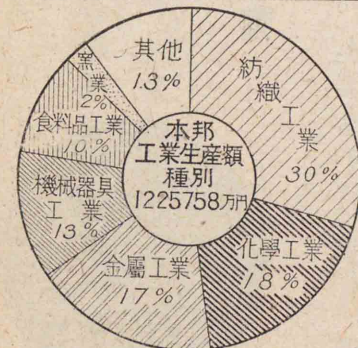
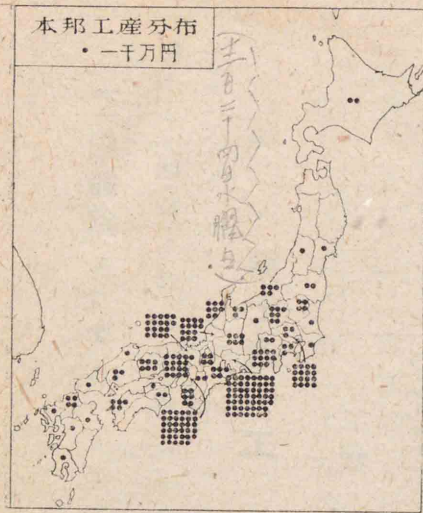


つある。我が工業地帯には阪神京濱名古屋北九州の四大中心地がある。紀の間に驚くべき長足の進歩をなして、世界一流の工業國の壘を摩して、殊に英米は世界に覇をなす國である。我が國の近代工業は僅か半世紀の間、歐洲に於ける英獨佛白蘭の諸國及び米國は世界有數の工業國である。歐洲に於ける英獨佛白蘭の諸國及び米國は世界有數の工業國である。歐洲に於ける英獨佛白蘭の諸國及び米國は世界有數の工業國である。

世界重要原料資源主要生産國百分率

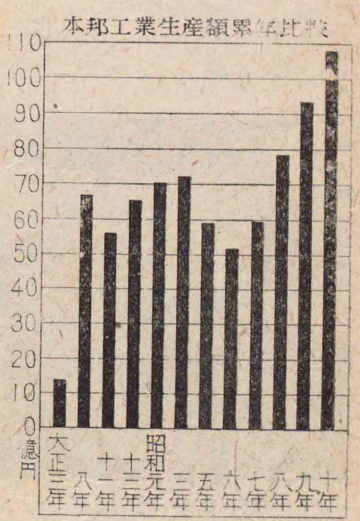
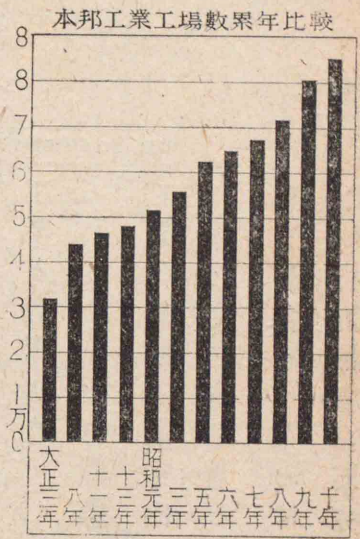
資源名	主要生産國	世界産額に對する百分率
石炭	獨逸	一七%
石油	獨逸	一七%
鐵	獨逸	一七%
鋼	獨逸	一七%
銅	智利	一三%
鉛	墨西哥	一三%
亞鉛	墨西哥	一三%
錫	佛國	一三%
羊毛	波蘭	一三%
棉花	亞爾及利亞	一三%
亞麻	亞爾及利亞	一三%
亞絲	亞爾及利亞	一三%
人造絹	亞爾及利亞	一三%

出される。世界の工業地帯は歐米に各大中心地があり、他の一中心地が東亞に於ける我が國



等にも分類される。工業の發達は文化と相關的關係にあり、地形氣候の良好にて、動力原料・勞力・資本が豊富で、消費地に近く、交通運輸に便利で、科學の進歩せる地域に見

水産工業 業・金屬工業に 工業に 分けられ 又 紡績工業



次ぐ。我が電力は累年激増し、米・獨英に次ぐ世界の第四位で、発電所の大部分が水力発電であることは地形・氣候上當然である。我が内地に於ける水力発電は中央日本の日本海斜面がすぐれてゐる。

動力源

我が工業の動力源としては石炭が最大で、水力電氣が之に

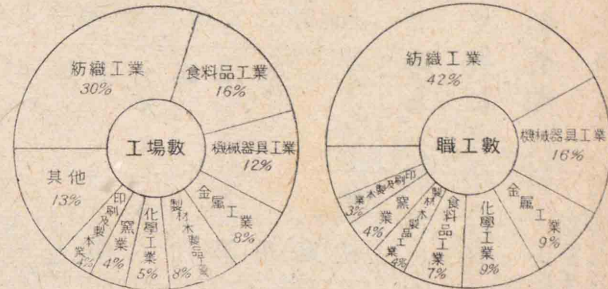
列國に於ける主要原料資源の需給關係
(國內需要に對し國産を以て充足し得る)

資源名	國名	英	米	佛	獨	伊	蘇
石炭		一三〇	一〇三	七二	一〇七	五	一〇二
石油		七四	九七	二〇	三〇	一〇五	〇〇
鐵鑛		一〇〇	九九	一〇一	一〇一	九三	一〇〇
錐鐵鑛		六二	七七	一	一	一〇	〇
鉛鑛		一	五八	一	一	一	〇
亞鉛鑛		一	九八	一	一	一	〇
錫鑛		一	八	一	一	一	〇
羊毛		一八	六九	一	一	一	〇
棉花(線綿)		一	二九	一	一	一	〇
亞麻		一	二	一	一	一	〇
人造絹絲		一〇	一	一	一	一	〇
ゴム		一六	一〇	一三	一	一	〇

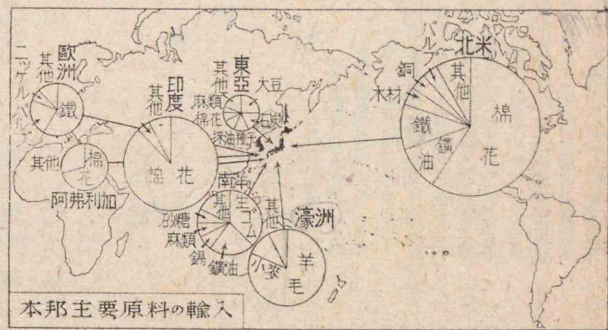
て低廉な運賃で遠隔の地から原料を輸送し得る便宜を有する。かくて米國・英領印度・濠洲・南洋・歐洲・滿洲・支那・埃及等の各地より工業原料を輸入して、我が工業の驚異的發達をはかつた。

みに於ては米・蘇兩國を除き、錫・ゴム・石油・棉花・羊毛・麻・銅・亞鉛等の共通不足を見る。又本國に植民地を加ふる時には、英・帝・國・米・蘇三國の重要原料資源生産は世界生産に對して支配的地位を占めてゐる。本邦工業原料國産の割合は甚だ小で、多くの輸入を必要とするが、島國

本邦工業種別工場及職工數



(昭和十一年)



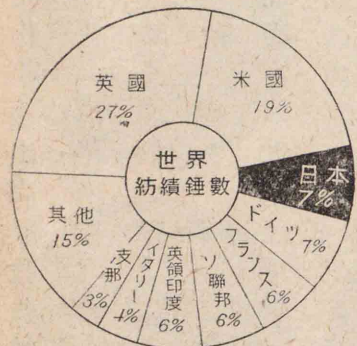
自國領及び植民地を含む列強原料生産の世界原料資源に對する百分率

資源名	國名	英	佛	蘭	米	蘇
石炭		二四%	一四%	一	三四%	一八%
石油		二八	一	一	五九	一
鐵鑛		四三	一	一	一五	三三
錐鐵鑛		三二	一	一	二八	三三
亞鉛鑛		四二	一	一	一	一
錫鑛		五〇	一	一	一	一
羊毛		一七	一	一	一	一
棉花		五七	一	一	一	一
ゴム		一	一	一	一	一

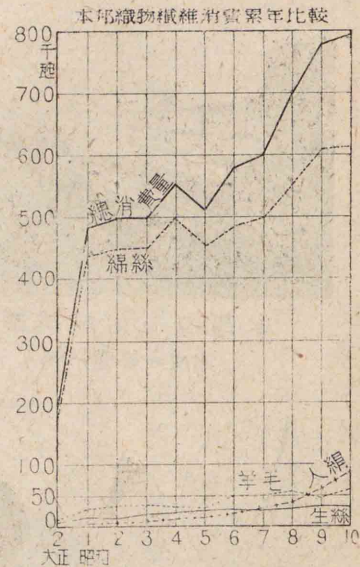
原料資源

世界各國の原料

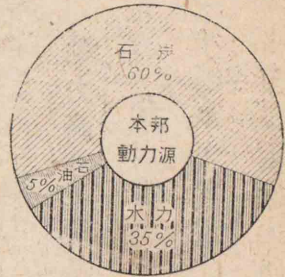
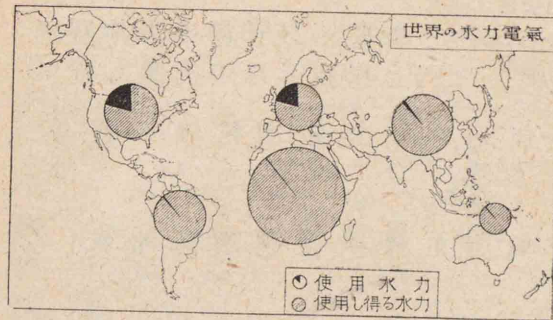
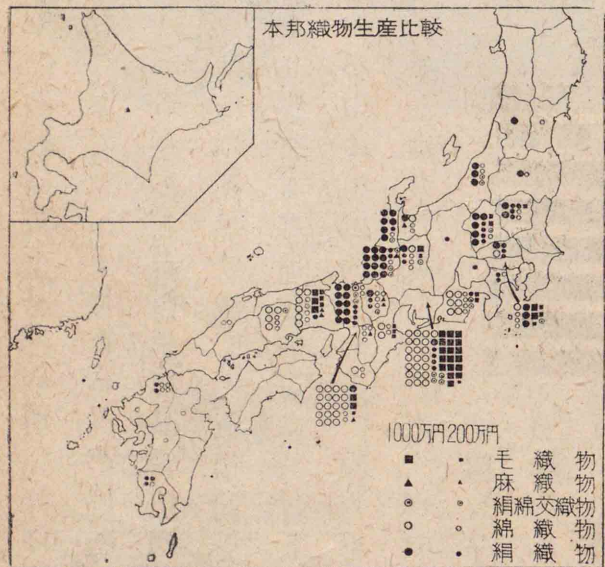
我が強味の一つ
 まれてゐる點は、
 の多い氣候に恵
 近くに持ち、湿度
 ける未開市場を
 び阿弗利加に於
 が國が亞細亞及
 著しく多い。我



● 世界棉花消費
 (五、六頁參照)



る。世界關係市場に於て我が綿織物の輸出量は既に英國を凌ぎ、綿花の消費高、綿糸・棉織物の生産高共に英國に優つてゐる。たゞ綿糸の輸出高のみ



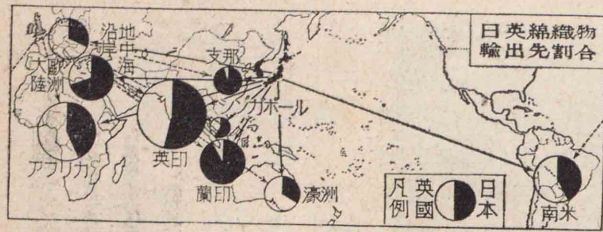
(昭和十年) 於ては我が國は世界の第二位を占め、英國は第四位に當る。

綿糸・綿織物

我が紡績錘數は最近佛獨を凌いで、英國に次ぐ第三位となつた。原料棉消費割合に

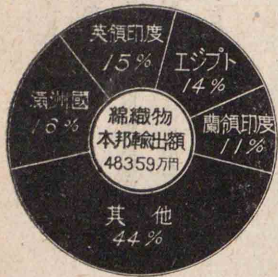
本邦の工業原料の需給は一五二頁の本邦重要資源の國內需給に對する不足又は過剩額の割合參照。その外國産で全額を充すものは人絹、約四分の三を充すものは小麥、パルプ、木材、漸く約四分の一を充すものは採油種子、鹽、麻等である。その内採油原料は約二分の一は滿洲より輸入し、鹽は外地と滿洲とから約六分の一を輸入し、その他は廣く海外から輸入する。

本邦電力の用途は化學工業が首位で機械工業、染織工業、飲食製造工業、採鑛及製鍊業これに次ぐ。

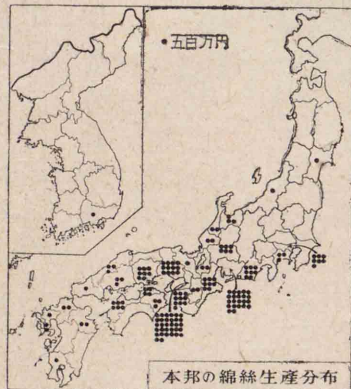
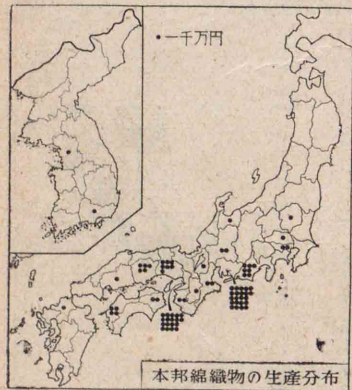
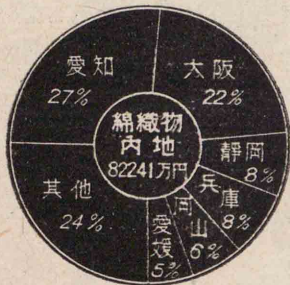
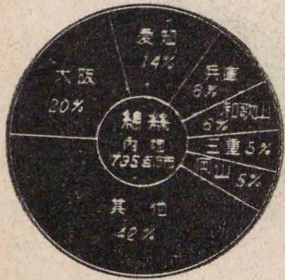


生絲絹織物

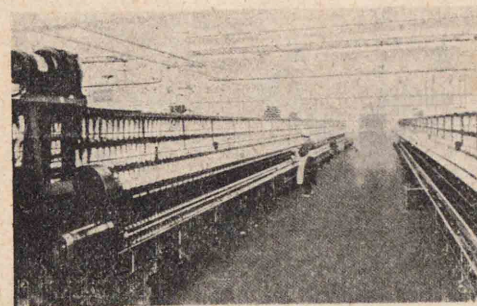
我が生絲の産額は世界第一位



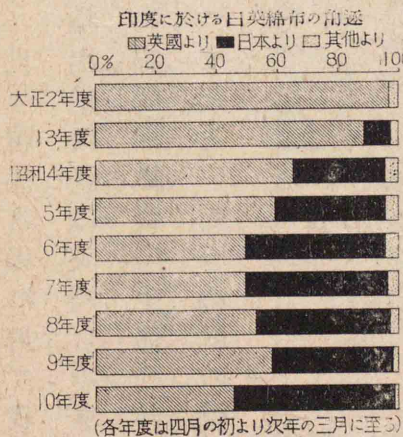
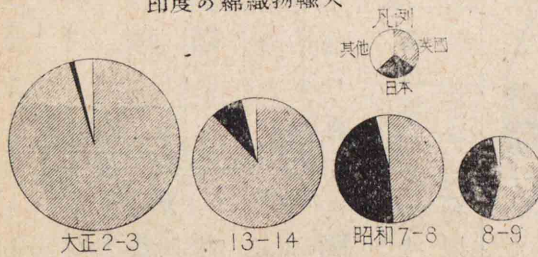
を占め、支伊兩國はその比でない。我が生絲の原料は自給自足し、我が資源の内、獨立



約六割は輸出製品原料で、残る四割が国内消費用である。内地の綿絲綿織物の多産地は大阪を核心とする關西・東海の文化地帯が主である。



本邦の一綿絲紡績工場
印度の綿織物輸入



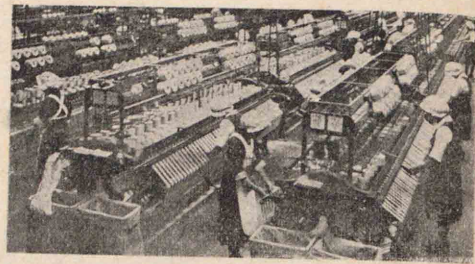
我が勢力は壓倒的である。輸入棉花の金額は甚だ大であるが、大部分は綿製品への輸出にやつて相殺されて現存棉花の

である。我が綿織物の輸出高は我が總輸出高の一八%を占め第一位に當る。主なる輸出先は滿洲・英印・埃蘭印等である。かゝる貿易上の優勢に對し、各國は防遏策を設けて輸入阻止に努めてゐるが、尙綿製品輸出國として世界の第一位である。最近日英綿織物の競争は激しく、英領印度に於てさへ、本邦綿織物の進出は顯著であり、蘭印・支那・地中海岸に於ける

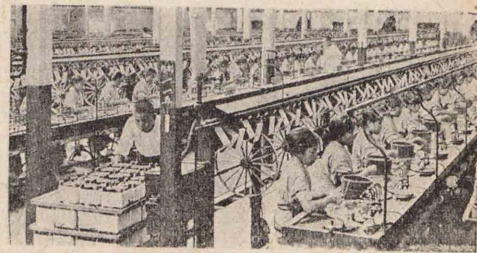
の輸出は比較的少く、人絹織物の半にも及ばない。輸出先は英印英米滿濠の諸國である。佛國は自國産の生絲の外多量の生絲を日支伊より輸入し、優良な絹織物を製造する。本邦の絹織物業地帯は中央日本とそれに接續する京都府に集團する。絹織物産額の約八割は國內消費で、二割は輸出する。

人造絹絲・人絹織物

我が人絹工業は最近頗に盛となり、先進諸國と

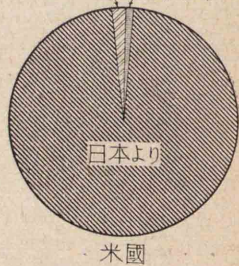


本邦の一絹織物工場



本邦の一製絲工場

佛米兩國の生絲輸入
支那より、歐洲より

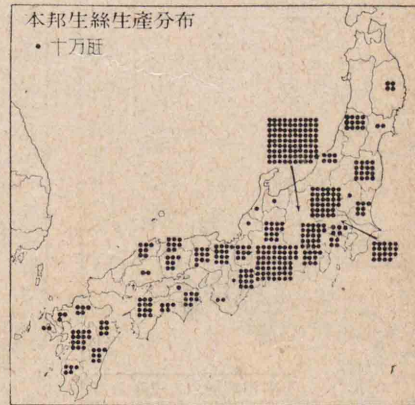
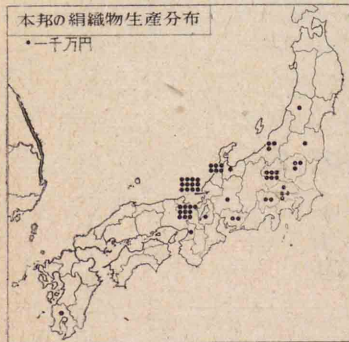
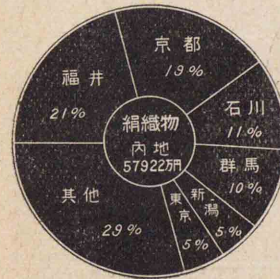
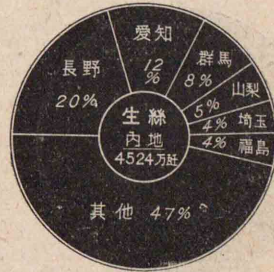
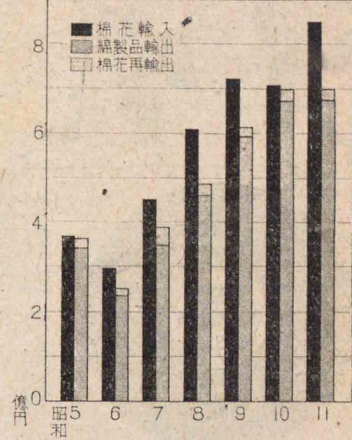


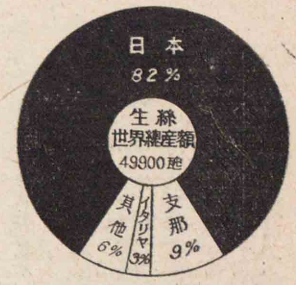
で第二位となつた。内地に於ける製絲區域は中央日本を核心とし、奥羽以南に普遍することは養蠶地帯の場合と類似する。

生絲の輸出は大であるが、絹織物

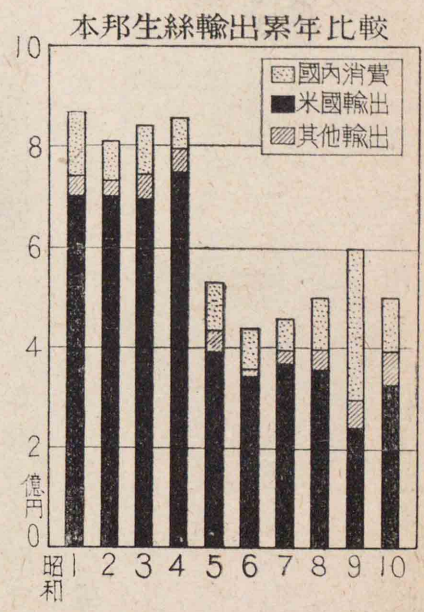
性の強固なものである。世界の主要消費地は米國で、歐洲之に次ぎ、我が生絲の輸出先は米國が主で、本邦生産の三分の二を輸出する。従つて同國の景氣の如何は輸出量に消長を生ぜしめ、我が農村の經濟に影響する。更に最近是人絹の進出による壓迫も甚だしい。かくして常に輸出の首位を占めてゐた生絲は最近絹織物に次い

本邦絹業バランス

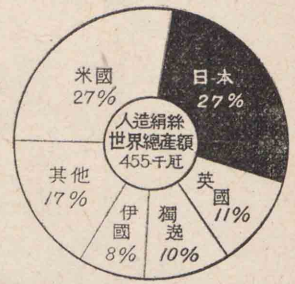




首位を争ふに至つた。而して人



造絹絲の輸出國としても、最近伊國を凌いで第一位に進み、人絹織物の輸出國としては、夙に世界第一位である。かくて人絹織物輸出額は絹織物輸出額を凌駕し、綿織物・生絲に次ぐ重要輸出品となつた。その輸出先は英印・滿・濠を主とし、蘭印之に次ぎ世界各地に進出しつゝある。人絹工場は、天津・岩國・延岡等の各地に設けられ、人絹織物工業地は在來の紡績工業地と略一致し、絹織物業・綿織物業からの轉向又は兼業のものも少くない。又人絹絲と絹



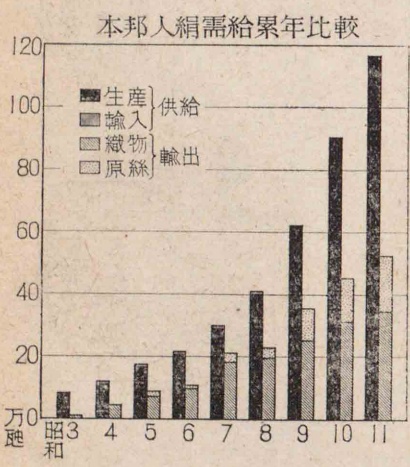
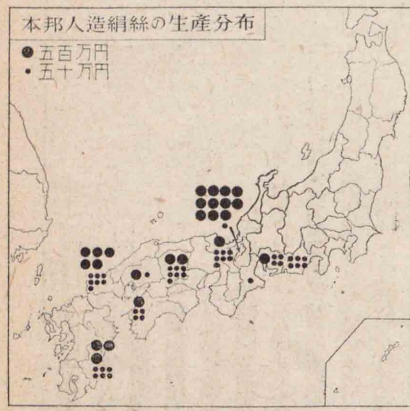
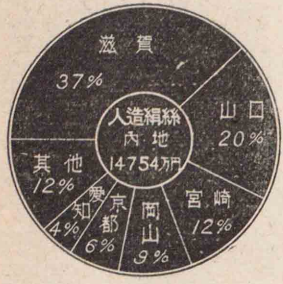
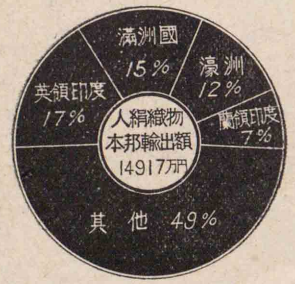
絲・綿絲との交織も行はれる。

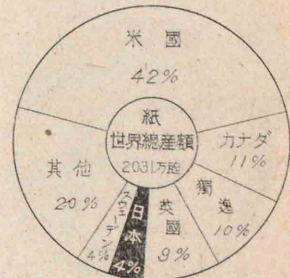
毛絲毛織物

我が毛絲工業は毛絲類の輸入を抑へ、毛織物工業は製造著しく増加して輸入を防遏し、却つて輸出をさへなすに至つた。従つて原毛の輸入

量も激増した。我が國の毛織物業地帯は愛知縣を首位とする。歐米各國は自國産の羊毛の外多量の輸入

によつて毛絲毛織





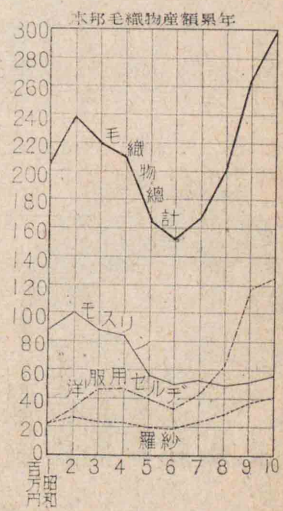
國に盛である。

物を生産輸出し、殊に英國製品は品質・産額共に世界第一位である。

麻織物

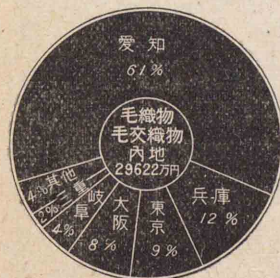
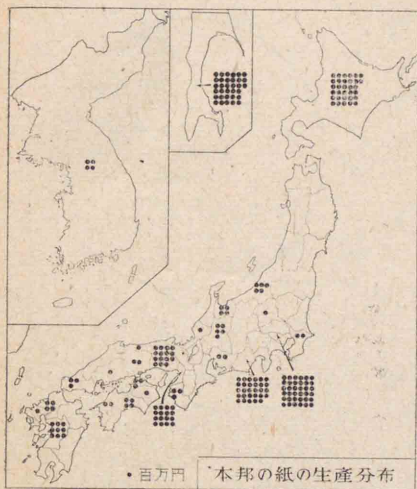
衣服用の

亞麻工業は英・白蘇の諸



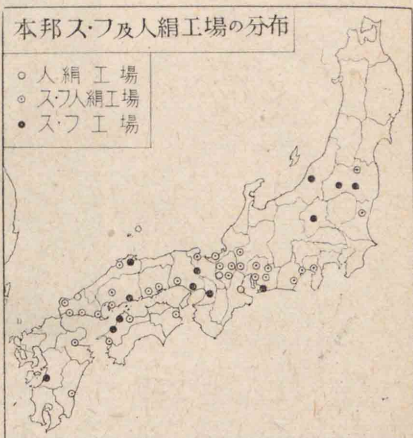
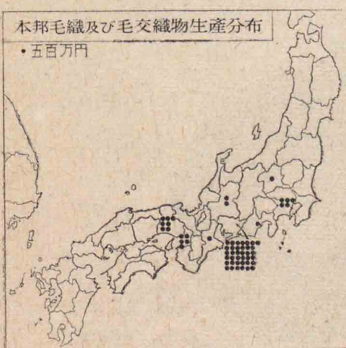
パルプ・紙・人造羊毛・薬品・染料・肥料・化学工業製品

パルプ用材は寒帯性の

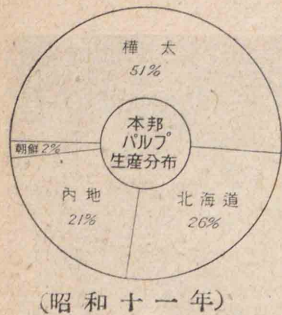


加瑞典・獨・芬蘭等

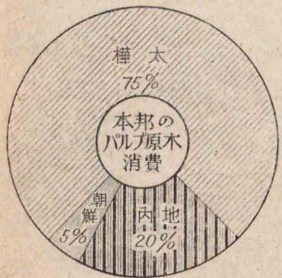
の針葉樹が適し、世界のパルプ産出国は米



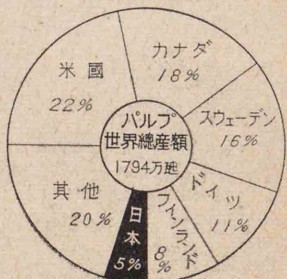
内の生産地は樺太・北海道と東京・静岡の諸府縣で、在來の和紙は本邦の特産であつて、高知・岐・阜・静岡等の諸縣に多い。近時興つたスフ(ステープル)



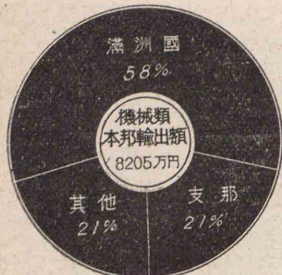
(昭和十一年)



アイバー)は時局の影響で著しく利用されつゝある。醫藥用薬品は獨逸・工業用薬品は獨・米・英・佛が主産國で、人造染料は獨逸が世界の半を産し、之等は何れも國産も激増したが今尙輸入



(昭和十一年)



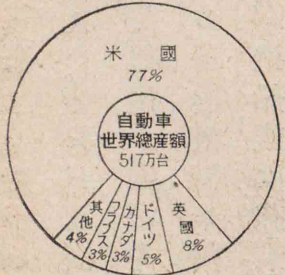
(昭和十年)



(昭和十年)

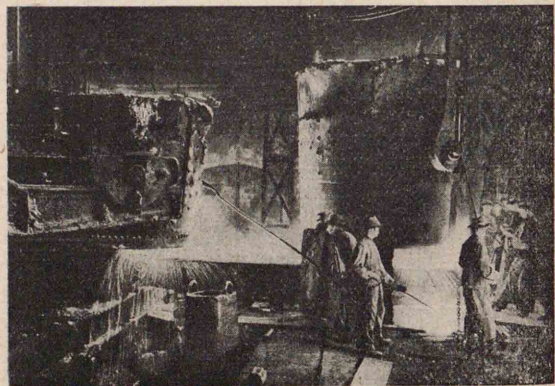
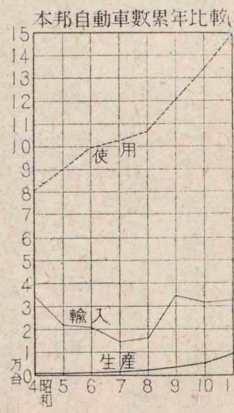


(昭和十年)



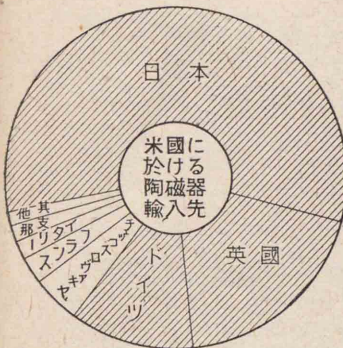
具 金屬精鍊 (鋼精
銅等)の盛な國は米・英・
獨佛白等で英・獨は良

金屬及び機械器

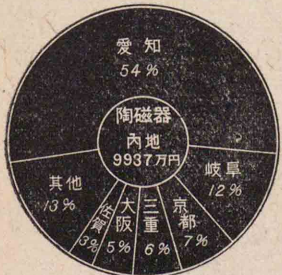


ルール地方の一製鐵工場

二位で、輸出さへする。陶磁器は我が國の傳統的工業の一つで、輸出額は世界第一位を占め、英獨兩國と米國市場に於て競争し、英印・蘭印等にも進出してゐる。本邦の陶磁器産地は濃尾地方が核心地である。



巧な光學用のもののみ輸入してゐる。セメントは米國に次ぎ世界第

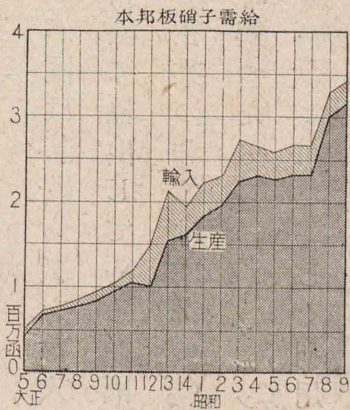


本邦の輸出向陶磁器工場

硝子・セメント・陶磁器

も行はれる。人造肥料の硫安・石灰窒素・磷酸肥料等の生産は米獨兩國が主で、我が國は自給に近づきつゝある。

量生産の外、白耳義の板硝子、獨逸の光學用硝子等優良を以つて知られ、板硝子は我が國が米・白を凌いで首位に達し、精巧な光學用のもののみ輸入してゐる。セメントは米國に次ぎ世界第



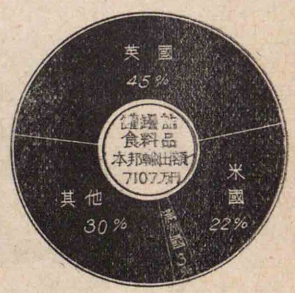
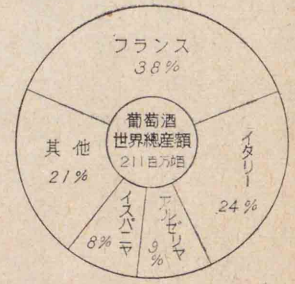
硝子工業は米國の大

品を産する。機械器具工業は科學的文化地帯に發達し鐵石炭の産出とも關係する。英・米・獨の三國が最も發達し日・佛・白が之に次ぐ。我が電機工業は自給し、且米・英・獨に迫つてゐる。紡績機械も自給し、輸出も盛て先進國と争つてゐる。米國のタイプライター・ミシン、獨國の科學機械、米國瑞西の時計等は世界的に有名で、我が國へも輸入される。造船業は英・米・獨・日等が盛で殊に英國は卓越し、我が造船業も自國の需要を充してゐる。自動車工業は米國が世界の大部分を占め、我が國も年々自動車及び部分品を輸入してゐる。國産は部分品と小型自動車に特色がある。又我が國は英・獨兩國と共に世界の三大自轉車輸出國である。航空機工業は米・獨・英・佛等に盛であるが、我が國も最近は技能に於て遜色がない。漆器は我が國の特産で、輸出玩具の製造は近時勃興した。

食料品

製粉工業は歐米各國に盛である。酒類の國際市場に現れるものには佛國の葡萄酒獨逸の麥酒等がある。葡萄酒の醸造は佛伊兩國が過半を占め輸出が多い。麥酒の醸造も我が國は輸出の程度にまで

發達した。清酒醬油の醸造は我が國の傳統的工業で國內の需要を充してゐる。我が罐詰工業は水産罐詰が半を占め、輸出品多く、果實蔬菜・畜産物等之に次ぐ。



第八章 商業



チェコスロヴァキヤの市場

商業

原始時代には各民族は自給自足であつたが、後分業が起つて物々交換が行はれ遂に現在の如き貨幣媒介の商取引が行はれるに至つて商業は大いに進歩し、今や國內商業のみならず國際商業即ち外國貿易が世界各國の間に行はれる

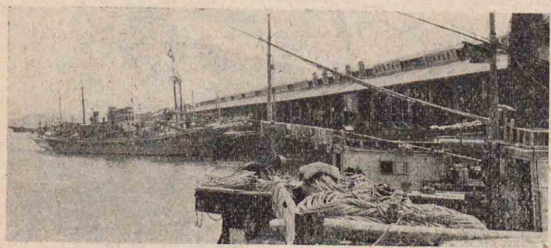
に至つた。外國貿易の盛否はその國の産業の外關稅政策貨幣制度の如き國家の政策も關係する。

市場と商圈

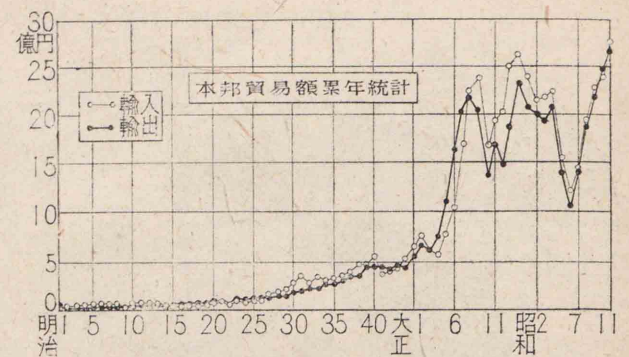
往時は市場が各地に定期に開かれたが次第に衰へ、今は舊定期市がそのまゝ、殘存する所もあるが、多くは常時店舗となり、都市には魚市場、青物市場等の新市場も開かれてゐる。かゝる市場店舗都市等はそれ／＼一定の商圈を有する。倫敦、紐育兩都市は世界に於て、東京、大阪兩都市は國內に於て各大商圈を有する一方世界的にも商圈を獲得しつゝある。

海外貿易

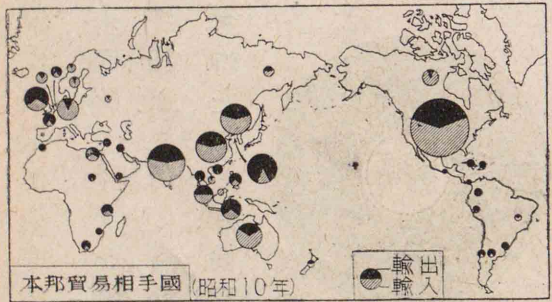
輸出超過は原料供給國に多く、輸入超過は工業國の場合に多い。然し國際間には貿易收入の外、外債の利子、海外投資の元利金、汽船の運賃、保險料、移民の送金、觀光事業の收入等貿易外の收支勘定があるため、實際は入超も調節されることが多い。英國は入超國であるが貿易外の收入によつて調節され、米國



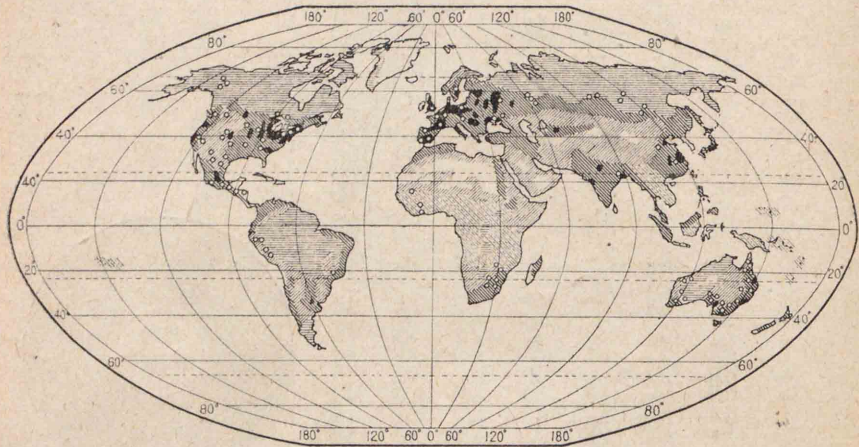
鹽釜港の魚市場



は出超の上に、貿易外の收入もある投資國である。我が國は入超國であるが、貿易外收入を加へると受取超過になる。又輸入品を再輸出して通過貿易又は仲繼貿易を行ふ英、蘭、白等の如き國もある。開港場又は開市場に稅關を設けて自國産業(國內産業を保護する保護貿易主義の國もあれば、稅を課さない自由貿易主義の國もある。然し最近は經濟的國家主義が盛となり、自國産業を保護するため、各國とも保護貿易主義をとらざるべからざる國際情勢となつた。従つて片貿易を避けるため求償主義(バーター主義)が高唱されるに至つた。開港場には眞の仲繼貿易のために設けられた自由港もある。



世界の重要産業圖



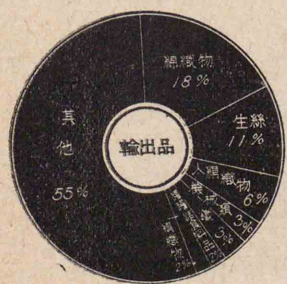
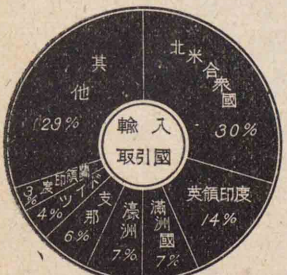
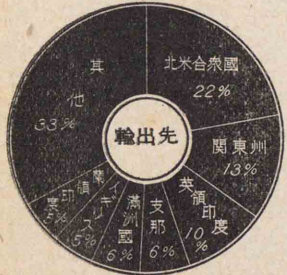
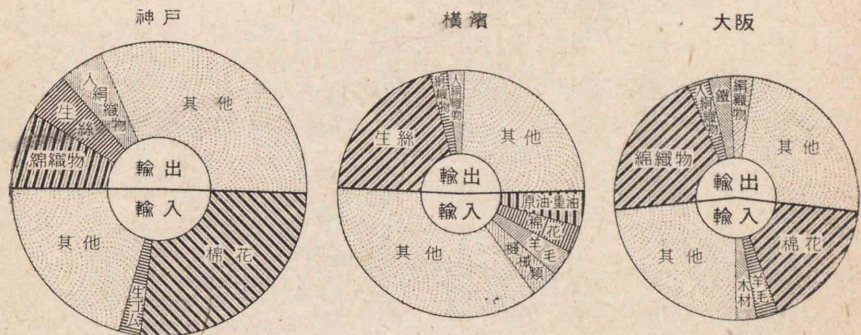
■ 狩獵及漁業 □ 原始農業 ▨ 牧畜業 ▩ 農業 ■ 工業・鑛業

類鐵罐罐詰食料品が近來著しく擡頭して來た。輸入品は棉花が依然首位を占め、羊毛鐵が之に次ぎ、石油生ゴム等が新に進出して來た。本邦の輸出先は米國・關東州が主で、英印・支・滿・英・蘭印之に次ぎ、輸入取引國は米・英印が主で、滿・濠・支・獨・蘭印之に次ぎ、原料資源の輸入が多い。輸出入總額から見

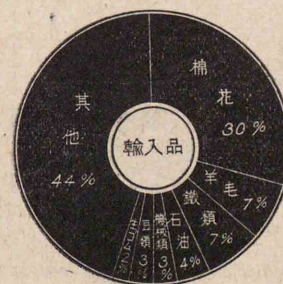
列國貿易(再輸出入を含まない)一金貨換算額(單位百萬圓)一

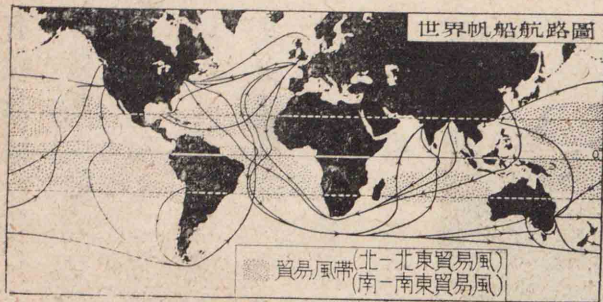
國名	輸出	輸入	合計
英 國	二、四七九	四、〇八四	六、五六三
米 國	二、六六二	二、四二〇	五、〇八二
獨 國	二、〇四〇	一、九八七	四、〇二七
佛 國	一、二一一	一、六四一	二、八五三
日(内地)	八三六	八二六	一、六六二
伊 國	三六二	五五六	九一八
蘇 聯	三七八	二四八	六二六

神戸・横濱・大阪三港の主要輸出入品割合



貿易の趨勢 世界の貿易額は英國が第一位で、米・獨・佛等之に次ぎ我が國は第五位である。我が國は近年國際市場に著しく進出したので、各國は各種の防遏手段を講ずるに至つた。本邦輸出品の主要なものは綿織物と生絲で、綿織物は從來輸出の大宗であつた生絲を抜いて首位となり、人絹織物は絹織物を遙かに凌駕して第三位を占め機械

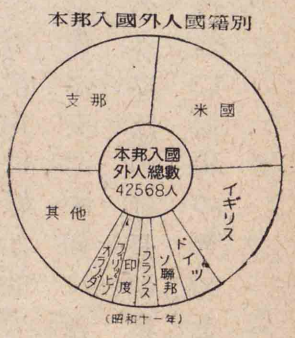




交通の變遷 近時の交通は家畜馬車・牛車に代る自動車・汽車・電車・卓越風利用の帆船に代る汽船・新たな航空機等によつて面目が全く一新し、通信制度も進み、

第九章 交通

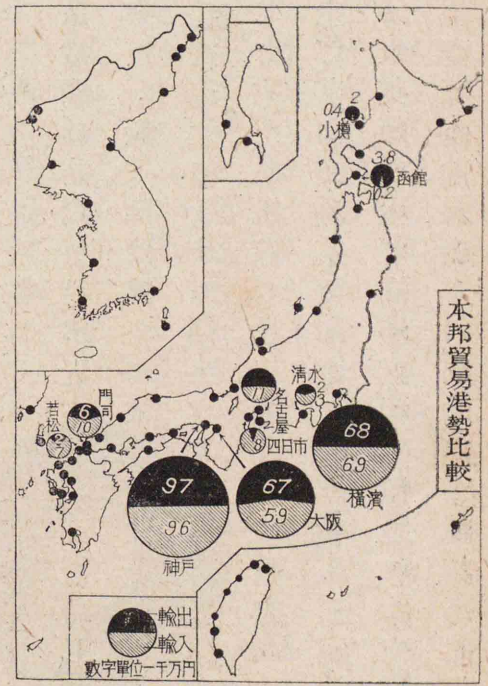
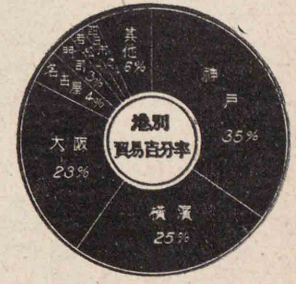
の消費額は九千萬圓の多額に上つてゐる。渡來外人の四割は觀光客で、その内米人が最も多く英人が之に次いでゐる。



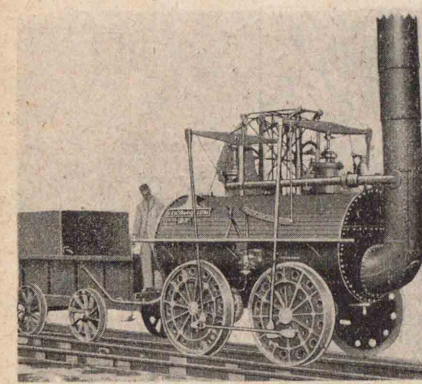
觀光事業

觀光事業は國際收支の一産業と認められ、世界各國は競つて國策的立場より之が發達につとめてゐる。我が國も亦國際的觀光事業に力を盡し、民間の觀光協會と提携して觀光宣傳、觀光施設の完備、觀光客の接待等に努力してゐる。本邦入國外人數は一年約四萬人を算し、その消費額は九千萬圓の多額に上つてゐる。渡來外人の四割は觀光客で、その内米人が最も多く英人が之に次いでゐる。

ると米國首位を占め、英印關東州・滿濠・支蘭印等が之に次ぎ、歐洲諸國は大でない。國際市場に於ける我が國と英帝國とは競争の立場にあり、英印・濠洲等では既に問題を惹起した程である。英帝國は從來の自由貿易主義を捨てて、近來保護貿易主義に轉じた。近來は日英兩國共に西部亞細亞・阿弗利加東西岸中・南米等に新商圏を開拓せんと努力しつつある。我が内地の貿易港は神戸・横濱・大阪の三大港が主で、名古屋・門司若松・四日市・清水・函館等之に次ぐ。



有線無線の電信電話も普及して敏活な能力を發揮するに至つた。然し今尙世界各地の住民の文化には著しい差異があり、交通機關の種々相は歴史的發達の過程を平面的に見せてゐる。擔夫の外、牛馬、熱帶の象

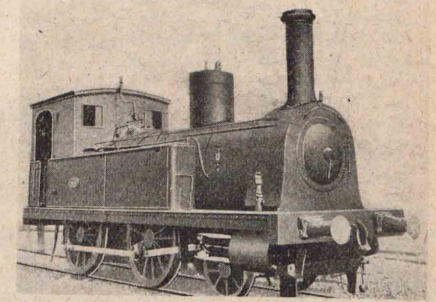


世界最初の機關車

寒帶の馴鹿、北地の橇用の犬、沙漠の駱駝、西藏高原の犛牛、アンデス山地のリャマ等の使用は原始的で、且地方色を表してゐる。現代の交通は實に世界的で、各國とも各種機關の交通路の延長、回數の増加、高速度化設備の改善等に最善の努力をつくしてゐる。

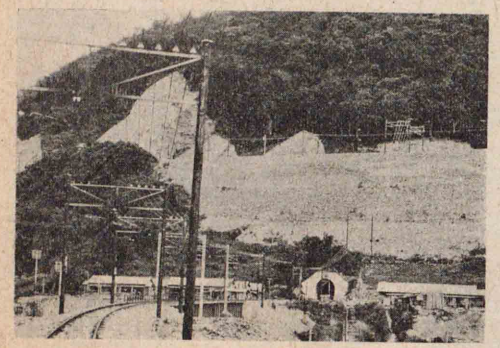
列國の鐵道

列國名	總延長 (千呎)	面積 に つき (千 呎)	人口 萬に つき (千 呎)
日本(内地)	二二・二	六・一	三・四
米國	四一・五九	四・四	三二・九
蘇聯	八一・五	一・七	六・四
佛國	六四・六	一一・七	一五・四
獨逸	六八・七	一四・六	一〇・三
英國	三二・八	一三・六	七・一
伊國	二三・〇	七・四	五・四
白國	一〇・二	三三・六	一二・四

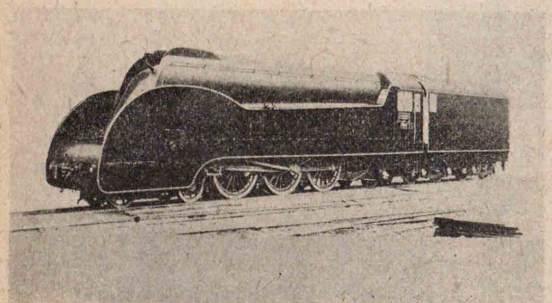


我が國最初の機關車

我が國は乗客が主である。我が國は歐米の廣軌に對して狹軌であり、山地が多くカーヴ・トンネル・勾配等、列國に比して不利な點が少なくない。最近特急の速力も増大し、鐵道の電化も行はれてゐる。



清水トンネルとループ線



本邦最新の流線型列車

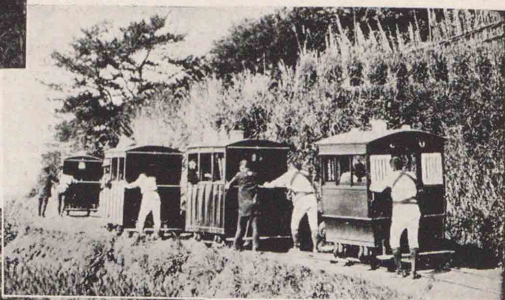
鐵道 鐵道の延長距離は米國が第一位で、露英印之に次ぎ、我が國は第一位で米國の一八分の一に當る。又面積に對する延長の割合も人口當りの割合も、共に列國に比して遜色がある。ただ鐵道の利用率からいへば、世界第一位であるが、各國の貨物收入の大なるに比し、

交通機關の變遷

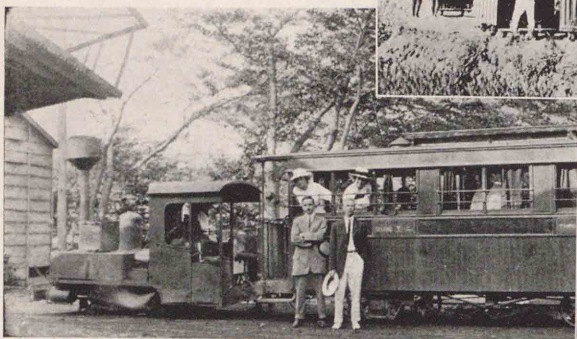
(小田原・熱海間)



← 駕籠

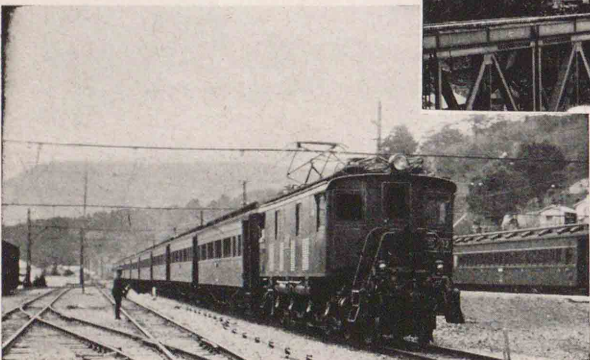
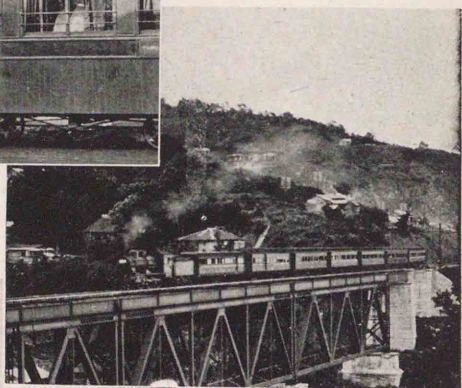


人車 →



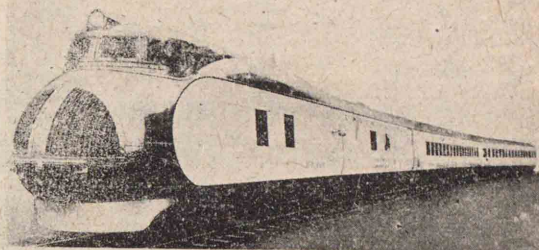
↑ 軌道

汽車 →



← 電化

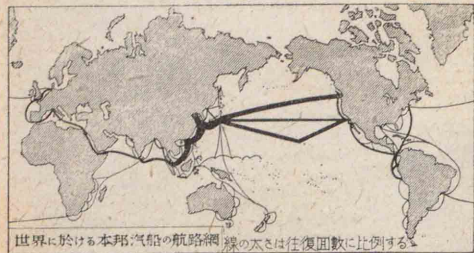
電車が普及し、又世界の主要都市には地下鐵も盛に敷設されつゝある。
道路 我が國には京都及び江戸を中心として全國に通ずる放射狀主要街道と、脊梁山脈横路斷とが發達してゐた。



世界最新の流線型列車

る。
 各大陸には横斷縦貫の鐵道があり、世界の各主要都市を結んでゐる。北米の横斷鐵道、歐洲の急行線、西比利亞鐵道、滿鐵、京義、京釜、山陽、東海道の諸線等は世界の幹線の一部を形成する。主要都市には路面

本邦自動車數は累年増加し、昭和元年に比すれば約三倍半に、大正十年に比すれば約二倍に増加してゐる。
 本邦自動車の分布は東京最も多く、大阪これに次ぎ、その他は神奈川、兵庫、愛知、静岡、京都、福岡等の諸府縣に多し。



世界に於ける本邦汽船の航路網 線の太さは往復回数に比例する

我が内地の自動車数は近年急速の増加を見たが、世界第一位の米國に比すると、その二三分の一に過ぎない。内地の自轉車は人口一人一人に付き一臺の割合で比較的普及してゐるが、各國に比すれば尙發達の餘地がある。

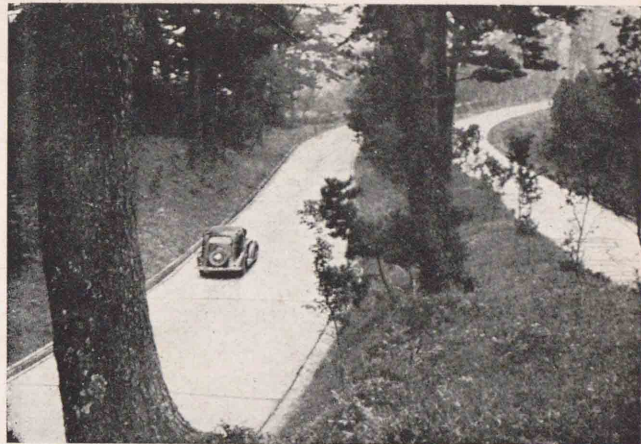
航路 大西洋の交通は最も頻繁で、且巨大な快速船を有し、僅か四日間で歐米兩文化地帯を連絡することが出来る。太平洋の交通は日米兩國が中心で、將來の太平洋時代の出現が期待されてゐる。スエズ・巴奈馬の兩運

各大陸には海岸平野及びアルプス・ロッキアンデス等の脊梁山脈通過の主要路があつた。然るに鐵道の發達に伴つて、一時荒廢したが、最近自轉車・自動車の發達につれて復活し、道路も舗装され、却つて鐵道交通を侵略するに至つた。

列國自動車數

列國	自動車數	一臺當人口
獨國	一、二〇四	六〇
英國	二、〇二八	二三
佛國	二、二八二	一九
米國	二六、二六九	五

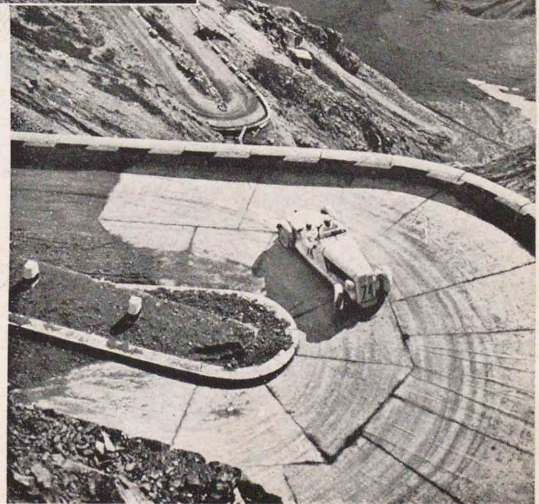
舊道
新装の東海道



↑羅馬郊外の羅馬舊道

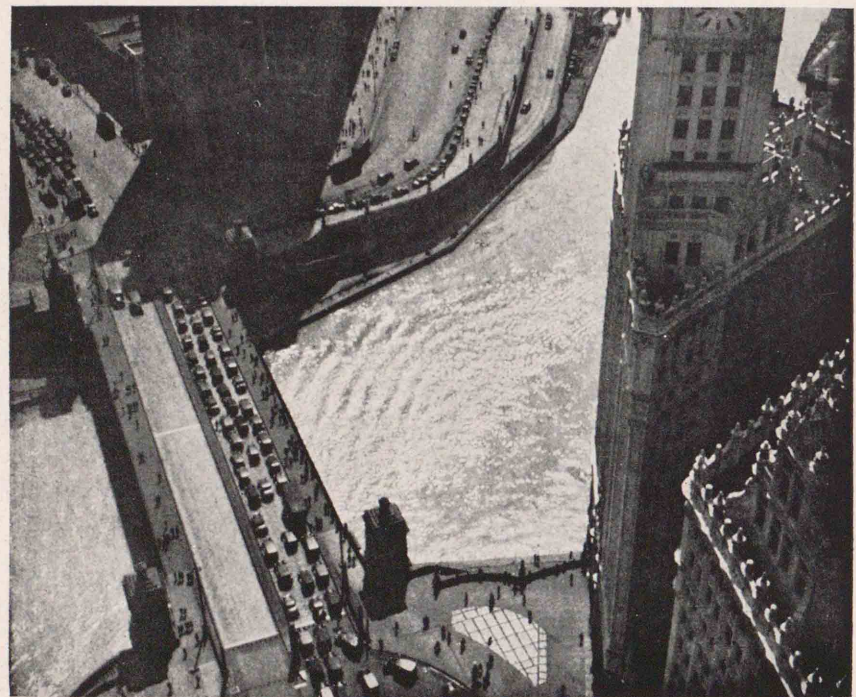


↳ 瑞西アルプス山中の新山道



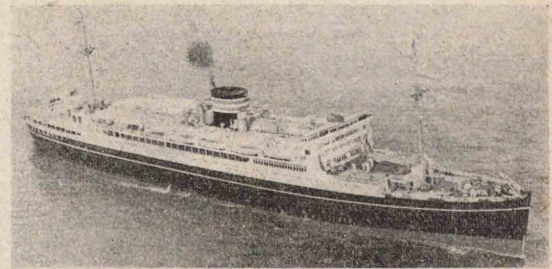


パリエトアール廣場に於ける交通相



シカゴ市シカゴ河畔の交通相

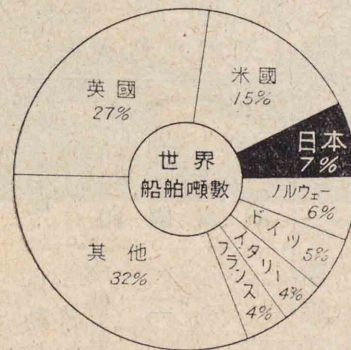
び濠洲に於ては日英海運の競争さへ生じてゐる。
 内陸水路交通としては運河、北米の五大湖の外、世界の大河、國際河川



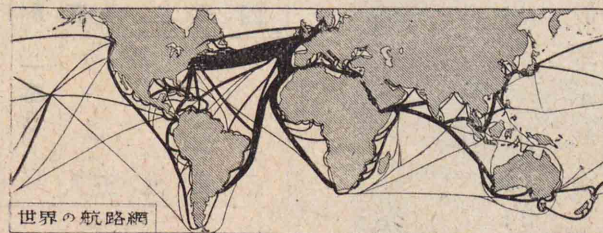
アメリカ航路の秩父丸

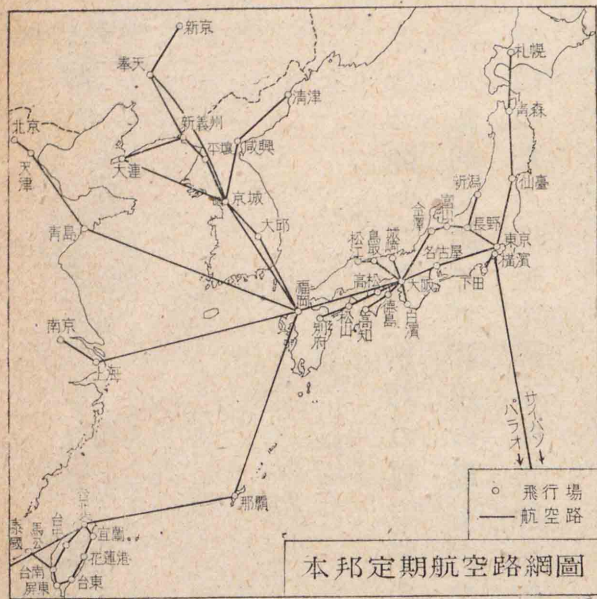


紐育埠頭に於けるクインメリー號



河の開通は世界の航路を著しく短縮せしめた。
 英國は世界船舶總噸數の三割を占め、米國之に次ぎ、我が國は第三位を占めてゐる。我が社は世界に定期航路を、社外船は不定期航路を有し、亞細亞及





航空路

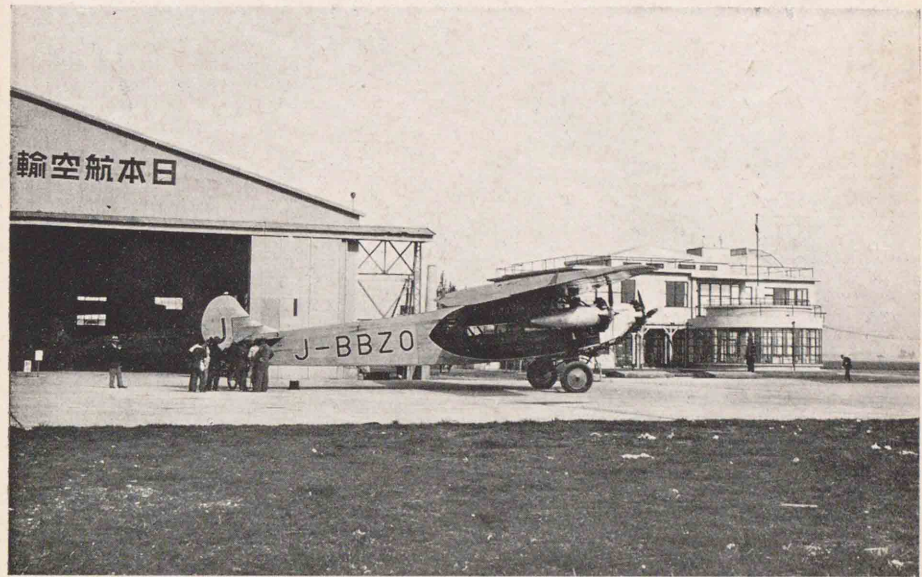
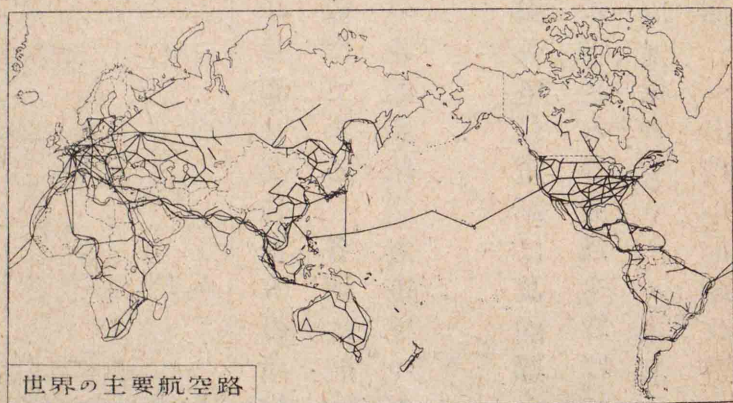
我が航空事業は定期航空路延長

等は可航水路が長い。我が國は地勢の關係上、可航水路は極めて短かく、運河も亦極めて稀である。

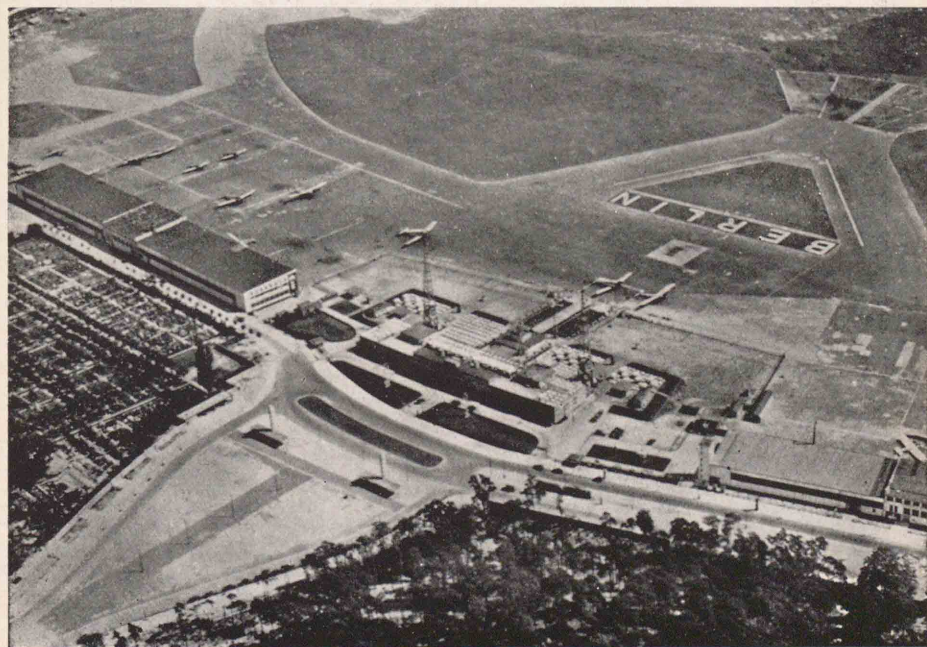
飛行機數飛行場數操縱士數等何れも各國に伍すべく充實をはかつてゐる。

航空路網

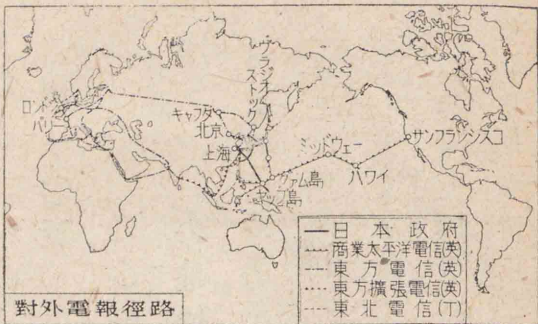
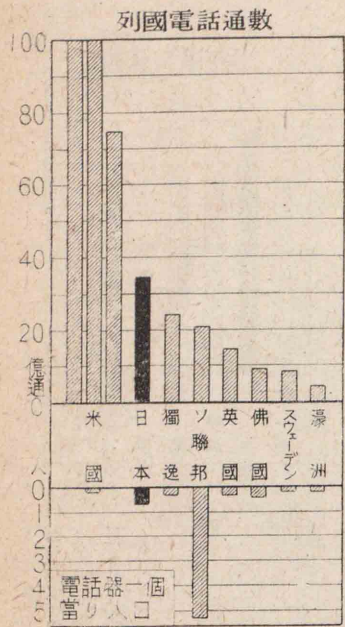
は歐米に比すれば亞細亞は疎である。太平洋・大西洋は航空路も歐米人に



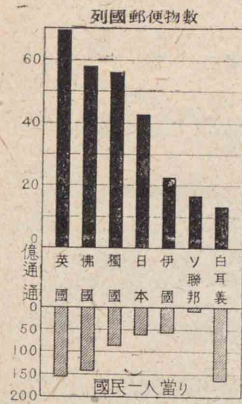
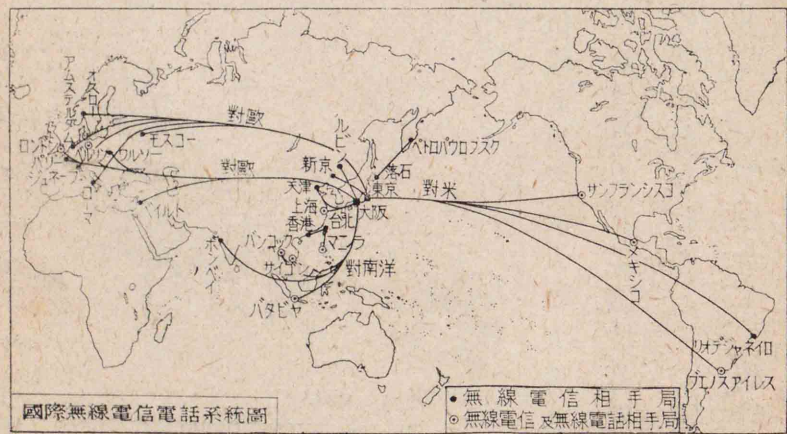
東京航空港



伯林の航空港



利亞・印度・米國通過の三經路がある。我が國は又世界の無電網に加はり、對米・對歐・對極東・對南洋局があり我が國の電話は殆ど各國と通信が可能である。都市の發信電報數の多少はその地の經濟度及び文化度を示す。



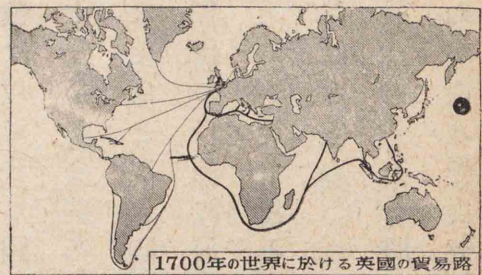
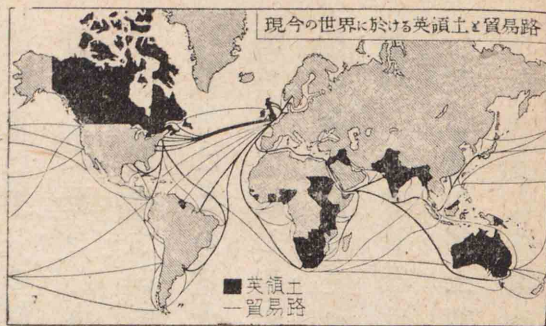
通信 我が國の郵便・電信・電話は萬國聯合の條約に加盟し、列國に遜色なき發達を遂げてゐる。郵便は歐洲へは西比利亞・スエズ・北米三經由により郵送し、歐洲への有線電信路は西比

よつて開かれた。本邦の航空路中、内鮮・内臺・南洋・日滿・日支・日泰等の諸線は比較的長距離で利用の最も大なのは東京・大阪間である。各國は航空發達のために航空港・不時着陸場・航空燈臺・航空氣象觀測・航空無電等の充實にとめてゐる。

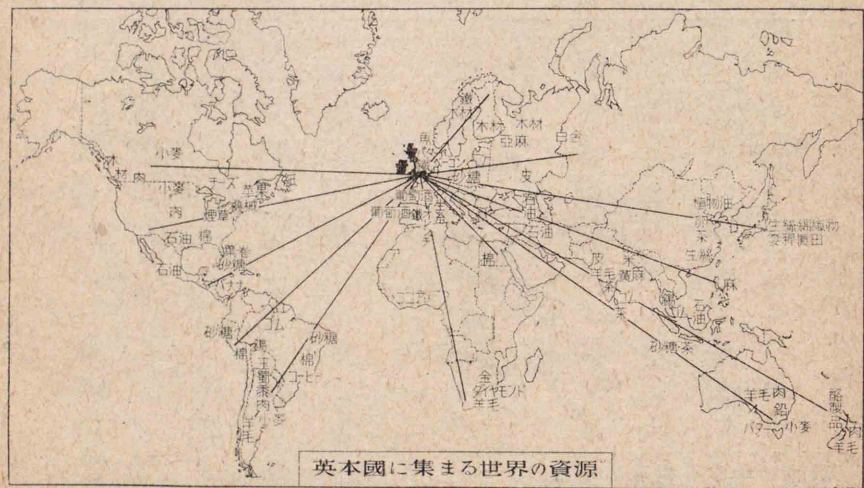
列國民間航空事業比較

國名	民間航空 (百萬間)	飛行機間 (臺)	操縦士數 (人)	定期航空距離 (千呎)	民間飛行場數	定期航空距離 (萬呎)	定期航空旅客量 (千人)	定期航空貨物量 (萬噸)	定期航空郵便量 (萬)
英	121	297	477	48	397	733	135	113	25
米	23	339	949	102	334	6820	537	134	35
獨	282	1578	500	50	231	426	165	322	77
佛	82	933	475	49	112	1003	50	134	22
日	2	235	696	5	22	186	12	6	20

過去を歴史を展開し來つた事實に鑑み、我が國のそれと極めて類似する。彼が大西洋時代の覇者として光輝ある

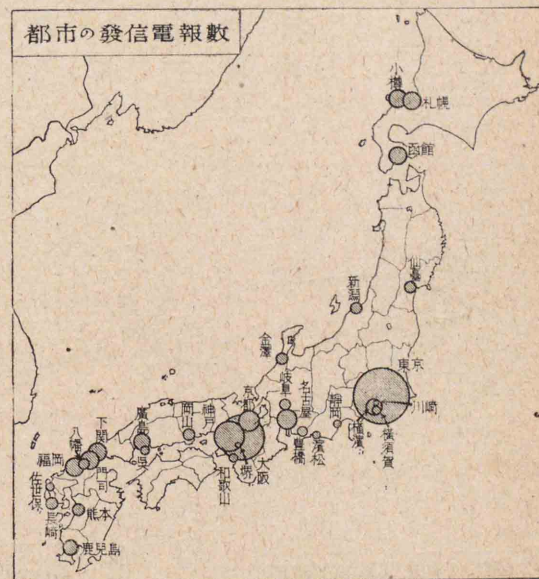
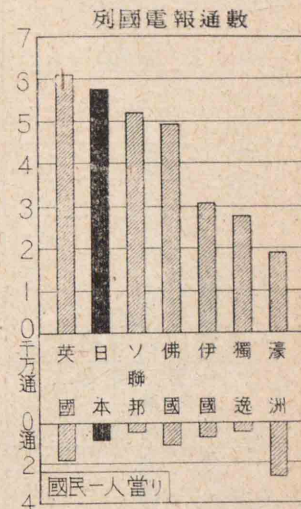


第一に膨脹し、英、佛、獨、蘇、諸國と伍して世界の強國の一



第一〇章 世界に於ける我が國の産業・交通の地位

我が國は歐米と隔絶した東亞の季節風帯に位置し、世界最大の大陸と大洋とに抱かれてゐる。かゝる自然的好位置に恵まれた我が國は萬世一系の天皇を戴く立憲君主國として、世界無比の國體を有し、而もその國民は忠君愛國の國民性をもち、よく東西兩洋の文化を咀嚼融合して、獨特の新文化を建設した。かくして我が國運は進展の一路を辿り、國土亦次

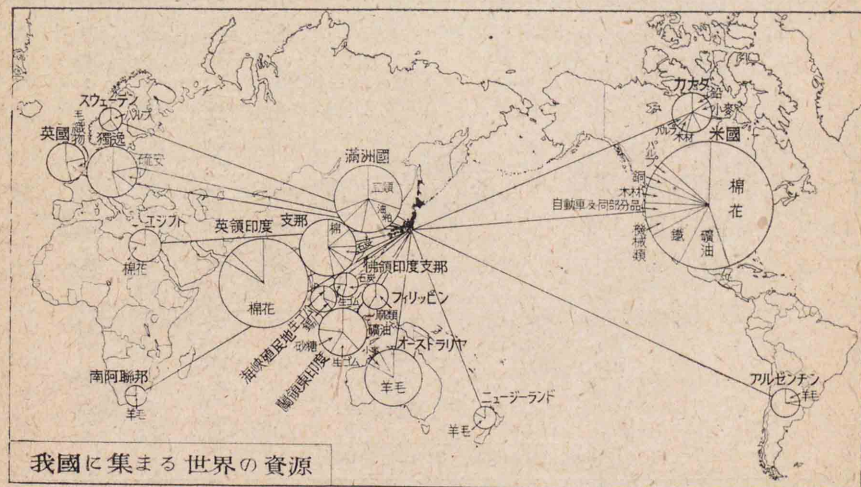


は來るべき太平洋時代の王者として國際競争場裡に活躍すべき重大なる使命あることを痛感する。

我が國が過去半世紀に於て産業・交通何れの方面に於ても驚歎すべき躍進を遂げ遂に東亞第一の強國として英・米兩國に比肩するに至つた事績は、以て我が國將來の進展を期待するに十分なものがある。

我等はこの重大な使命と、我が國土の實情とを認識し、英・米・獨・伊の世界に於ける地位と、我が國のそれとの對比に鑑み、これが對策を考慮しなければならぬ。

我が國の領土面積は、世界第二四位で、未だ大なりとは云へぬが、南北緯度五〇度に



第十章 世界に於ける我が國の産業・交通の地位 118

互り、海面上の面積は著しく大である。従つて寒・溫・熱三帯の性質を具有し、利用價値は大であるが、土地は狹隘で山地が多い。加ふるに本國の人口・人口密度共に甚だ大で、何れも世界の第四位を占め、人口増加率に至つては、世界の第一位を占める状態である。一人當りの耕地面積は列強に比して極めて小で、集約的方法に依つて僅かにその缺陷の一部を補つてはゐるが、到底之を以て國家を維持するには十分でない。

國民の食料問題・生活問題が叫ばれ、移民・植民の問題が論議せられる所以は即ちこゝにある。

次に本邦の交通について之を見れば、鐵道交通は列強に比して遜色無く、幹線中には世界的幹線の一部としての使命を帯びるものもあり、航路による交通に至つては、英・米と並んで世界の海運界に雄飛してゐる状態である。航空路による交通は列強に比して未だ發達が著しくないが、郵便・無線電話による世界的通信網は完備してゐる。かく水陸・空に於ける我が交通運輸・通信の發達は世界列強と伍し、且極めて密接な關係に

あると謂ふことが出来る。

更に我が國の天然資源に就いて考察すれば、一般に保有量甚だ乏しく、輸出超過の資源は生絲・絹・硫黄の三者で、内生絲のみが世界第一位の産額を占めるに過ぎない。需給の略均衡せる資源は銅・石炭・黒鉛一部分外國に依存する資源は鐵・鉛・亞鉛・木材等で、その内銅・石炭・鋼鐵の三者が共に世界の第六位を占めるに過ぎない。

之に反して大部又は全部を國外に依存する資源は、錫・ボーキサイド（アルミニウムの原料）・ニッケル・石油・白金・ゴム・棉花・羊毛・亞麻・黃麻・大麻・マニラ麻等の多きに上り、その内石油の消費額は世界第九位、羊毛の消費額は世界第六位、生ゴムの消費額は世界第三位、棉花の消費額は世界第二位の多額に上つてゐる。

國內不足の割合
資源の割額
重要資源の割額
邦需要額
本邦需要額又は

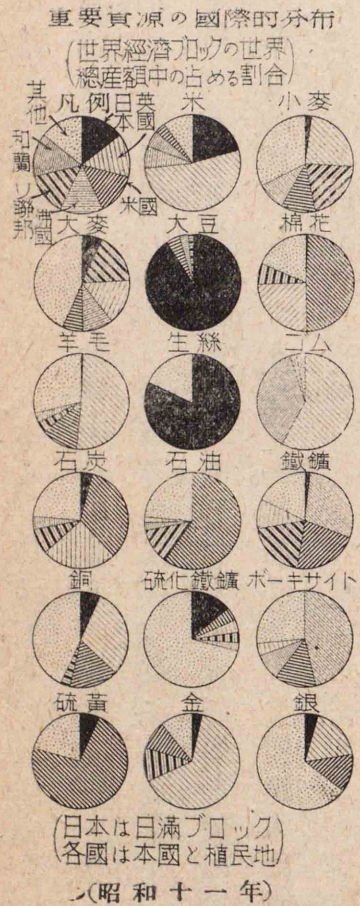
品 種	%	品 種	%
鐵 鑛 (二)	八四	鉛 (二)	九三
銑 鐵 (二)	三一	錫 (二)	七六
鋼 材 (十)	五	棉 花 (二)	〇〇
石 炭 (二)	七	羊 毛 (二)	〇〇
石 油 (二)	九二	ゴ ム (二)	〇〇
銅 (二)	三六	生 絲 (十)	二〇
亞 鉛 (二)	五〇		一

(昭和十一年)

かくの如く棉花・羊毛・鐵・ゴム等の近代工業に必須な原料品の凡ては輸入に仰がざるを得ず、殊に綿織物・人絹絲・人絹織物等の世界第一位を占むる輸出品の原料の殆ど全部を輸入に俟つことは、原料資源に乏しい我が國の産業の特異性を示すものと謂ふべきである。

鐵鑛・石油の重要資源に至つてはその保有狀況甚だ寒心すべき状態にあり、比較的豊富に埋藏されてゐる石炭すら、世界炭量の八〇〇分の一を産するに過ぎない。たゞ動力源としては、水力電氣のみが比較的豊富に恵まれてゐる。

米は大量に生産されるが、自國消費に不足することもある。生絲は價格の變動甚だしく、且つ人絹の壓迫を蒙



り、輸出品の第二位に落ち、將來を憂慮されてゐる。日滿支及び南洋を合せた東亞ブロックの形式によつて、我が國は鐵・石炭・石油その他の重要礦物資源、米・小麥・大豆・甘蔗等の食料資源、棉・生ゴム・麻等の工藝用農産資源、羊毛・皮革等の畜産資源、木材・パルプ等の林産資源、食鹽等の水産資源等を、他の大陸に依存することなしに自給し得て、それ等の製品によつて、同地方に商圏を擴充することを得る。

土地・人口・資源の三者が、敍上の如き状態にある我が國は、農・山・漁・村を更生し、中小商工業を振興し、大商業・大工業を發展せしめ、以て産業の綜合的發達を計り、原料品を輸入し、輸出品の生産を増進する必要がある。我等は宜しく國際協調の下に、外國貿易の伸展、海外原料資源の確保、海運の發展、海外移民の奨励に力め、以て我が經濟力の充實をはかるべきである。

現下の我が國の使命は、東亞の新秩序の建設にあつて國を擧げて興亞の大業に全力を傾注してゐる。亞細亞諸國の提携は、政治的・經濟的・文化的に見て極めて自然の歸趨である。日滿支を樞軸としての東亞を中心

とした全アジヤの有機的結合こそ、我が國家の生存圏の確立に於て最も重要な要素である。こゝに於て我が國は世界の新態勢に對應し、亞細亞の安定勢力を確保するため、國防・外交・經濟の新體制を整へ、國民精神の發揚に力め、以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉り、國勢の發展を企圖すべきである。

かくして國民精神を昂揚し、國民經濟の充實するは、たゞに我が國運發展に貢獻するばかりでなく、實に八紘一字の皇謨を、宇内に宣揚すべき、我が國の崇高なる使命を全うする所以に外ならない。

昭和十五年十一月二十日
 昭和十四年十一月二十日
 昭和十三年十一月二十日
 昭和十二年十一月二十日
 昭和十一年十一月二十日
 昭和十年十一月二十日
 昭和九年十一月二十日
 昭和八年十一月二十日
 昭和七年十一月二十日
 昭和六年十一月二十日
 昭和五年十一月二十日
 昭和四年十一月二十日
 昭和三年十一月二十日
 昭和二年十一月二十日
 昭和元年十一月二十日



發行所

東京市神田區
 駿河臺三丁目一

著者

田中啓爾

發行者

東京市神田區駿河臺三丁目一番地
 目黑甚七

印刷者

東京市京橋區銀座西二丁目三番地
 高橋郁

印刷所

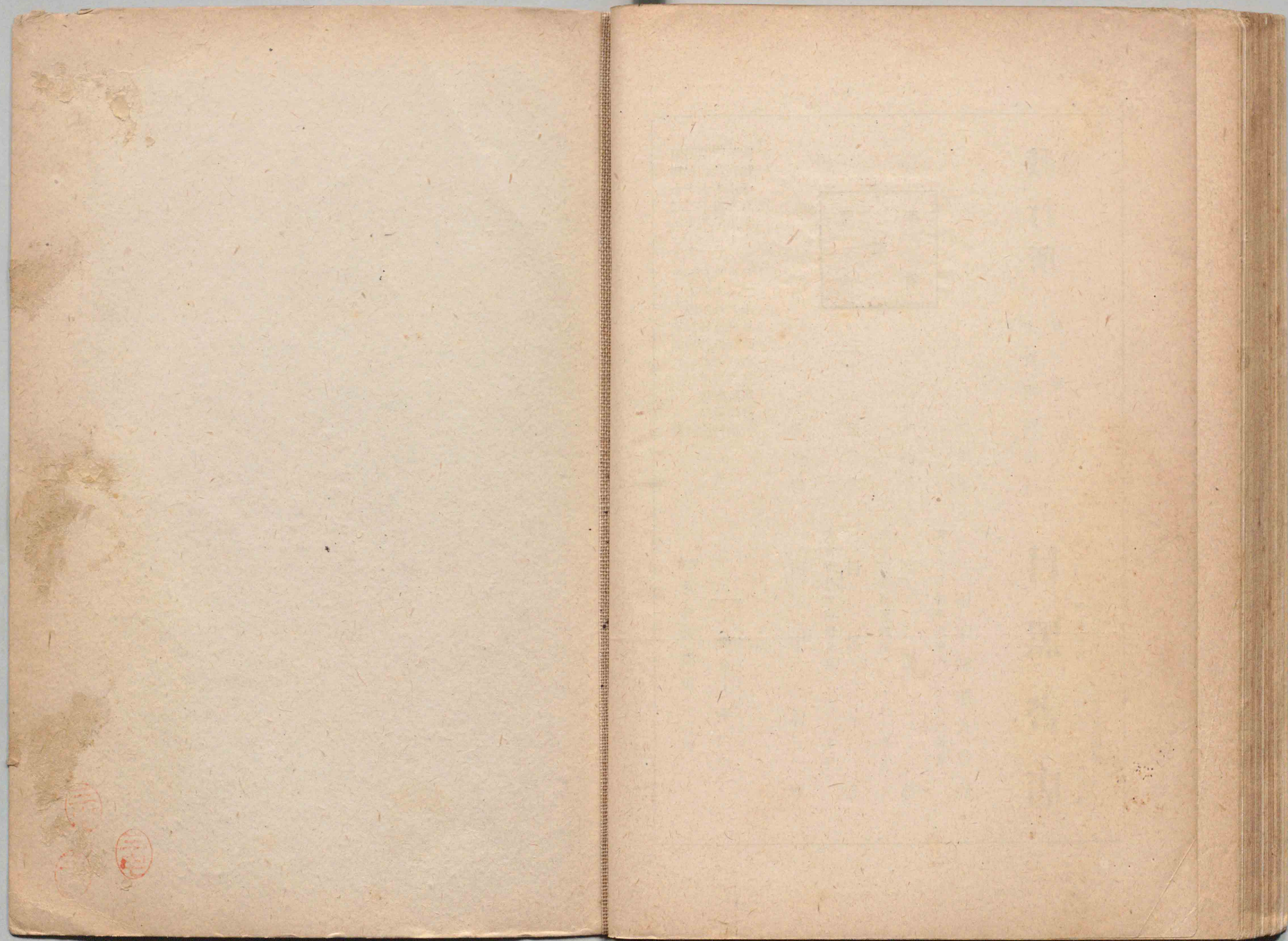
東京市京橋區銀座西二丁目三番地
 三協印刷株式會社

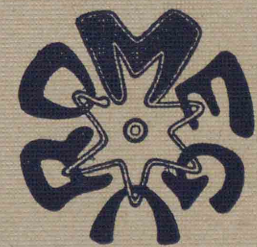
實業新地理概說 改訂版

定價金七拾四錢

目黑書店

電話神田一〇五八・二〇五九番
 振替東京二八〇九番(電信略號メクロ)





広島大学図書

2000041341

